国立大学の留学生

International Students at and from Japan's National Universities

発刊にあたって

本冊子は、国立大学が留学生のために実施している特色ある講義や教育プログラム、 さらに、留学生の卒業後の活躍やフォローアップなど、留学生関連情報をまとめて紹介し、 国立大学の教育や国際交流活動の一端を広く社会に紹介することとして発刊しました。

近年の留学生受入れについては、『留学生30万人計画』が政府の「グローバル戦略」展開の一環として政策として掲げられ、大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得することが求められています。その中において、国立大学は、世界から優れた留学生を受け入れることが責務であり、また、高度な人材養成という我が国が行う知的国際貢献の一つとして、極めて重要な役割を担っています。

今回、本冊子に掲載しました元留学生からのメッセージをお読みになると、留学によって 国立大学の卓越した研究とそれを反映した教育に触れて、母国に戻ってから教育者・ 研究者として活躍している方が多い一方、留学後も我が国に残って、さまざまな分野で活躍 している方も多数おり、国立大学が、知的国際貢献のみならず、我が国と世界との架け橋 となる人材養成にも貢献していることがご理解いただけると思います。

今後、我が国の施策として掲げられた『留学生30万人計画』を達成するためには、受入れ環境としても宿舎の確保や奨学金の充実、生活支援などの課題について、国を始め、各省庁や地域との総合的有機的連携により対処することが不可欠であり、その中で、国立大学としての使命・役割を十分に果たすために、より一層各国立大学が努力してまいります。

本冊子で紹介しているものは、国立大学に留学された方、国立大学として実施しているプログラム・事業などの一部ではありますが、皆さまにご覧いただいて、我が国の留学生ひいては留学制度における国立大学の役割・存在意義をご理解いただければ幸いです。国立大学への一層のご理解とご支援をお願いいたします。

平成21年3月

社団法人 国立大学協会 広報委員会委員長 丸 本 卓 哉

第1章 留学生受入れの概要

留学生数の推移/出身地域別留学生数	002
惠政分野別留学生数	003

第2章 留学生が母校を語る

母国(海外)で活躍している方々

『北海道大学に留学して』 巴 徳年∕Ba Denian【北海道大学】	006
『憧れの日本語』 張 金塗/Chang Kingtu【広島大学】	007
『日本の教育制度を学んで』 ジェフリー ベイリス/Jeffrey P. Bayliss【宮城教育大学】	008
『日本式を享受して』 ヨセフ グリル/Joseph Gril【京都大学】────────────────────────────────────	009
『青春時代の5年間』 唐 駿/Jun Tang【名古屋大学】	010
『大学間交流の活性化に向けて』 金 知寛/Kim JieKwan【電気通信大学】	011
『日本との緑を末永く』 梅 傲寒╱Mei Aohan【群馬大学】────────────────────────────────────	012
『日本で学んだ精神をタイで生かす-泰日工業大学の設立と元留学生 -』プラユーン シャオワッタナー/Prayoon Shiowattana【大阪大学】	013
『父の母校、九州大学』 ロバート ファン/Robert Huang【九州大学】	014
『アジアの先端科学知識などに触れる機会』スラポン・ワタナチラ/Suraphong Wattanachira【東京大学】	015
『日本語教育への道標を得て』 徐 敏民/Xu MinMin【横浜国立大学】	016
『マレーシアの日本語教師として』洪 翠娟/Ang ChooiKean【東京外国語大学】	017
『姉妹校への思い』アティファン ピンカオカム/Atiphan Pimkhaokham【東京医科歯科大学】	
『多くの先生、友達に「ありがとう」』 全 炯日/Cheun Hyengil【帯広畜産大学】	
『3度、島根を訪れて』 ヘルマンサ/Hermansah【島根大学】	
『日本とインドネシアの友好50周年』 ヘリー スハルディヤント/Herry Suhardiyanto【愛媛大学】	021
『 真の価値への追求』 黄 河守/Hwang Has【一橋大学】	
『モンゴル初の日本式高等学校を開校』ジャンチブ・ガルバドラッハ/Janchiv Galbadrakh【山形大学】	023
『指導方針により得た自信』 ホセ ロベルト キフリ ジュニオル/Jose Roberto Kfoury Junior【東京海洋大学】	
『偶然な幸運』 キムティフォンワン/Kim Thi Phuong Oanh【奈良女子大学】	025
『異なる価値観を学んだ留学』 北川 満志/Kitagawa Mitsushi【徳島大学】	026
『日本語教育の道』 冷 麗敏/Leng Limin【東京学芸大学】	027
『人生を変えた恩師との出会い』 モハメド・イスマイル・ホセイン/Md. Ismail Hossain【高知大学】	028
『さらなる国際的な発展を』モハマッド レザウル カリム シェイク/Md. Rezaul Karim Sheikh【北陸先端科学技術大学院大学】	029
『態度は全てを決める、細部こそ勝敗を決める』 孟 繁巨/Meng FanJu【室蘭工業大学】	030
『環境100%の大学』 レンマンス クーン∕Renmans Koen【琉球大学】────────────────────────────────────	031
『享受した忍耐強さと技術』 リチャード フォックストン/Richard Foxton【東京医科歯科大学】	032
『日本での私費留学体験』 リフキ・ムヒダ/Rifki Muhida【大阪大学】	033
『留学中の貴重な体験と現在』 トゥミラン/Tumiran【埼玉大学】	034
『留学から15年、今に繋がる研究を振り返って』 王 建濤/Wang JianTao【東北大学】	035
『 災いから貴重な縁に…』 楊 建華/Yang Jianhua【岩手大学】	036
『万葉の故郷、奈良で学んで』張 忠鋒/Zhang Zhongfeng【奈良教育大学】	037
『長岡技大で見つかった宝物』 ダン ダン トゥン ∕ Dang Dang Tung【長岡技術科学大学】────────────────────────────	038
『学問と日本文化への羨望』 竇 婉/Dou Wan【神戸大学】	
『日本の木版画を学んで作品のイメージが深化』 ハサン キラン/Hasan Kiran【東京藝術大学】	040
『 理論的な面より実感ができる教育が重要』 鄭 眞僖/Jeong JinHee【鳴門教育大学】	

 『第二の故郷、熊本』金 在美/Kim Jae mi【熊本大学】
 042

 『日本留学の夢を叶えて』李 斉/Li Qi【福岡教育大学】
 043

	『鳥取大学、最高です!』 李 岩/Li Yan【鳥取大学】	044
	『 桜満開の季節』 鹿 琪/Lu Qi【東北大学】	045
留学	『国際人権法を学び、司法官として活躍』 マラ・モー∕Marlar Maw【新潟大学】	046
子 第	『日本語が世界の窓口に』 ナスティオン/Nasution【兵庫教育大学】	047
始 期	『かけがえのない日々』 朴 宰用/Park JaeYong【上越教育大学】	048
期間:2000年	『たゆまぬ努力を明日のために』 ピシット ブーンスリムアング/Pisit Boonsrimuang【三重大学】	049
	『稲作国という共通点から』 タテバ・サパングトーング/Thatheva Saphangthong【京都大学】	
	『日本人読者との文字の交流』 王 暁霞/Wan XiaoXia【山口大学】	051
代	『日本語の壁を乗り越えて』 呉 珍之/Wu Zhenzhi【秋田大学】	052
	『留学のきっかけから共同研究への繋がり』 馬木堤 吾拉木/Wulamu Mamuti【旭川医科大学】	053
	『悲願の日本留学』 肖 冬元/Xiao Dongyuan【佐賀大学】	054
	日本国内で活躍している方々	
留	『石の上にも3年』 陳 蘭庄(荘)/Chen Lanzhuang【宮崎大学】	055
字(開	『障害児教育の実践力』 鄭 仁豪/Chung Inho【筑波大学】	056
始期	『鎖国性を打ち破るために、新しい考え方を』 井手 亜里/lde Ari【京都大学】	057
间 { }	『成長の礎』 呢喃/Ninan【大阪教育大学】	058
1 9 8	『理想・理念のある留学生受け入れ政策を』 リッターポン・イッティ/Rittaporn Itti【東京大学】	059
ō 焦	『東京外国語大学に学んで』 玉井 順南/Tamai SunNam【東京外国語大学】────────────────────────────────────	
7	『学ぶべき先進国、日本』 厳 浩/Yan Hao【山梨大学】	061
	『 平和を支える科学創造と繁栄を求む学問の殿堂』 全 炳德/Jun Byungdug【長崎大学】	062
紐	『 地方に根ざした大学から世界の発展に力を』 管 益成/Kan Masunari【宇都宮大学】	
学	『 日本と世界の架け橋となるために』 キン・マゥン・トゥン/Khin Maung Tun【北海道大学】	
開始	『 PCRの手法を会得し、応用する』 金 惠淑/Kim HyeSook【岡山大学】	
期 問	- 『 国際的な大学、我が母校』 金 周映/Kim Jooyoung【豊橋技術科学大学】	
1	『 快適な留学生活』 林 広麗/Lin Guangli【富山大学】	
9	。 『第二の故郷「日本」で得たもの』 劉 秋影/Liu Qiuying【弘前大学】	
焦		
T	- 『 国境を越えて、理解し合うこと』 唐 寧/Tang Ning【金沢大学】	
	『 工業先進国「日本」』 阿里木江 依明/Alimujiang Yiming【北見工業大学】	
	『勉学と私生活と将来と』 鮑 松偉/Bao Songwei【滋賀大学】	
	『私の日本生活』蔡 峰花/Cai FengHua【岐阜大学】	
	『光陰矢の如し』曹 振波/Cao Zhenbo【鹿屋体育大学】	
	『私の好きな日本の精神』チョードリー・チューリン・タンビール/Chowdhury Turin Tanvir【滋賀医科大学】	
留	『一番好きな場所』高 揚/Gao Yang【東京工業大学】	
知.	『母校が新しい自分を鍛えてくれた』郭 登極/Guo Dengji【福井大学】	
始 朗	『 桜島の活火山に魅せられ』 ハフィーズ ウル レーマン/Hafiz Ur Rehman【鹿児島大学】	
消	『大学教員から留学生へ』蒋 莉/Jiang Li【香川大学】	
 2 0	『JTWへの参加をきっかけに』李 素沇/Lee Soyeon【九州大学】	
0	『予想していなかったこと』マンチャンダ プリーティ/Manchanda Preeti【京都教育大学】	
代	『デザインの基本「コンセプト」「独自性」を忘れずに』ファン ディン アン コア/Phan Dinh Anh Khoa【東京藝術大学】	
	『日本の文化・伝統に触れて』チャン・ティ・ヴィエト・ハー/Tran Thi Viet Ha【茨城大学】	
	『情報スキルを学ぶ』王 命玲/Wang Mingling【静岡大学】	
	『私の一生の宝物』王 冉/Wang Ran【九州工業大学】	
	『信頼・尊敬できるよき指導者との出会い』ザンコフ・ディミタール/Zankov,Dimitar Petrov【滋賀医科大学】	
	『無限の可能性を秘めて』鄭 希/Zheng Xi【信州大学】	



第3章 留学生のための特色ある講義や教育プログラム、事業(地域との交流事業等)、フォローアップ等

日本語教育プログラム・支援事業 (東京外国語大学/福井大学/名古屋大学/愛媛大学)	
日本文化理解 (弘前大学/東京学芸大学/島根大学)	
多文化理解 (千葉大学)	
 	
共同教育プログラム(東北大学/東京工業大学/長岡技術科学大学/静岡大学/三重大学 北陸先端科学技術大学院大学/ 神戸大学/岡山大学/広島大学/徳島大学)	096
ヤング・リーダーズ・プログラム (名古屋大学)	101
国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム (東北大学/東京大学/東京医科歯科大学)	
「魅力ある大学院教育」イニシアティブ (東京医科歯科大学)	
アジア人財資金構想(群馬大学/九州大学)	
他機関との連携プログラム(東京工業大学/筑波大学)	
地域との交流事業(北見工業大学/東京大学/東京医科歯科大学/京都大学/奈良女子大学/山口大学/鹿児島大	学)106
就職支援事業 (岩手大学/京都大学)	110
留学生同窓会 (帯広畜産大学/東北大学/東京大学/徳島大学/千葉大学/神戸大学/愛媛大学/山口大学/	
お茶の水女子大学/山梨大学/京都大学/大阪大学/福井大学/横浜国立大学/神戸大学)	111
第4章 留学生関連データ	
地方別留学生数/国費外国人留学生数	118
海外拠点の設置状況/日本人学生等の海外留学者数の推移	119
宿泊施設等の生活基盤の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	120
タナヴの宛口、声後生、監	
各大学の窓口・連絡先一覧	122

第1章

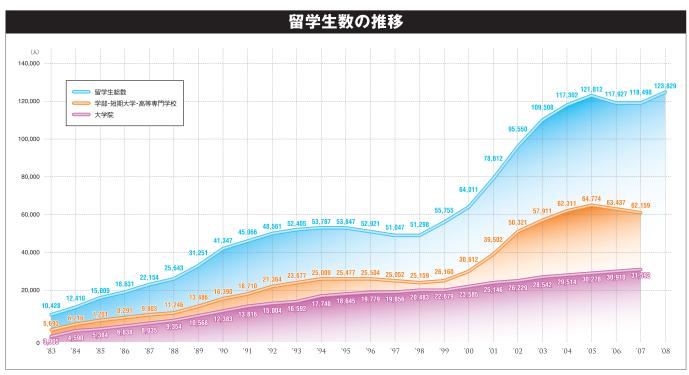
留学生受入れの概要

第1章 留学生受入れの概要 留学生数の推移/出身地域別留学生数

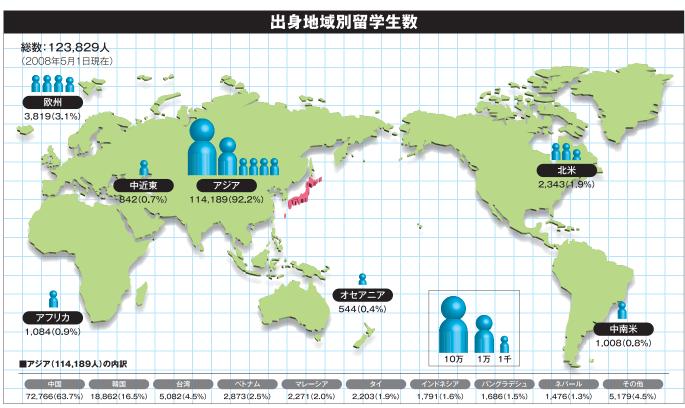
留学生受入れの概要

我が国の大学などで学ぶ留学生は、2008年5月1日現在123,829 人です。

政府の「留学生受入れ10万人計画」が1983年に策定されましたが、 受入れ数は5万人程度でいったん停滞した後、1998年以降急激に 増加し2003年には109,508人となり、20年を要してようやくその目標が達成されました。そして2008年は、日本を世界により開かれた国と、グローバル戦略の一環として「留学生30万人計画」が新たに策定され、2020年を目途にその目標達成を目指しています。



出典:文部科学省、(独)日本学生支援機構

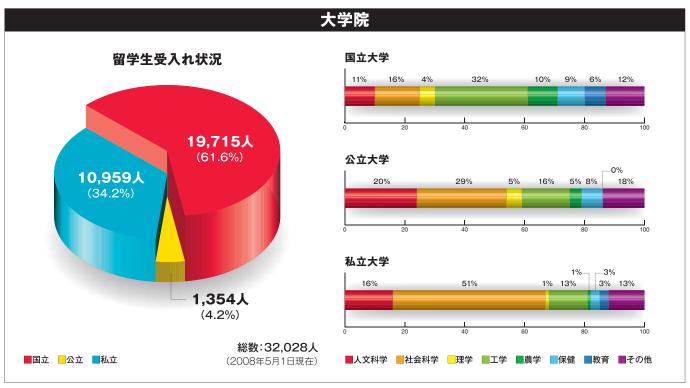


出典:学校基本調査2008

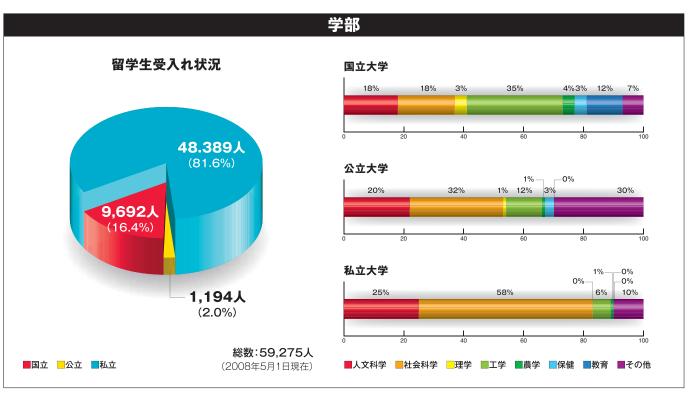
専攻分野別留学生数

国公私立大学比較による専攻分野別留学生数では、国立大学が理学・工学・農学といった理系分野で多くの留学生を受入れています。特に、科学技術を現実に支える人材は大学院修了者ですが、その60%以上の留学生が国立大学で勉強・研究に勤しんでいます。世界

から、優れた留学生を戦略的に獲得すると同時に、各国の高度な基幹 人材養成という我が国が行う知的国際貢献の一つとして、極めて重要 な役割を国立大学は担っています。



出典:学校基本調査2008



出典:学校基本調査2008

第 2 章

留学生が母校を語る

母国(海外)で活躍している方々 留学(開始)期間:~1980年代 1990年代 2000年代

日本国内で活躍している方々 留学(開始)期間:~1980年代 1990年代 2000年代

北海道大学に留学して



巴 徳年

Ba Denian

国·地域:中国

大 学: 北海道大学大学院医学研究科

私が北海道大学に留学してから、30年余りが経過しました。私は1980年、中国政府の改革開放政策導入後の最初の国費留学生として選ばれ、北海道大学医学研究科(癌研病理)に留学しました。1982年には、外国人として初めて、同研究科で博士号を取得しました。

日本に行く前に日本語の勉強をしましたが覚えたのは「おはようございます」「こんばんは」などの挨拶程度でした。したがって、来日直後は話すことも、相手の言葉を理解することもできませんでした。当時私は医学研究科でたった1人の外国人留学生でした。北海道大学全体でも中国人留学生は4人だけと現在(約430人)からは想像もできない状況でした。中国語が分かる人が周りに1人もいないので、何を伝えるにも英語か日本語を使わなければなりませんでした。どうしても言いたいことが伝わらないときは漢字を書いて筆談しました。日本に行ってからは、机に向かっての日本語の勉強はせずに生活や仕事をするなかで学びました。研究に関するディスカッション、食事、遊び、毎日の生活そのものが日本語の会話の練習でした。また、忘年会・新年会・仲間の結婚式など、研究室の活動には全て参加するようにしました。

北大卒業後は中国に戻り、ハルピン医科大学副学長、国立地方病研究センター長、中国医学科学院院長、中国協和医科大学学長などを歴任しました。1999年には米国国立医学アカデミーの外国人会員に選ばれました。中国人では私が初めてです。2001年からは浙江大学医学院院長を務めています。これまでに、ハルビン医科大学、浙江大学医学院から医学分野の学生計100人余りを日本に留学させました。

私が留学した 1980 年代初期の日中関係は大変に良好で、中国では民間に、日本人に対する友好ムードが形成されていました。ところがその後、歴史・政治の問題で両国の関係がぎくしゃくしました。とても残念なことです。私は、日本と中国の友好を切に願っています。中国に帰国後、私は2つの目標を立てました。1つめは「自分の手で、自分の力で、自分の頭で中国が豊かになるよう頑張る」ということです。2つめは「中国と日本の間で学術交流及び民間の友好のための架け橋になるよう頑張る」ということです。私は今年70歳になりましたが、日本に留学した中国人として、両国の友好のために引き続き努力していきたいと思います。

最後にメッセージをどうぞ

日本、中国、美国的大学我都去过、还是觉得北海道大学 非常出色。恩师小林博以及医学院的各位老师都给了我热 情的指导。留学期间、我结识了研究室的老师、同事等很 多朋友、至今仍保持着联系。留学经历不仅是当时受益、 还会对之后的人生产生很大的影响。希望各位留学生今后 也好好珍惜留学生活中形成的人际关系。 日本、中国、米国の大学にそれぞれ行きましたが、北海道大学は大変素晴らしい大学です。恩師の小林博先生を始め、医学研究科の諸先生には本当に熱心にご指導いただきました。留学中に研究室の先生・仲間を中心にたくさんの友人ができ、その交流は今も続いています。留学はその時だけではなく、その後の人生にも大きな影響を与えます。留学生の皆さんは、現在の留学で培った人間関係を今後も大切にしてください。

憧れの日本語



金塗

Chang Kingtu

国·地域:台湾

大 学:広島大学大学院教育学研究科

1992.10~1997.2) 国立高雄第一科技大学応用日本 語学科教授兼主任

. 私は 1980 年に広島大学へ私費留学し、1983 年に教育学 修士を取得しました。日本語教師、翻訳などの仕事に携った 後、博士号を取得する為に再び母校に戻り、1997年に博士(教 育学)を取得しました。

. 両親が日本統治時代の教育を受けましたので、私はその 影響で短大時代に、ずっと憧れていた日本語を履修し、卒業 後独学で日本語の勉強を続けました。そして、淡江大学日本 語学科に編入し、仕事をしながら勉学に励みました。在学中、 広島大学医学部生の台湾訪問の案内をさせてもらった時、私 の日本留学の意向を話したところ、推薦して頂いたのが後に 我が指導教官となる奥田邦男先生だったのです。

.「広島は被爆地だから、植物も無く、放射能を浴びて病 気になりはしないか」と不安に思いながら行ってみると、町 には大好きな川が7本も流れているし、平和公園、宮島など 名勝も多く、あんなに美しい所だとは思いませんでした。特 に、広島人の人情の篤さが印象的でした。物価の高さに驚い たのは勿論、台湾より遥かに進歩している日本に、台湾がど こにあるかを知らない、台湾に水洗トイレがあるのを知らな い、台湾人だと分かるとアパートの賃貸を拒否する人がいる

ことに大変ショックを受けました。しかし、台湾滞在経験の ある親切な大家さんに出会えたことも感動でした。

. 広島で暮らした約8年間、私は幸運にも奨学金を頂戴し、 随分助けられました。保証人の水田様を始め、今は亡き藤田 小児科医院長藤田雄二先生ほか、大勢の面倒見の良い優しい 方々から常に温かい援助を頂いたそのご恩は生涯忘れませ

. 日本は古き良き伝統を大切にし、清潔で勤勉、秩序を守 るなど学ぶべき所は沢山あります。そして、先生方は皆非常 に厳しく、叱られて2時間も泣いていた日本人の学生がいま した。真面目に懸命に授業や研究に打ち込み、私たちを熱心 に指導してくださいました。私を守ってくださった全ての敬 愛すべき方々の立派な精神や姿勢をいつも胸にお手本とし、 今日も職場で、またプライベートでもそれを実践し、奮闘し ています。

. 現在台湾には300人以上の広大卒業生がいます。母校に は、台湾のみならず世界各地に校友会を設立させ、姉妹校を 増やし、国際間交流をさらに盛んにしていかれますよう期待 しています。10年、20年後に、その卒業生を光栄に思える ような人材を世に送り出せる大学であって頂きたいし、世界

に益々その名を 知られる大学に なって頂きたい と願っています。



最後にメッセージをどうぞ

今日我以廣大為榮,明日廣大以我為榮!

今日は広大卒業生であることを誇りとし、明日は広大が我を 誇りに思うことを願います。

日本の教育制度を学んで



ジェフリー ベイリス

Jeffrev P. Bavliss

国・地域: アメリカ

大 学: 宮城教育大学教育学部、 大学院教育学研究科 (1986.10~1987.7、

1992.4 ~ 1994.3

現職:トリニティー大学准教授

宮城教育大学とは深い縁があります。 2回結ばれたと言っていいと思います。 1回目は 1986 年、姉妹校マカレスター大学からの留学生として来日したとき、2回目はその 6年後、宮城教育大学大学院に入学したときです。合わせて 3年ほどの付き合いなのですが、私の歩んできた道が「曲がり角」にさしかかる度に大きな意味を持つ経験となりました。宮教大のお陰で日本語を覚えることができました。今、若いアメリカ人学生に教えている日本史に興味を抱くようになったのも宮教大でのことでした。妻とも宮教大で知り合ったのです。

大学3年生のときに留学ができたのは「まぐれ」に等しいものでした。それまでに日本語を勉強したのは一年足らずでしかありませんでした。それだけの日本語で姉妹校への交換留学に自分の名前が出るとは思っていなかったのです。さして才能のない私を推薦してくれた、マカレスター大学の当時の先生方に感謝しています。仙台に来ての1年で、丸山雅雄先生や小野四平先生を初め、多くの宮教大の先生方や学生にお世話になりました。特に忘れられないのは、一緒に暮らした男子寮の皆さんです。彼らのお陰で、日本の学生生活を丸ごと体験でき、他では学ぶことのできない生きた日本語を身に付けることができました。

留学の1年が終わって、アメリカへ帰ることになりました。心配は折角獲得した日本語の能力が衰えてしまうことでした。母国語ではない言語を少しでも話せるようになったことを通して、新しい自分と出会ったような気がしたからです。

日本語の理解をどこまで深められるかを知るために、もう一度日本で暮らさなくてはならないと思い、卒業後、文部省主催のジェット・プログラムに応募して採用され、3年ほど福井県の幾つかの中学校と高等学校で英語を教えました。この経験を通して、日本の学校教育に興味を抱くようになりました。学校という現場で日本の教育制度とその成り立ちを見て、どうしてこのようになったのかをより深く知りたくなりました。日本の学校教育が人間形成と社会形成にどのような役割を果たしてきたのか、そして「日本人」としての文化的アイデンディティーをどのように支えてきたのか、という問題を探求したくなったのです。

小野先生に相談した結果、宮城教育大学大学院を受験することになり、無事合格できました。分野は「教育史」で、前学長横須賀薫先生の研究室に入ることになりました。横須賀先生の懇切、かつ徹底したご指導の下、明治、大正、昭和の三つの時代に生涯の事業が及ぶ教育者、下中弥三郎に関して修士論文を書くことになりました。大学院で過ごした2年間に、多くの先生方や先輩、同級生、後輩にお世話になりました。その間、学部への留学時代に知り合った「中森研」出身の人と結婚しました。また、今でも稽古をつづけている合気道に没頭し、宮教大合気道部の部員として初段と弐段を取得しました。本当に愉快な日々でした。

修士論文のための研究を進める中で、あることに気がつきました。下中弥三郎の生涯や思想、そして彼と関連する教育や政治については詳しくなったものの、その背景にある歴史の理解が不足していることです。それで、日本近現代史を研究するために、博士課程で学ぶことを決め、ハーバード大学大学院に入学しました。博士号取得までは十年かかりました。長い年月、妻と子どもが辛抱強く支えてくれたお陰で、漸く大学で教職に就くことができました。現在はアメリカのコネチカット州にあるトリニティー大学という、あまり大きくない教養大学で日本史を教えています。出発点に戻ってきたような気がしています。

最後にメッセージをどうぞ

Some students become interested in Japanese history through my course. Most of them are learning Japanese, too. Every time they come to consult me on how they could advance their study, I definitely recommend gaining some experience from study abroad in Japan. I feel sorrow to see many students these days seem to hesitate to going abroad and spending a year there. I believe one can dare to grab a chance to form his/her own personality during the best age in his/her life. It surely is the most significant part in study abroad. It is the confidence I could have from my experience in Miyagi University of Education.

私の授業によって日本史に強い関心を持つようになる学生がいます。そうした学生は私の授業と同時に、多くの場合日本語を勉強しています。これからの進路に関して相談をするとき、必ず勧めるのが日本での留学体験を持つことです。最近の学生は、海外に出て1年を過ごすことに妙な抵抗があるように思えますが、これは本当に残念です。自分を形成する上で最もよい年頃に大胆にチャンスを掴めるのが留学の最大の意味と確信しているからです。宮教大での経験が、その確信を抱かせてくれているのです。

日本式を享受して



ヨセフ グリル

Joseph Gril

国・地域: フランス

大学:京都大学大学院農研究科

現 職: フランス国立科学研究センタ・

ディレクター

京都大学を選んだ理由 1983 年、私がパリで木材力学の博士コースを始めた頃、名古屋大学の故奥山剛教授にお会いし、関連する日本人の研究を紹介いただきました。翌年、外務省による日本文化の体験研修に参加し、東京、筑波、名古屋、京都を訪ねる機会を得ました。訪日の間、京都大学と京都府立大学の先生方との議論は最も印象に残るものでした。日本文化との遭遇も、よい意味で衝撃的でした。それで、京都大学木材研究所の山田正教授から研究生の提案があったとき、一も二もなく来日を決めた訳です。その時、私はフランス農務省の給付生でしたので、大学の許可を得た後で博士コースの半ばの時期、則元京教授の指導を受けるために3年間京都大学の博士課程に入学することにしました。

思い出に残ること 「日本式」に慣れていくのに時間を要しました。当初、「貴君は何がやりたいですか」と言葉をかけられた時でも、耳を傾けることなく、全て自分で何とかするものだと早合点していました。環境制御チャンバー(というには余りにもおそまつなもの)を自作した時もそうです。当然全くデータは得られませんでしたが、先生は黙って私がやけくそになるまで静観。そしてついにある日、私を指導下さいました。まともな実験が出来るようになったのはそれ以来です。元旦にかけて実験をやり、始発電車が出る前に先生をバイクに乗せてお宅へ送ったことも楽しい思い出の一つです。

日本文化に対する印象は? 素晴らしく、貴重なもの。新しいメガネをかけて世界を見ているように感じました。日頃、多少意識的に、人の言わんとするところを察しようとする、日本人ならではの振る舞いゆえであろう。日本人は他人を思いやり、また人の意見を聞く能力に優れているし、細かなことにもきちんと気が付き、またさまざまなレベルの考えや人間関係も上手くやりくりしています。そして、最後に何かを切り捨てるのでなくて、さまざまな意見を盛り込んだ結論に到達できるのだと思います。

現在の仕事と留学経験がどう役立っているか? 100%研究。私のグループでは15~20人が樹木や木材の力学に関して研究しており、具体的には、植物バイオメカニックス、時間依存性の木材の物理現象ならびに、文化財の保存に取り組んでいます。一般に、長期間一つのことを追い求めるのはヨーロッパの教育ではむしろ評価は低い。しかし、それが続いているのは日本に留学したおかげだろう。また科学は、異文化の研究者が議論することで一層発展することに気がついたこと。今も COST アクションの運営に携わり、またヨーロッパ内外の機関で相互協力体制を立ち上げているのは留学経験に基づきます。もちろん日本の研究グループとも双方向で人材交流を積極的に進めています。現在、杉山淳司教授に招かれ生存圏研究所で研究を楽しんでいます。

母校に対する希望は? 京都大学は、これまでと同様また それ以上に世界に対して発信してほしいと思います。日本文 化は他の多くの国と比較しても特別であり、そして重要であ り、それゆえに他の国々にも理解されるべきです。また、文 化以外の生物や物理学でも同様に、新しい物の見方は思いも よらない進展ももたらすでしょう。資源問題など地球を救う 科学の発展には、何よりも日本的な考え方が必要かもしれま せん。京都大学は日本の伝統的な「知」を代表する特別な存 在として、国際的に活躍するために最も効果的な「場」を創 るべきだと思います。

最後にメッセージをどうぞ

Not to be satisfied with knowing what everyone knows, or seems to know.

誰もが知っていること、あるいは知っていそうなことを知る ことで、決して満足しないこと!

青春時代の5年間



唐 駿 Jun Tang

国·地域:中国

大 学: 名古屋大学大学院工学研究科 (1985 10~1991 3)

現職: 新華都集団公司 総裁兼CEO、 マイクロソフト中国終身名誉総裁

中国でインタビューを受ける時、よく「海外留学経験から受けた最大の影響は何でしょうか」と質問されます。私は日本とアメリカでの留学経験がありますが、特に日本での5年間の留学生活は私の価値観と人生観を大きく変えましたし、私の青春時代の中で最も重要な5年間でした。私は、日本人の堅実さ、真面目さ、丁寧さ、コミュニケーション手法、礼儀正しさに感心し、影響されています。そういった影響を受けたため、私は中国と大きく文化の違うアメリカでも、自分の力を発揮し、成果をあげることができました。もし日本での経験がなければ、それらは実現できないものであり、困難を乗り越えることもできなかったと思います。

日本に着いた初めての日、私は新幹線に乗りました。新幹線のスピード、完備された設備、快適さは、当時中国からきたばかりの私に大変な衝撃を与えました。さらに、新幹線のスタッフにも驚かされました。彼らの身だしなみ、サービスの良さ、笑顔、仕事に対する熱心さ、私はこれらに大変驚かされました。物質の豊かさに対するショックとカルチャーショックです。彼らは車両に入ると、まずお辞儀をし、優し

い声と礼儀正しい言葉使いで乗客に挨拶をしました。さらに、彼らは次の車両に行く前に振り返ってお辞儀をして挨拶をしたことにいたく感動しました。とても些細なことですが、それを見て、私は日本人に好感を抱き、これから始まる留学生活が有意義なものになると確信しました。

その後、私は管理業務の中に、日本式の考え方を織り込みました。規則と人情味の両方は私の管理業務に十分活かされています。特に、日本人の「人をたてる」という考えを活用しています。さらに自慢できることは、「人をたてる」という私の管理理念が既にマイクロソフトの七つの管理理念の一つになったことです。これらはすべて日本、そして名古屋大学のおかげで、私はただこの文化を近代的な科学管理に応用しただけです。この理念のおかげで、私はマイクロソフト史上ただ一人の「終身名誉総裁」になりました。

日本の5年間に感謝、 さらに名古屋大本に記述しています。日本の5年日ではます。日本に記述しても時、半日でもられば、私はからにといる方をでいた。日本ではないのものです。をいて、ものものです。を味わいたいです。



趣味のサックスを吹く筆者

最後にメッセージをどうぞ

祝愿让我获得了宝贵经验和有意义学生生活的名古屋大学越来越好。

私にとってかけがえのない経験と意義のある学生生活を与えてくれた名古屋大学が、ますます発展することを祈っています。

大学間交流の活性化に向けて



金 知寛

NIIII JIEKWali

国地域: 韓国 大 学: 電気通信大学電気通信学部、

大学院電気通信学研究科 (1986.10~1988.3,

1989.4~1994.9) 現 職: 昌原大学校産業システム工学科

教授

私が留学先を電気通信大学に決めたのは日本語学校に通っていたときです。理工系の国立大学を探しているときに韓国人の留学生から電気通信大学と東京工業大学を紹介されましたが、電気通信大学を選びました。最初は研究生として現在学長顧問をされている合田先生の研究室に入り、3年後に文部省の国費留学生として萩野先生の研究室に入りました。そして、修士課程と博士課程を修了しました。特別な理由はなく選んだのですが、入ってみると、優しい先生と親しみのある学生たちに囲まれ、この大学を選んで本当に良かったと思いました。

留学中に特に思い出として残った出来事は、結婚し、二人の子どもが生まれたことです。そして、子どもたちと過ごした幸せな日々です。自転車に二人の子どもを乗せ、妻と一緒に多摩川から野川公園まで毎週遊びに行ったことは今でも懐かしく想い出します。長女は今、大学1年生になりました。

日本の文化や人々のことで特に印象的なのは優しさと伝統 を重んじる心です。留学生として家族と一緒に日本で暮らし た6年の間に、いい人たちにたくさん出会い、いろいろと助 けていただきました。その方々に今でも感謝の心を抱いてい ます。

今、私は昌原大学校という国立大学の産業システム工学科に教授として務めています。また、電算情報院の院長として大学の情報化を進めています。今年は電気通信大学との学術交流協定締結に奔走し、実現することができたので、これからは両大学の交流を活性化することに努力するつもりです。

国立大学法人になって、電気通信大学にはいろいろな変化があったと思います。また、経済危機が世界中を襲う今、大学も変わらなければならないと思います。しかし、危機はチャンスとも言えます。競争力のある一流の大学として名を上げ、私たち卒業生が誇りを抱けるようにしてください。勿論、私も電気通信大学出身であることを肝に銘じ、頑張ります。

最後にメッセージをどうぞ

90 フ

가

電気通信大学は規模から見ると小さな大学です。しかし、90年の伝統と歴史があります。日本の発展に大きな活躍をした先輩が数え切れないほどいます。また、優しくて研究熱心な先生が大勢います。私もそうですが、皆さんも小さいが強い電気通信大学の一員であることを忘れずに、実力を磨いて社会で、職場で人のネットワークの中で認められる人材になってください。

가

日本との縁を末永く



梅 傲寒

Mei Aohan

国·地域:中国

大 学:群馬大学大学院工学研究科

(1992.4~1995.3)

現 職: 広東華智科技有限公司代表取締

役社長

. 母校を留学先に選んだ理由

中国の政府派遣留学生として1989年11月に渡日しました。 当時は垂直磁気記録の最先端技術を学びに東北大学の岩崎教 授の所を希望しましたが、その年は岩崎教授が退職されたた め、同じ東北大学出身で、群馬大学工学部に勤務されていた 五十嵐教授を紹介され、群馬大学大学院工学研究科に入学し、 アルゴリズム専攻になりました。

. 留学中特に思い出として残る出来事

群馬大学工学部は群馬県桐生市にあります。偶然とはいえ、 群馬大学に入ったのはよかったと思います。なぜならば、都 会の名門大学と比べて、田舎の群馬大学に入った方がいろい ろな面で恵まれていました。例えば、日本人の方々と友達に なる機会が多いとか、日本社会に馴染みやすいとか、日本文 化を理解しやすいなどの面です。

特に思い出に残る出来事としては、毎年8月初旬に開催される桐生恒例の八木節祭りです。桐生市本町は1~6の6つの丁目に分かれていて、毎年の八木節祭りは、この6丁が順番で、当番(天王番)町を勤めます。私は、本町5丁目にあるカバンの老舗モギカバンの社長及び家族の皆さんと親しく付合って、中国の長男のように可愛がっていただきました。2005年8月本町5丁目が当番町を勤めた時、モギカバンを代表して、お神輿パレードに参加したことが、一番の思い出

の一つになりました。

. 日本の文化に対する印象

伝統文化の継承と新しい文化の受け入れの両立は印象深かったです。毎年日本全国各地で賑わうお祭り、そして、年中行事、通過儀礼、着物等々はいずれも伝統文化を良く受け継いだ例です。一方、世界中からあらゆる面で影響され、どんどん新しい文化を受け入れて、日本発信の新しい文化をも創出しています。

. 現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役 に立っているか

日本で勉強した専門知識、日本での暮らしを通して理解した日本文化、風習、人々の考え方及び日本での人脈を生かしたいため、2003 年中国広州で広東華智科技有限公司を創立しました。日本のお客様向けにソフトウェアの受託開発(オフショア開発)サービスを提供していて、現在、社員数約400名の中国華南地域では規模の最も大きいオフショアベンダーの一つに成長してきました。その成長の影には、お客様とのお付合いには留学中に体験した日本文化、風習、人々の考え方への理解が役に立ち、お客様を新規開拓するときは留学中に出来た人脈が役に立ち、そして、受注した案件の開発マネジメントには日本で勉強した専門知識など役に立っています。

. 母校に期待すること

得意分野に特化し、うまく時代の流れに乗って欲しい。また、国際交流特に中国との交流をもっと盛んに行って欲しい。

. 特に冊子を読む読者にお伝えしたいこと

日本留学の経験が自分の人生の中で一番の財産です。中国 と日本両国間の未永い友好のために、少しでも貢献していき たい。ご応援ください!

最後にメッセージをどうぞ

在软件领域中国是日本的合作伙伴,而非竞争对手。

情報サービス分野において中国は日本にとってライバルでは なく、パートナーである。

日本で学んだ精神をタイで生かす - 泰日工業大学の設立と元留学生 -



プラユーン シャオワッタナー

Prayoon Shiowattana

国・地域: タイ

大 学: 大阪大学大学院工学研究科 (19724~19743)

現 職: タイ国科学技術開発機構 National Science and Technology Development Agency 副長官、タイ日技術振興 協会 会長

私は、電気通信大学を卒業したのち、1972年4月から修士課程として大阪大学工学研究科で勉強しました。指導教官である犬石嘉雄先生との最初の出会いでは、先生の厳しさが強烈な印象となりました。正直に言って、修士課程の2年間でも、先生とはなかなか深く馴染めませんでした。しかし、その後社会人になってから、今まで分からなかったり、気にしなかった先生の言葉が、次から次へと私の頭に浮かんできました。先生のお言葉が、私の人生の指針になった訳です。

タイには、タイ国元文部(科学)省留学生が中心となり1972年に設立されたタイ日技術振興協会(TPA)(www.tpa.or.th)があります。その目的は、タイ産業界に日本からの優れた技術を移転して、タイ産業の競争力を高める事にあります。活動は、生産技術等のセミナー開催、技術書出版、測定器校正サービス、及び日本語とタイ語講座の開催などです。

私は 1975 年に帰国して以来、ボランティアとしてこの活動 に参加して来ました。

今日、TPAは、タイの官民からも国外からも、その成果が高く評価される様になりましたが、私たちは、日本留学当時の「人材議論」の初心に戻り、TPA設立当時の目的であった大学設立構造を再び真剣に検討しました。TPA理事会の合意を得て、大学の名前を泰日工業大学(TNI)と決め、私は幸運にもTPA会長としてこの案件を最初から取り組み、ついに2007年6月に泰日工業大学(TNI)(www.tni.ac.th)の開学に漕ぎ着け、第1期の学生受け入れを開始し、スリントーン王女殿下のご臨席も得て盛大な開校式もすることができました。

このような活動をしている元日本留学生の集団は、他にはないと自負しています。日本で教わったことを、今さらにタイの社会に生かそうとしています。ここに皆さんの更なるお力添えをお願いするところであります。

最後にメッセージをどうぞ

แนวคิดการก่อตั้งสถาบันเทคโนโลยีไทย-ญี่ปุ่นมีการถกเถียงทั้งเห็นด้วยและไม่เห็นด้วย ในที่ประชุมคณะกรรมบริหารสมาคมส่งเสริมเทคโนโลยี(ไทย-ญี่ปน)จนไม่สามารถหาข้อสรุปได้ ในที่ประชุมกรรมการบริหารท่านหนึ่งได้เล่าถึงรายการ"ProjectX"ของสถานีโทรทัศน์NHKของญี่ปน; ต่างชาบซึ้งประทับใจกับความห้าวหาญและมุมานะพยายามเพื่อจะทำสิ่งที่เป็นไปไม่ได้ให้เป็นจริงขึ้นมา พวกเราไม่ลองสร้างProjectXฉบับของชาวไทยขึ้นบ้างเพื่อให้ชนรุ่นหลังมองกลับมาด้วยความชาบซึ้งเ นที่ประชุมก็มีมติที่จะรวมพลังเพื่อดำเนินโครงการนี้ให้สำเร็จเราตกลงใช้ชื่อสถาบันเทคโนโลยีไทย-ญี่ปุ่

泰日工業大学の設立は、TPA理事会でも賛否両論で中々結論はでませんでした。その時、TPAの理事から日本のNHKの番組「プロジェクトX」の話題が出されました。「不可能なことを可能にする勇気と努力に、心から感動したのではないか?」と。そして、私たちも、後世が見て感動できる仕事をしよう、タイ版のプロジェクトXにトライしようと、一致団結し結論を下したのです。大学の名前はタイと日本との間の緊密且つ暖かい志の元で出来た賜物を表して、泰日工業大学としました。

父の母校、九州大学



ロバート ファン

Robert Huan

国·地域: 台湾

大 学: 九州大学工学部

(1964.4 ~ 1968.3)

現職: President & CEO, SYNNEX

Corporation

九州大学には昔から、海外からの留学生も数多く学んできました。

ロバート・ファン氏は台湾出身で16歳のときに家族で来日。九州大学では電子工学を学ぶ傍ら、アイスホッケー部を創設するなど勉強以外でもエネルギッシュに活動。九州大学卒業後は渡米して、マサチューセッツ工科大学などで研鑚を積みました。自ら起業したコンピューター関連会社「SYNNEX」は2003年にニューヨーク証券取引所上場に成功し、「フォーチュン」誌からベスト500社中350位にランクされるなど、北米有数の企業グループに成長しています。

また、ファン氏の寄附をもとに設立された「アントレプレナーシップ・プログラム」は、米国カリフォルニア州のシリコンバレーにおいて、企業家や弁護士、エンジニアなどに親しく接し、その講義を聴く機会を提供して、起業家精神やグローバル思考の重要性を認識させることを目的とするものです。九州大学の知的財産本部とカリフォルニア・オフィスが主に運営にあたっており、九州大学の学部生、大学院生だけでなく他大学からも参加者があります。

Q:台湾から移り住んだ大阪の高校から九州大学への進学を 決められたのはどういう理由からでしょうか?

一番は、やはり父が学んだ九州大学、福岡という土地への 憧れです。当時の日本は「造船業」華やかなりし頃で、最初 は造船関連の学部がある九大へと思ったんです。 しかしアメリカにいた兄から「これからの花形は電子だぞ」と言われまして、最終的に九大工学部の電子工学科に決めました。

九大時代は、勉強はそれほど熱心じゃなかったのですが (笑)、アイスホッケーに熱中したことで二つ大きな成果が あったと思います。一つは身体が鍛えられたこと。もう一つ は「チームワーク」ですね。チームリーダーとして皆と一緒 に部を創ったり発展させようと努力したことが自信となり、後に起業したりしていく上でも非常に役立ちました。

Q:ファンさんにとって " 母国 " というとどこを連想されますか。

それがジレンマでしてね。生まれた台湾、両親が骨を埋めた日本、そして私自身はもう40年以上アメリカに住んでいます。特にオリンピックでは、どこを応援するかが難しいのです(笑)。もっともこの問題は、母国を離れて世界各地で暮らすことの多い台湾人にとっての宿命という気もしますね。

私自身の場合でいうと、40数年間アメリカに住んでいて も、精神的な拠りどころや感性の面では、やはり東洋的なも のが基本になっていると感じます。特に私にとって、日本と いう国は16歳から23歳までの一番多感な時期を過ごした わけですから、大きなウエイトを占めていますね。

Q:後輩たちへメッセージをお願いします。

自分が学んだ事が社会でどう活用できるかを常に考えてほしいですね。アメリカでは、学んだことを実社会で役に立てることを意識させる教育が、システムとして構築されています。学校での教え方も、教科書だけでなく「日常の中で感じさせる」教育を行っている。大学に入ると2年生くらいから、企業でのインターンシップで仕事を実体験させています。それと、アメリカの教育ではディスカッションの場がとても多いですね。子ども自身に「自分は何がわからないのか」を考えさせて、そこからものを学ぼうとさせる。そういう姿勢が見られます。私もリタイアしたら、大学に行ってまた勉強したいと思っています。

最後にメッセージをどうぞ

There are two things I want to see in Japanese students. The first is mastery of English to the level at which they are able to freely communicate in the world and negotiate. That's really difficult to accomplish once you become an adult.

The second is not to fear taking leadership. Japanese think that " the nail that sticks out will be hammered down" (laughs) and tend to let things go, without saying what they want to say. There is risk in taking initiative, but I want them to have the courage and mentality to accept that challenge. What position Japan and Japanese will hold in the world depends on that.

私は日本の学生に望みたい点が二つあります。まず、世界の中で自由にコミュニケートし、ネゴシエートしていけるよう、英語に熟達すること。 二つ目は、リーダーシップを取るのを恐れるなということです。日本人はどうしても「出る杭は打たれる」になりがちで、言いたいことを言わないで済ませる傾向がありますからね。何かを率先してやるにはリスクもありますが、あえてそれにチャレンジする勇気と知性を持ってほしい。日本が、そして日本人がこれから世界でどんなポジションを取るかは、それにかかってくると思います。

アジアの先端科学知識などに触れる機会



スラポン・ワタナチラ

Suraphong Wattanachira

国・地域: タイ

大 学:東京大学大学院工学系研究科

現職:チェンマイ大学准教授

母校を留学先に選んだ理由は?

東京大学を留学先に選んだ理由は、当時、チェンマイ大学に環境工学科を設立するために、JICAの専門家として派遣されていた先生からアドバイスを受けたことがきっかけです。その先生は東京大学の助教授をされていましたが、日本の環境問題について教わるうちに、アジアの環境問題を学ぶためには、西欧の大学より東京大学で学べることが多いと考えました。

留学中特に思い出に残る出来事は?

東京大学の恩師である教授の親身で明るい人柄と、日本人学生の友情、他の国からの留学生と知り合えたことが今でも 印象に残っています。特に、東京大学の学友とは、いまでも 親しく付き合いが続いています。

日本の文化に対する印象は?

日本人は、規律正しく、礼儀正しい人たちであると感じま した。また、自分の仕事に対する強い責任感をもった人たち であると印象付けられました。これらの国民性が、技術開発 などで強みとなっていることは間違いありません。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っていますか?

現在は、タイ北部にあるチェンマイ大学の准教授として、 環境工学を教えています。したがって、東京大学で学んだ環 境に関する技術や知識は、現在の私の仕事に直接役立ってい るだけでなく、今でも東京大学の友人と共同研究などを通じ て、相互に情報の交換を行っています。

母校に期待することはなんですか?

東京大学は世界的にも有名な大学ですから、今後とも、アジア各国の大学を支援し、技術や知識の中心として、アジアからの留学生をさらに多く受け入れ、育てることによって、アジアの高等教育の発展に貢献してもらいたいと思います。

最後にメッセージをどうぞ

หากท่านมีโอกาสที่จะเลือกศึกษาต่อในต่างประเทศ ข้าพเจ้ามีความเห็นว่าประเทศญี่ปุ่นเป็นทางเลือกที่ดีที่สุดแห่งหนึ่งท^{ี่}ท่านสามารถจะได้รับทั้ งความรู้ชั้นสูง ร่วมทั้งประสบการณ์ทางด้านสังคม วัฒนธรรม และสิ่งแวดล้อม

もしもアジア諸国にいるあなたに留学するチャンスがあるなら、日本に行くのが最も良いと思います。なぜな ら、日本では、先端の科学知識と社会文化や優れた環境にふれる素晴らしい機会があるからです。

日本語教育への道標を得て



徐 敏民

Xu MinMin

国·地域: 中国

大 学:横浜国立大学大学院教育学研究科 (1985.4~1988.3.)

現職:華東師範大学日本語教育研究セ

日中友好平和条約の30周年に当たり、20年ぶりに客員研究員として母校に戻った私は、日本語教育への道を導いてくださった鈴木重幸先生との出会いを光栄の念で思い返し、感無量の思いです。

30 数年前、家族や周りの反対を押し切って日本語を習い始め、卒業後も躊躇なく大学で日本語教師の道を選びましたが、日本での留学生活を通して、人生が大きく変わりました。 横浜国立大学では、日本経済の最盛期に、豊かで充実した留学生活の日々を過ごすことができました。その経験を生かすよう、母国の経済発展下の日本語教育現場で努力してきました。

鈴木先生は日本で著名な国語学者で、やさしくて学問に厳しい先生でした。帰国後、私は先生の理論に基づいて教材編集に取り掛かり、8年かかって作成した『基礎日本語』1~4冊シリーズ教材は2006年上海市優秀教材に入賞し、『日本語聴解1』は2008年国家級優秀教材に選ばれました。そして鈴木先生に教わった言語学理論を大学院の授業に導入し、多数の修論を指導し、送り出した卒業生は現在上海にある各大学で活躍しています。

帰国して10年間、母校である華東師範大学の日本語学部長を務めるほか、2000年から中国教育部の外国語教育指導委員会委員や全国日本語教育研究会副会長に任命され、中学校、高校、大学の学習指導要領の作成に携わり、中学校・高校の新しい国定教科書の主査も務めてきました。2006年に中国初の日本語教育研究センターを発足し、国立国語研究所と国際交流基金の支援を得て、研修会を通して華東地区の若手教師の育成に力を入れています。また、中国における日本語教育のネットワークを作るために、2001年、2004年に華東師範大学で国際シンポジウムを主催し、編集した論文集は好評を得ることができました。

30年間日本語教育の道を歩んできたおかげで、日本社会や文化に対する理解を深められ、日中両国に役立つ人材を多く育てることができました。しかし、これからますます進展するグローバル社会において、日本語教育の真価が問われており、広い視野と思考力を持つ人材を育成する日本語教育への転換が急務だと思います。そのために、教材開発、カリキュラム改革、教授法の研究などに関する日中の国際的な研究交流と協力関係を強化することが大切だと痛感しています。

最後にメッセージをどうぞ

选择理想的大学与专业是留学生活的良好开端,选择横滨国立大学能为今后的归国发展提供机遇。以上海为代表的横滨国立大学校友会正在中国逐渐扩展壮大。中日两国横滨国立大学校友们的共同努力与合作,将为两国间建立的战略性互惠关系的发展作出贡献。

理想的な大学や専攻を選ぶことは留学生活のよいスタートですが、横浜国立大学を選べば、将来帰国後のキャリア発展の道にも繋がります。上海を始めとする横浜国立大学の同窓会は中国でますます拡大し力を入れようとしています。日中両国の横浜国立大学 OB たちの連携・協力の努力は、両国で築きあげられた戦略的互恵関係の発展にも貢献することでしょう。

マレーシアの日本語教師として



洪 翠娟

Ang ChooiKean

国・地域: マレーシア

大学:東京外国語大学外国語学部

現 職:マレーシア教育省国際言語教師 養成所日本語教師

1999 年度の卒業生の洪 翠娟 (Ang ChooiKean)です。現在、マレーシア教育省の国際言語教師養成所 (INTER-NATIONAL LANGUAGES TEACHER TRAINING INSTITUTE)でマレーシア国内の現職教師を対象にするマレーシア中等学校の日本語教師養成プログラムを頑張りつづけています。

私は自分自身も現職教師であり、第5期生のマレーシア国 費の日本語教師養成プログラムの派遣生として日本に留学し ました。最初の一年間、国際学友会日本語学校で日本語を勉 強してから、外大に進学しました。実は外大を選んだ理由は 2つあります。一つは学友会の先生に日本語の勉強なら、外 大が一番いいと言われたからです。もう一つはそのとき、学 友会でマレーシア国費の派遣生の中で成績が一番いい学生は 外大に進学するという決まりがあったからです。外大に進学 ができて、大変うれしかったのですが、実際に入ったら、周 りの友達より自分がまだ日本語の能力が低くて日本語学歴が 短いことに気がつき、とても心配していましたが、自分なり に頑張るしかなかったのです。外大での在学の思い出では、 一番印象に残り、ありがたく思ったことは確かに勉強や生活 に関して心配している留学生に対して必要な暖かい応援や支 援のことでした。今でも、いつもやさしくしていただいた留 学生課の梅田さんをはじめ、いろいろ教えてくださった日本 語学科の先生方に応援していただきながら一緒に頑張った日

本語学科と他の学科の友達に感謝しています。

外大の学部を卒業したとき、まだ日本語、特に日本語教育に関してより勉強したくて一時的に修士課程への進学で迷っていました。しかし、家族のことと自国の奨学金の期間のことで、帰らなければならなかったのです。

帰国したら、すぐ日本語教師としてある全寮制中等学校で 仕事をはじめました。マレーシアでは日本語を教えるだけで はなく、実際にどのように日本語の勉強とともに文化の経験 を活かせば、日本語の学習の「味」を取り出し、学生たちに その「味」や「意味」を感じさせられるかというようなこと にチャレンジしてきました。約3年間その仕事をして、2002 年に国際交流基金の奨学金をいただき、再び日本の大学の修 士課程への進学ができました。日本に戻ったら、すぐ外大の 在学中よく訪ねた巣鴨にあるとげぬき地蔵尊にお参りに行く ことにしました。その時、近くの西ヶ原四丁目にあった外大 がなくなった(2000年10月に府中市に移転)ことはとても 寂しく思いました。ですが、2003年に移転後の外大に初め て行ってみたら、前より広くてきれいな建物ができましたが、 不思議に外大の雰囲気を同じく感じられて、ほっとしました。 一方で、なじみのあるお顔やお姿が見られなくて、寂しい思 いがしましたが、その後、何人かの先生方との再会ができて、 お元気そうでまるで全く時間がたっていないような若々しい ご様子でいらっしゃることで嬉しい限りでした。また外大で いつか先生方と同級生の皆様に再会ができればと願っていま す。何らかの形で卒業生との本格的なネットワークなどがで きればと思います。また、今、自分の専門を高めるためにマ レーシア現地の日本語教師成長に関する研究をしたいと考え ておりますが、外大の先生方のご指導とご協力をいただけれ ばと思います。

姉妹校への思い



アティファン ピンカオカム

Atiphan Pimkhaokham

国・地域: タイ

大 学:東京医科歯科大学大学院医歯学 総合研究科

(1997.10 ~ 2002.3)

現職: Chulalongkorn Univ. Assistant

Professor

この度、私のメッセージをお伝えできる機会を授かりました。1997年に文部科学省奨学金による TMDU (東京医科歯科大学) 留学をして以来になります。

母校を留学先に選んだ理由は?

1989年、歯学部3回生であった私は、マレーシアで行われた Asian Pacific Dental Student Association (APDSA) に参加し、そこで多くのアジアの友人を得ました。特に TMDU の学生とその後も交流を続けていましたが、1995年に私が Chulalongkorn University (CU) の口腔外科のスタッフとなった頃、APDSA 規定の CU と TMDU 間の学生交換プログラムが設立され、ついにはこの二つの大学は姉妹校になりました。それから多くの教授が両大学をそれぞれ訪問し、当時第一口腔外科教授であった天笠教授と出会いました。1997年に私が文科省奨学金に採択された際に、第一口腔外科で勉強させていただくことを天笠教授は快く受け入れてくださり、2002年卒業まで在学していました。

留学中特に思い出として残る出来事は?

在学中、日本人のみならず多くの他留学生の友達も得ました。その中には、以前 APDSA で知り合った友人も数多くいました。臨床、研究両方に打ち込んだ日本での生活はあっという間に感じました。研究は、ゲノム応用医学研究部門分子細胞遺伝分野で行いました。そこでの研究はとても大変でしたが、多くの経験を得ることができました。指導教官であった井本准教授と稲澤教授には多くの御指導をいただき大変感謝しております。研究の傍ら、江藤教授と全国各地を飛び回り、共同作業や社会活動を行ったりもしました。

日本の文化に対する印象は?

JSPS による CU と TMDU の連携が継続されたおかげで、卒業後も継続して3年間 TMDU に戻れることができるチャンスを得ました。JSPS 連携の下研究を行い、その傍ら私の家族を個人的に日本に連れてきたり、毎年教授や日本の友人のもとを訪問したりしました。日本は私にとって第二の故郷です。日本を訪れることは毎回とても楽しみであるし、日本は交通や宿泊設備が整っているためでありますが、何処を行くにも道に迷うことはありません。特に TMDU は私にとって日本での家であると思っています。

最後にメッセージをどうぞ

Last but not least, studying in TMDU was my great opportunity and experience which I don't think than I can get these any where in the world. I would like to say thank you to all people in TMDU who gave me this chance and I will be very happy to become a part to continue the relation ship between Thailand and Japan forever.

TMDUで学んだことは私にとって最大の好機でありましたし、ここ以外ではとても得る事はできなかったであろう経験をさせていただきました。私にこの様な機会を与えてくださったTMDUの皆様に、感謝を申し上げたく存じます。これからもタイと日本の交流の一部となれることをとても幸せに思います。

多くの先生、友達に「ありがとう」



全 炯日

Cheun Hyengil

国·地域: 韓国

大 学:帯広畜産大学大学院畜産学研究科 岩手大学大学院連合農学研究科 (1994.1~1999.3)

現職:韓国国立保健研究院・研究員

私は帯広畜産大学への留学により日本で勉強を始めることになりました。この留学は日本と韓国の大学間での留学生交換交流プログラムの一環で、畜産の研究が進んでいる帯広畜産大学への留学を周りから進められたことがきっかけです。14年前、海外旅行は初めてだったため日本語も英語もうまく話せないまま畜大生活を始めましたが、研究室の日本の友達に助けられすぐに慣れることができました。しかし、受け入れ先の先生の事情で先生が他の大学に転勤してしまったことで、今後の研究の方向性や専攻分野について一時期迷うことがありました。韓国に戻ることを考えながら、色んな先生と相談することで、その後専攻を決めることができました。今思えば一人で悩まずに多くの人々と話し合いながら相談したことが一番大切だったと思います。

北海道は自然と温泉が有名な所で、大学を少し離れると広い牧場と温泉が多く、特に記憶に残っているのは韓国にはない混浴です。ある真冬の日、研究室の男友達3人と混浴露天風呂で周りに積もった雪で日本酒の水割りを作り、飲みながら長い間他の客を待ち続けたことを思い出します。また夏には広い公園とテニス場、秋には自然の恵みいっぱいの美しい

紅葉、そして冬には学校から 30 分もかからないスキー場は 留学生活の楽しみでした。

留学生活の中で最も大きな財産の一つは人です。研究に関連する人を含め、生活の中で知り合った人々との付き合いは現在でもお互い安否の連絡をしています。日本での生活を終え帰国する時は、私と家族を送りに帯広駅に友達や付き合いのある人々が50人以上集まり、本当に感謝と申し訳ない気持ちでいっぱいでした。隣で涙を流している家内、何も知らずに遊んでいる二人の娘(日本で生まれた)を乗せた汽車で私は「皆さん本当にお世話になりました。本当に有難うございます」と叫んだことを思い出します。

現在は韓国で研究公務員として勤めており、仕事で帯広畜 産大学の先生と現在も付き合いがあります。私は留学生また は日本の留学を計画している人々に、限りある日本留学生活 を思う存分楽しく、できるだけ学問を追及し、日本を離れる 日「ありがとう」と言えるように悔いのない生活を過ごして 欲しいです。

最後にメッセージをどうぞ

가

가 、

가

畜大で留学している学生らに頼みたいことは限られた時間に楽しく日本生活を味わいながら情熱を注いだ学問追及で本国に戻り活躍して欲しい。また日本での外国留学生の子どもが馴染んだ日本にまた留学するケースが多い。本校は外国人を受け入れる体制や機会をもっと増やすためにも寮の開放もしくは外国留学生家族が住めるような寮を増やして欲しい。

3度、島根を訪れて



ヘルマンサ

Hermansah

国・地域: インドネシア

大学:島根大学大学院生物資源研究科 鳥取大学大学院連合農学研究科 (1997.10~2003.3)

現 職: アンダラス大学 講師

私は、日本の松江市でおよそ6年間を過ごし、島根大学と 市民の人たちから多くのことを学びました。日本の印象は私 が日本に来る前に抱いていたものと、さほど変わりはありま せんでした。

この6年間に、スポーツや文化活動といったさまざまな市民活動に参加しました。イベントに参加することで主催者側がどのように企画し、実行していくかということを学ぶことが出来、また多くの市民方々と触れ合うこともできました。日本人は、地域をまとめ、安全を守るという責任を一人一人が認識しているような印象を受けました。一生懸命働き、規律を守るということが、今日の日本がここまで発展した理由だと思います。

私が海外留学に興味を持ったのは高校生の時でしたが、その頃はどこにどうやって留学していいのか分りませんでした。1989年9月、島根大学の若月利之教授(土壌学)が共同研究を行うために私の母校であるアンダラス大学を訪れた時のことです。当時私は、農学部のスタッフメンバーで、若月教授との交流に大変興味を持ちました。幸いにも上司が若月教授との共同研究に参加し、フィールドワークに同行する

よう提案してくれました。それが若月教授との学術交流の始 まりです。

1995 年 3 月、若月教授は JICA 事業の一貫で私を 3 カ月間島根大学へ招へいしてくださいました。この 3 カ月間の招へいで私の研究への意欲は掻き立てられ、島根大学博士課程へ進学することへの関心が高まりました。

2年後の1997年、文部科学省の奨学金により、若月教授の指導のもとで勉強する機会に恵まれました。奨学金のおかげで多くの時間を勉強に費やすことができ、無事博士の学位を取得することができました。

2008 年には日本学生支援機構 (JASSO) の事業により、再び島根大学を訪れました。この事業は、帰国外国人留学生が、留学先であった大学へ戻り短期の共同研究を行う事業です。 私は5年前、博士の学位をとった研究室で研究が進んでいることを目にしました。また、私の5年間の研究の成果も受入教員に知ってもらうことができました。





最後にメッセージをどうぞ

Finally I would like to express my deep gratitude to Prof. Toshiyuki Wakatsuki who encouraged me in academic and research activities until now. And a great thanks also goes to Prof. Tsugiyuki Masunaga as my supervisor for the follow-up program.

最後に、今まで私の学術研究について励まし続けてくださった若月利之教授に深く感謝いたします。また、フォローアッププログラムにおいて私を指導してくださった増永二之教授にも感謝いたします。

日本とインドネシアの友好50周年



ヘリー スハルディヤント

Herry Suhardivanto

国・地域: インドネシア

大 学: 愛媛大学大学院連合農学研究科

現 職: ボゴール農業大学学長

私は、1991年4月から3年間、愛媛大学大学院連合農学研究科で留学生として日本に滞在しました。インドネシアでは、施設栽培の開発について興味がありましたので、ハウス内環境制御や溶液栽培の勉強をするために、優秀な先生がいる連合農学研究科に入学しました。当時、松岡、山崎、鶴崎、橋本、仁科先生などには、大変お世話になりました。

インドネシアには雨季と乾季しかありませんが、日本には 四季があります。夏の暑さはインドネシアに比べるとたいし たことはありませんが、冬はとても寒く、生まれて初めてシ モヤケというものができて、苦労したことを覚えています。

日本人独特の、インドネシアとは違う素晴らしい人間性 も、今まで経験することのないものでした。それは、仕事は 最後まで力いっぱい頑張り通すということ、人と人とのハー モニーや人と自然のハーモニー、また、必要なところは丁寧 に細かくという仕事のやり方です。その人間性は、日本人の 考え方、日本の文化が関係していると思います。 今まで、インドネシアの人には、そういう気質はあまりありませんでした。日々のお付き合いの中で、そういった優れた気質をずっと見続けてきて、とても素晴らしいことだと教訓になりました。

愛媛大学では、インドネシアのガジャマダ大学、ハサヌディン大学、ゴロンタロ大学等と交流協定が結ばれておりましたが、更なる交流を深めるため、卒業生の私が2008年12月に愛媛大学を訪問し、愛媛大学とボゴール農業大学との学術交流協定を結びました。現在、愛媛大学には留学生や研究員が20人以上来ていると聞いています。

それぞれ、御活躍されていることでしょう。また、今年、日本とインドネシアの友好 50 周年に当たることから、「愛媛・インドネシア友好協会」が設立され、その事務局が愛媛大学内に置かれることになりました。我々にとって、こんなに喜ばしいことはありません。インドネシアの発展には、まだまだ日本の協力が必要です。今後、ますます友好を深くしていきたいと思っています。

最後にメッセージをどうぞ

Ukuran sukses dan kesulitan bagi setiap individu itu berbeda. Tetapi kita masing-masing memiliki minimum target yang harus dicapai, dan tentu saja masing-masing mempunyai ukuran kebahagiaan dan pemahaman akan sesuatu yg berbeda.

Paling tidak, yang paling penting adalah pada setiap keadaan kita harus bertahan, jangan sampai menyerah atau mundur. Kalau belum bisa maju,minimal bertahan.

Belajar yang rajin, menjaga keseimbangan antar prestasi akademik dan juga penguatan kepribadian, penajaman kepekaan, managemen, Peningkatan manner. Yang tidak lain merupakan proses pengvjian prinsip hidup, dan nilai-nilai yang diperlukan nanti untuk struggle disini atau ketika pulang nanti ke tanah air.

成功することの困難さは、人によって違います。また、幸福 や理解力も人それぞれです。けれども、私たちには、誰もがやら ねばならない最低限のことがあります。

私たちは、どんな状況においても、諦めず前に進まねばなりません。前に進めないときでも、少なくともそこに踏み止まるべきです。

自分の人格を高めつつ学問に励むこと、また、他人を尊重し礼 儀作法を重んじること,それらは、日本にいる間だけでなく、母 国に帰ってからも守るべき大切なことなのです。

真の価値への追求



黄 河守

Hwang Has

国·地域:韓国

大学:一橋大学大学院経済学研究科

現 職: 開城工業地区支援財団監事

母校を留学先に選んだ理由

韓国の公務員であった私に、1987年秋、外国へ留学する(公務員訓練の一環)機会が与えられました。その時私は韓国より先進する国に行って留学生活を経験したく、日本は先進国でありながら同じアジアの国であるから、私にとってアメリカやヨーロッパの国より学ぶことが多いと思いました。また統一部の公務員であった私は北朝鮮と関連した勉強をしたいと思ったので、アメリカやヨーロッパの国々より日本が適切であると思いました。日本の大学の中で一橋大学を選択したのは、一橋大学が日本でいちばんいい学校であると聞いていたからです。

留学中特に思い出として残る出来事

国立大学である一橋大学の大学院生の研究室で夜おそくまで勉強しながら友だち(日本人の三浦弘二君、中国人の朱炎君など)とさまざまな話題で熱気溢れる討論をしたこと、その後ラーメンをつくって一緒に食べたことなどは、今考えても楽しい思い出です。指導教授の溝口先生と二人で経済研究所の所長室でゼミを行ったこともよい記憶として残っています。大学通りの満開した桜の花、雨降る日片手に傘を持って自転車で通学したこと、修士課程1年生の夏休みに約1カ月間旅行したこと、7月のある日夜通しで富士山を登ったこと(頂上で見た日出の光景は本当に素晴らしかった)などが心温まる思い出です。

日本の文化に対する印象

私の記憶に日本は「親切な国」「正直な国」と刻まれています。旅行中道に迷ったので、ある給油所に入ってガソリンは入れないで道を聞きましたが、給油所の主人が道を親切に説明し、また私の車が道路に入りやすいよう誘導して助けてくれました。また、日本人の日常生活の中にあらゆる神が深く根差していると考えます。仏壇を売る店が、華麗な看板を誇りながら都市の繁華街に店を構えている姿は理解しにくかったです。私の住んでいたアパートの近くに谷保天満宮があり、お正月にその神社へ大勢の人が訪れることも私には不思議なことに思えました。

現在までに、どのような職務を経て、留学経験がどのように役に 立っているか

2年6カ月間の留学の後、1990年3月にまた統一部に戻り、北朝鮮経済分析官、南北交流協力局長、企画管理室長、南北会談本部長などの職を担当し、17年間働いた後、2007年3月に統一部を退職しました。今は開城工業地区支援財団監事として働いています。一橋大学で中国経済を勉強した経験、それから三浦弘二君と朱炎君に学んだ社会主義に対する理解(韓国人が抱きがちな偏見の矯正)は、統一部で働く私に北朝鮮を見る視角をさまざまな面で補強してくれました。また日本という先進国での生活経験は、韓国が先進国になるためにどのような変化が必要であるかについて、識見を与えてくれました。

母校に期待すること

ー橋大学は日本の指導者を輩出することだけでなく、世界の指導者の輩出に努めることを期待します。21世紀を率いる指導者は Servant Leadership を身につけなければなりません。自分の国の国民を、また他の国を、治める対象でなく、仕える(Serve:奉仕)対象として認識する知性的リーダー、精神的リーダーを育成することを期待します。日本に来る後進国の留学生に、今も良く支援しているが、投資をするという考えで、もっと良い待遇を与えるといいと思います。彼らは留学の後帰国するとその国の指導者になるでしょう。

最後にメッセージをどうぞ

最近私は真の価値を持っていることが何か、全人生をかけて達成するべき目標は何であるかということについて考えます。お金を稼ぐことは、もっと重要なことをするための手段を確保することで、それ自体が人生の目標にはなり得ません。他人に奉仕することは人生の良い目標になると思います。このような価値のあることの為には、健康までも時には犠牲にします。現在という時間が、未来のための準備期間という意味のみで存在してはなりません。ある地位(位置、職、席)に到達した後、その地位を利用して価値のあることをすると思ったら、価値のあることをする時間は永遠に来ません。現在の仕事と生活の中で真の価値を追求すべきです。

モンゴル初の日本式高等学校を開校



<u>ジャンチブ・ガルバドラッハ</u>

Janchiv Galbadrakh

国・地域: モンゴル

大 学:山形大学大学院教育学研究科

現 職: 新モンゴル高等学校・校長

母校を留学先に選んだ理由は?

同じアジアの先進国である日本の発展の秘密は「教育」にあると考え、日本の大学で教育学を専攻し留学したいという希望を抱いていました。そんな時、教育研修生受入制度を利用しての日本留学が実現しました。大学選定に際しては、当該大学に留学した場合の家族にとっての「生活環境のよさ」を一番に考慮しました。その点において、山形市は東北地方に位置しており山々に囲まれていることからも、気候条件もモンゴルに近く、住みやすいだろうと判断しました。また、関東地方や関西地方に比べて物価も安く、地域の人々と交流する機会が多いだろうという期待もありました。さらに、山形大学の教育学部の紹介内容も大変気に入りました。このような理由から、山形大学に留学する意志を固めました。私を受け入れてくれた増田直彦先生にいつも感謝しています。

留学中特に思い出として残ることは?

教育研修制度利用中の1年半は国費留学生でしたが、その後修士課程に進学するに当たって私費での留学となりました。家族6人での生活であったため、学費や家計を私費で賄っていくことは大変困難でした。このときに経験した苦労があってこそ、今の私があるといつも思っています。山形県は盆

地で雪が多く、その中を、早朝からの新聞配達をやっとの思いで自転車をこいでしていたことが今でも忘れられません。

日本文化に対する印象は?

日本は何よりも「和」を重要視する国です。外国人がその「和」の中に入るためには「他人に迷惑をかけないこと」「他人の立場になって考えること」、「いただいた恩を忘れないこと」などの必要性を深く理解し、それを自分から素直にできるようになることが第一に必要です。日本人は、これらができる人とは外国人と敬遠することなく信頼して付き合う傾向があると感じました。

現在、どのような職務につき留学経験がどのように役立っていますか?

留学中、「教育」を発展のキーワードであると考え、そのノウハウを研究しました。理論は大学で学び、実践現場を4人の娘の通学する小・中・高校の現状を通して客観的に観察することができました。このようにして習得できた経験や研究結果をもって、2000年、ウランバ・トル市にモンゴル初の日本式高等学校を多くの山形市民の協力のもと開校し、現在その校長を務めています。このように留学経験を学校設立まで結びつけることができたのは、山形市民が中心となって私たち家族や私の高校設立の夢を絶えず支援してくださったおかげです。本校は現在まで5期の卒業生を輩出していますが、合計91人の志のある卒業生を日本に留学させることができました。

母校に期待することは何ですか?

母校の教育推進活動及び研究活動におけるさらなる発展と 開発を祈っています。また、留学生受け入れに関してもより 積極的でオープンな体制を整えてほしいと願っています。

最後にメッセージをどうぞ

Миний бие Японд магистрантур/Ямагата ИС/, докторантур/Тохоку ИС/-д суралцсаны дараа Мэйжигийн шинэчлэлийн үеийнх шиг үзэл бодолтой, ирээдүйд Монгол орныг нуруундаа үүрч явах шилдэг боловсон хүчийг бэлтгэх, улмаар өндөр хөгжилтэй Японы Их, дээд сургуульд боловсрол эзэмшүүлэх ажилд сэтгэл зүрхээ зориулж байгаа билээ. Ийм ч учраас Япон улсын бүх Их, дээд сургуулиудад гадаадын шилдэг оюутнуудыг олноор элсүүлж сургаасай гэж хүлээж байна.

私は日本の大学院修士課程(山形大)および博士課程(東北大)で学び、日本の明治維新の精神を見習って現在、母国にて教育活動に取り組んでいます。その目的は、モンゴルの未来を背負っていけるような優秀な人材を育成し、よって先進国である日本の教育を受けさせたいというものであります。そこで、日本の全大学がこのような留学生の活躍に期待し、海外からの留学生を多く受け入れてほしいと願っています。

指導方針により得た自信



ホセ ロベルト キフリ ジュニオル

Jose Roberto Kfoury Junior

国・地域: ブラジル

大 学: 東京海洋大学(留学時は東京水産大学大学院水産学研究科) (1993.4~1999.3)

現 職: サンパウロ大学獣医学部助教授

(1) 母校を留学先に選んだ理由は?

私はサンパウロ大学獣医学部の学生でしたが、小さいときから魚飼育が好きでいつかは魚の医者になってブラジルで観賞魚や養殖魚の病気を治そうと思っていました。しかし、当時のブラジルには魚の病気を専門に教える研究室はありませんでした。そこで、水産学の分野で世界的に最も有名な東京水産大学(現在は東京商船大学と統合して東京海洋大学に名称変更)の教授で、魚病学や免疫学の領域の先鋭的な研究論文を発表していた、水族病態生理学研究室の岡本信明先生に勇気を出して連絡をとりました。先生は私を博士前期課程の学生として受け入れることにとても親切で、研究内容も私が希望するものでしたので、留学先に決めました。

(2) 留学中特に思い出として残る出来事は?

日本文化は、ある一面では、西洋文化と異なっています。 そのひとつが食です。スーパーマーケットでの出来事は良く覚えています。パンを買いたかったのですが、最終的に私は「フレンチロール」を買いました。 家に着いて、パンを食べ始めたとき、中にぎっしりと「あん」が入っていることに非常に驚いたことを覚えています。研究面では指導方法に面食らいました。私はニジマスの不明皮膚病「Ra sh」を免疫学的に解明すべくいろいろな側面からアプローチして博士の学位を取得しましたが、岡本研究室では何事も一からすべて自分で考えて準備し、失敗を重ねることの中から研究者の素養を養う方針でしたので、ディスカッションをしても解答はなく、最初はどうして教えてくれないかと、泣いたこともあります。しかし、この研究環境の中で得た自信は、ブラジルに戻ってからの私を支えているものであり、良い思い出になっています。ブラジルで岡本研究室の指導方針を導入しようとしていますが、風土の違いもあり、なかなか上手くいきません。今はできるだけ教えないようにするために、私が我慢することを心掛けています。

(3) 日本文化に関するあなたの印象は?

日本文化は、とても豊かで、またとてもユニークです。 日本では伝統的な文化が、新しい習慣や最新の技術とうまく 調和しています。

(4) 現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っていますか?

私は現在、ブラジルのサンパウロ大学獣医学部で助教授を しています。家畜免疫学を主に教え、魚の免疫学の研究もし ています。

日本への留学はとても貴重な経験でした。技術的・科学的なトレーニング修得以外に、母国とは異なった文化に驚き、お互いを認めて尊重することを学ぶとともに、母国に対してより客観的で希望に満ちた見方をすることができるようになり、人生を充実させることができました。

(5) 母校に期待することは何ですか?

私は、東京海洋大学が日本で最も優れた大学の一つとして卓越した実績を継続することと、海洋学・水産学の世界のリーダーであり続けることを期待します。

最後にメッセージをどうぞ

The experience of being an international student is priceless, so if you have a chance, do not miss it.

留学生の経験はお金では買えない貴重なものです。留学のチャンスがあったら、逃さないでください。

偶然な幸運



キムティフォンワン

kim Thi Phuong Oanh

国・地域:ベトナム

大 学: 奈良女子大学理学部、大学院 人間文化研究科 (1997.4~1998.3、

1999.10 ~ 2003

現 職: 研究員
ベトナム科学技術アカデミー
バイオテックノロジ研究所
ハノイ ベトナル

私は初めて来日できたことは本当に偶然な幸運だったと思います。つまり、1997年に私の出身大学(ハノイ教育大学)と奈良女子大学の間で協定が結ばれたということです。そのおかげで、短期学生交換プログラム(AJEJ short-term student exchange program)によって、私と同級生の1人が日本に1年間の留学生として選定され、奈良女子大学理学部の和田恵次教授の下で1997年4月から1年間留学することができました。この1年間で、私たちは日本の学生および他の国の留学生と楽しく仲良く過ごしました。奈良女子大学をはじめ、奈良、そして日本の国が好きになりました。1年の留学があっという間に終わってしまいました。私は帰国して、ハノイ教育大学での大学院の勉強を続けて、いつか日本に戻るという夢を抱えていました。

理学部の春本晃江教授のおかげで、私の夢が実現できました。1999年10月に、奈良女子大学に戻って、博士後期課程に入学できました。私の研究テーマは「繊毛虫におけるコドン(遺伝暗号)使用と翻訳終結因子の終止コドン認識機構の

解析」でした。奈良女子大学でさまざまな分子生物の実験方法が学べたことは現在ベトナムでの仕事にしっかりした土台となっています。奈良女子大学で勉強した期間は私にとって素晴らしい期間でした。春の花見、夏の花火大会、秋の鮮やかな紅葉、そして研究室の皆さんと一緒にスキーに行った冬の日々は永遠に忘れられない思い出です。また、年末のクリスマスの直前に私たちの生物科学科ではダーウィン祭があります。その時には先生方と私たちは一緒にいろいろな料理を作ったり、歌を歌ったり、踊ったりして過ごしますが、特に先生方のコミカルな演技はとても楽しかったです。奈良女子大学でのアットホームな雰囲気が大好きです。

2003年3月に博士号を取得して、日本原子力研究開発機構のバイオインフォマティクスチームで博士研究員として就職しました。2006年4月に、JSPSの外国人特別研究員として、奈良女子大学にもう一度戻りました。私はまた2年間大好きな奈良女子大学で、面白い研究が出来ました。2008年3月に私はベトナムへ帰国しました。日本で分子生物およびバイオインフォマティクスの分野において経験したことをもとに、ベトナム帰国後にも研究活動を継続しています。現在車海老のゲノムを解析する仕事を担当しております。将来、ベトナムと日本と、特に奈良女子大学との共同研究プロジェクトの展開に自分の小さな力であっても貢献出来るように望んでいます。

最後にメッセージをどうぞ

Hãy tìm thấy niềm vui trong công việc, cố gắng lên bạn nhé.

留学生の皆さんは皆さんなりに、楽しく活動してください。頑張ってください。

異なる価値観を学んだ留学



北川 満志 (満 志偉)

国地域: 中国(日本に帰化) 大学: 徳島大学大学院歯学研究科 (1990.4~1994.3)

現職:大塚製薬研究開発、北京)有限公司董事長兼総経理

私は 1989 年国費留学生として選ばれ日本に留学しました。 質素で堅実な校風が、自分で考えて行動し、自発的に物事を 進める学生に向いているということで、私は留学先を徳島大 学に決めました。徳島大学は自然に囲まれた綺麗な学校です。

日本に留学する前、私は北京市内にある病院にて5年間外 科医として勤務しました。徳島大学に入学当時、日本語と英 語がうまく出来ず、違う文化や習慣の中で最初は学生生活に 馴染めませんでした。

研究においては、恩師である石田教授の指導の下で、言語能力だけではなく、独立で研究を行う能力を身につけ、皆の協力をえて、汗を流しながら、1993年に博士号を取得しました。生活面においては、違う文化と習慣の中で苦労しつつも、異なる価値観等を学びました。徳島大学に入ってから、今までの自分の考えと異なり、まずは他人と比べないこと、人はそれぞれ得意分野があって、自分には自分だけの価値があることを実感しました。また、一番印象に残ったのは石田教授に誘われて阿波踊りに行ったことです。阿波踊りを踊りながら日本の文化を体感しました。石川教授、石田教授と一緒に蛍を見に行ったこと、大鳴門橋への旅行、学会への参加等今でもなつかしく思い出されます。

大学院卒業後、大塚製薬に入社し、糖尿病の研究を担当しました。他人と比べないこと、自分の力を発揮し、人を尊敬することを常に心がけて研究しています。日本では、2型糖尿病患者が最近、数十年の間に激増しています。しかし、自

然発症的に日本人に類似した2型糖尿病の病態を呈する実験動物はいないので、糖尿病の発症の原因究明及び新薬開発には大変困難でした。しかし何年間の日夜にわたる研鑽と努力の結果、2型糖尿病の動物実験モデル(Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty (OLETF) ラット)の作成に成功しました。この動物モデルを用いた研究を持って、多数の有名な医学雑誌で英語科学論文を発表し、国際学会などで学術講演を行いました。1998年に、大塚製薬史上ただ一人の中国人として「藤井賞」を受賞しました。今でも、この動物モデルは世界各地の研究機関で糖尿病の原因究明と新薬開発に使われています。

2001年から中国医療事業に参与し、北京大学医学部で客員教授になりました。2003年、大塚明彦会長の指示で、大塚製薬研発(北京)有限公司(OBRI)を設立し、会長兼社長を担当しています。日韓中で新薬の早期承認を可能にし、社会への貢献は我々の最大の使命とし、統合失調症(精神病)治療薬、脳梗塞再発の抑制薬などを中国に上市することに成功しました。今 Drug-lag を解決し、日本を含む世界の患者に良い薬を一日でも早く届けるために、10個以上のプロジェクトの新薬開発を行っています。

現在、日系製薬企業北京医薬品部会(会員23社)の会長を務めています。活動は、セミナーの開催などの会員会社の情報交換、中国臨床開発登録申請現状の調査、表現への助言だけでなく、日本厚生労働省、日本製薬協会及び中国政府関連部門の架け橋にもなり、歴年の日本官民訪中団の訪中の交渉、資料準備、実施などを担当し、その成果は日本厚生労働省、日本製薬協会及び中国政府関連部門から高く評価されました。

これから管理業務や社会貢献において、日本で学んだ知識 や違う習慣でのものの見方を様々な場面に更に活かし、新薬 開発及び日中の架け橋になるよう全力を尽くします。

最後にメッセージをどうぞ

毕业后发挥日语特长, 成为连接日本和祖国的桥梁

卒業後は日本語を活かし、母国と結ぶ懸け橋に

日本語教育の道



Leng Limin

国·地域:中国

大 学:東京学芸大学大学院教育学研究科

現 職:北京師範大学 外文学院日本語 学部主任 准教授

. 東京学芸大学は私にとって第二の母校です。私は中国の 北京師範大学日本語学科を卒業し、日本語の教師をして10 年目になったところで日本語教育について勉強しなおし、留 学しようと決めました。

東京学芸大学は教師を育てる名門校です。中国の師範大学 出身の私、また日本語の教師である私にとってここで勉強す ることができたらと当時の夢だったのです。実際にここで学 んでいたことが後に本務のある日本語教育の現場で活かせ、 大いに役に立ったと言えます。

卒業して10年の歳月が経過しましたが、記憶に焼きつい ているかのようなことがあります。大学院合格発表の前日、 指導教官に「先生、わたし、受かるでしょうか」と不安の私。 「さあ、どうでしょう」と微笑みながらの先生。「多分大丈夫 だろうなぁ…」とそう自分に言い聞かせながらもやはり心配 でなりませんでした。発表当日、急いで大学に駆けつけた私、 掲示板に自分の名前が確認できたとき、この世で最高のうれ しさを抑え切れませんでした。

昨年、在職しながら、国際交流基金日本語国際センター・ 国立国語研究所・政策研究大学院大学の連携プログラム博士 課程を修了し、日本語教育研究博士の学位を取得しました。 思えば、学芸大での先生方の教えやご指導が、その後も今も、 日本語教育の道を歩み続けられてきた大きな原動力の一つと なったのです。

今、北京師範大学日本語学部で引き続き教鞭を取っていま すが、留学経験を活かし、学んだことを中国の日本語教育の 現場に還元しつつ、今後も日本語教育の道を邁進していきた いと考えています。

. 修了生、とりわけ教育現場で教鞭を取っている修了生の 再研修のようなプログラムを作っていただければと提案いた します。

最後にメッセージをどうぞ

谨向我的指导教官林明子教授以及日语教育专业的老师们 表示衷心的谢意! 是她(他)们指引我走进了日语教育的 世界。

日本語教育研究の世界へ導いてくださった指導教官の林明子 教授をはじめ日本語教育講座の先生方に心から御礼申し上げま す。

人生を変えた恩師との出会い



モハメド・イスマイル・ ホセイン

Md. Ismail Hossain

国・地域: バングラデシュ

大 学: 高知大学大学院農学研究科及び 愛媛大学大学院連合農学研究科

現 職: バングラデシュ農業大学水産学

.私の日本における私の研究テーマは、魚肉のジェル形成能力でした。その分野で有名な伊藤先生から人生は短いが、急ぐよりじっくりと地道に努力する人が成功に導かれるのだということを教えられました。現在、バングラデシュ農業大学水産学部水産加工学科教授として勤務していますが、伊藤先生から学び、培ったこの貴重な人生哲学をいつまでも忘れず守っています。高知大学当局には、このようなすばらしい研究環境を与えていただき、心から感謝しています。

. 私には、忘れることのできないすばらしい感動的な思い出があります。筋肉痛のため右手に手術を受けなければなりませんでした。実りある仕事ができず、精神的にも憂鬱な日々でした。ある日、伊藤先生が私のところに来られて、ついてくるようにとおっしゃいました。やがて海岸につきました。「ゲームを始めよう」と先生はおっしゃいました。それは海岸で異なる色の石を拾うことでした。早く7種類の色の石を見つけて拾ったほうが勝ち、この世で最も幸運な人になるというゲームでした。ゲームは楽しかったのですが、左手

だけで7種類の色の石を集めることは私には難しかったです。ゲームに勝って世界一幸せになりたくない人はいません。勝って幸せになるため一生懸命7色の石を集めようとしました。残念ながらポケットはいっぱいになりませんでした。しかし気が付くと、私のポケットがいっぱいになって、伊藤先生が「ごらん、あなたが勝った。あなたが世界一幸せになるんだ」と叫んだときは、驚きました。私の目は涙であふれました。私は伊藤先生に涙であふれた目を向けて立っていました。何とすばらしい先生なんだ!学生の憂鬱さを取り除き、精神力、心のパワーを与えてくださる先生、そのような努力を惜しまない、何とすばらしい先生なんだ!そのとき私は何も言えませんでした。感謝のことばも、何も。人生の中で最も深い感動を覚えた瞬間でした。これこそ私の人生を変えた経験です。

. 最後になりましたが、私に研究と学問的成長の機会を与えられ、博士号を与えてくださった日本政府と高知大学に、心から感謝の意を述べたく存じます。

伊藤先生は、高知大学農学部 伊藤慶明教授

最後にメッセージをどうぞ

I will never forget the evergreen land of Kochi, its forest, its mountain, clean water of Monobe River, the beautiful beach of Tosa and finally kind and warm hearted people of Kochi.

I know the views, thoughts and knowledge that I have acquired from Japan will remain vividly in my mind always.

Hontoo ni, Doomo Arigatoo Gozaimashita. All of these will be cherished forever.

高知の緑、森、山々、物部川の清流、土佐の美しい海岸、そ して高知の人々の親切で暖かいこころをいつまでも忘れません。

日本で培った人生観、知識、考え方は、常に生き生きと私の中に生きています。

ほんとうにどうもありがとうございました。これらすべてのことをとこしえに大切に守ります。

さらなる国際的な発展を



モハマッド レザウル カリム シェイク

Md. Rezaul Karim Sheikh

国地域: バングラデシュ

大 学: 北陸先端科学技術大学院大学材 料科学研究科

(1997.10 ~ 2001.3)

現 職: ラジシャヒ大学 応用化学・化学 工学科 教授

(1) 母校を留学先に選んだ理由は?

JAIST(北陸先端科学技術大学院大学)が、最先端の実験研究設備を有し、日本のトップレベルの大学のひとつであると知り、JAISTの博士課程で学ぶことを決めました。またそのときに、JAISTには(故)曽我教授、川上教授などマテリアルサイエンスの分野で経験豊かで高名な先生方がいらっしゃるということも知りました。私を文部科学省国費留学生として受け入れるために尽力してくださった川上教授に非常に感謝しています。

(2) 留学中特に思い出として残る出来事は?

思い出に残る出来事はたくさんあります。日本に行って間もなくの頃、大学の近隣に住む、以後、私が「日本のお母さん」と呼ぶ人に出会いました。当時、私は日本語が上手く話せず、また彼女は英語が話せませんでしたが、彼女は私にとても親切にしてくれました。そして、私は日本語を、彼女は英語を学び始め、私の日本語は上達していきました。

(3) 日本の文化に対する印象は?

うれしいことに、日本人は他の国の文化や言語に非常に関心を持っている国民だと言えます。私の日本人の友人の何人かは、私の母国語 (バングラ語)を話すことが出来るし、バングラ語の歌を歌うことも出来ます。

(4) 現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っていますか?

現在、私はバングラデシュのラジシャヒ大学 応用化学・ 化学工学科の教授として勤務しています。

日本留学の経験が、この大学の教授になることに大いに役立っています。

(5) 母校に期待することは何ですか?

私の出身大学が JAIST であることを誇りに感じています。 私の同僚や学生の中には同じく JAIST を卒業した者もいま す。JAIST はバングラデシュで非常に有名な大学です。私は、 JAIST の国際的な発展とスタッフの健勝を願っています。



最後にメッセージをどうぞ

Japanese people are kind and helpful to foreigner. They behave very friendly. There may have some exception in Tokyo.

日本人は外国の人たちにやさしく、助けになってくれ、非常 に好意的です。東京では一部例外はあるかもしれませんが。

態度は全てを決める、細部こそ勝敗を決める



孟 繁目

Meng FanJu

国·地域:中国

大 学: 室蘭工業大学大学院工学研究科 (1990 10~1995 3)

現 職: 上海精密軸承有限会社 総経理

1990年代、改革開放の進展に伴い、中国は、世界を知り、また、世界にも中国を知ってもらうことが必要となりました。それらのことから、海外への留学が徐々に簡単になり、多くの中国人が海外留学という道を選択しました。先進技術を学ぶ一方、自分の人生を変えるチャンスを探していました。私にとって幸運だったのは、日本の室蘭工業大学の教授である田頭孝介先生と出会えたことでした。田頭先生は私を受け入れてくださったうえに、身元保証人にまでなってくれました。田頭先生のお陰で日本へ留学するために必要な手続きが順調に進み、1990年10月に私の留学生活が始まりました。

室蘭工業大学で四年半の留学生活を送りました。最も印象的だったことは教科書に書いている知識、いわゆる理論や知識と実践との繋がりでした。大学は教科書で役に立つ理論や知識の習得を約束してくれると同時に、大学の実験室は学生に対して非常に開放的でした。学生たちはいろいろな実験を通して習得した知識を確かめることができます。工業大学として、学生たちの物づくり能力と実践能力の向上に取り組み、優秀なエンジニアを育て、社会においてその重大な役割を果たしています。これこそ中国の大学に不足しているところで

す。

学業を修めた後で、日本の会社で仕事をすることができたのは私にとって最高の経験でした。身をもって日本の経営管理の良さと日本人の勤労の精神を体験することができましたから。まさに「態度は全てを決める、細部こそ勝敗を決める。」という中国の諺の通りです。日本の企業で仕事をすると、「なぜトヨタ、松下など世界的な大手会社が日本で誕生したのか」という疑問に対して答えがわかってくるはずです。

アジアの歴史ある国々の礼儀と文明、ヨーロッパ社会のルールを守る自覚性、日本人はその二つを見事に調和させています。例えば、公共の場所では大きい声を出さない、できるだけ他人に迷惑をかけないなど。こういう面から見ると、中国は欠けているところが多くあります。日本での8年間、私は交通事故を見たことがなかったのですが、上海ではほぼ毎日交通事故が目に入ってきます。

最後にメッセージをどうぞ

留学期间、我认识了好多日本朋友、懂得了怎样和日本人相处。特别是在诚信方面、和别人约定的时间一定要遵守、答应别人的事情一定要去做。"言必信、行必果、"俨然成了评判一个人的最高标准。 留学的经历让我难忘、学到的知识令我终身受益。

留学している間にたくさんの日本の友人ができてよかったですし、日本人との触れ合いの中で、だんだんと日本人との接し方がわかってきました。誠実さはいかに重要なことであるか、また、約束を守ることの大切さ、この二つを理解することは基本であり、それに好意と相手に対する尊重を加えることで、どんな人とでも友達になれると思います。

留学の体験は忘れられない思い出ですし、その間に身につけた 経験と知識は私にとって一生の宝物です。

環境100%の大学



レンマンス クーン

Renmans Koen

国·地域: ベル<u>ギー</u>

大 学: 琉球大学法文学部、大学院人文 社会科学研究科 (1996 10~1997 9

私が琉球大学を選んだのはビーチで遊びたかったからではなく、研究内容が沖縄の文学や歴史だったからです。本土では沖縄を研究対象にする大学は極めて珍しく、資料の有様を考えて沖縄に留学するのが一番と思いました。幾つかの大学に願書を送り、3つの大学で受け入れてもらいましたが、結局琉球大学に決めました。その理由は、琉球大学には沖縄の研究に関わる授業や先生がいらっしゃったからです。その上、琉球大学所属図書館には沖縄資料室もあり、近くに沖縄公文書館、沖縄県立博物館などもあり、資料も揃っていました。

文化のあまり違う日本への留学はちょっと怖かったですが、大学がチューターなどを準備し、いろいろ案内してもらい、それほど日常生活に困ることはなかったです。日研生の時は日本語の授業がメインでしたが、日本人学生との交流は授業ではなく、それ以外に、サークルなどで行いました。琉球大学では当時、多言語多文化サロンが日本人との出会いの

場になり、そして地元の文化も八重山芸能研究サークルで学べました。沖縄の文化はまた、日本と違いますが、それがそれを専門にする私が琉球大学を選んだ理由の一つでした。今でも、三線など留学生のための沖縄文化の授業があり、地元の小中学校との交流、祭などへの参加もあります。学校外でも空手世界大会、ウチナンチュー大会、帆船、ハーリーフェスティバルなどのようなイベントで沖縄の一般人との出会いが出来ました。

現在は日本大使館の広報文化センターで働いていて、日本の文化や観光情報を広げる立場になっています。留学したときにいるいろなイベントを経験できましたので、今、開催する文化イベントに役に立つことが多いです。去年の日本週間で沖縄についてのセミナーを開き、沖縄の独特の文化や観光情報を話し、ちょっと違う日本の紹介も出来ました。ベルギーの母校の後輩も話しを聞き、琉球大学に留学することを決定しました。多くの沖縄での留学生と同様、沖縄に戻りたい気持ちが強く、卒業しても大学経由で沖縄での仕事が見つけられたらいいなと勝手に思う私ですが、皆さんも琉球大学に留学したら、その気持ちがよく分るようになることは間違いないでしょう。しっかり研究出来る環境だけではなく、滞在を楽しめる環境もそろっているので、琉球大学を推薦します。

最後にメッセージをどうぞ

De tijd die ik dankzij het Monbusho-prgramma doorbracht aan de Universiteit van de Ryukyu was zonder twijfel een bijzondere ervaring. Als nationale universiteit is de universiteit van een behoorlijk niveau en een goede studie omgeving. Vooral op mijn vakgebied, Okinawaanse studies, kon ik moeilijk beter treffen; de universiteit heeft een aantal zwaargewichten in het vajgebied als docenten en onderzoekers. De universiteitsbibliotheek was ook voorzien met een ware schatkamer op mijn vakgebied en wat toch nog ontbrak was in de Prefecturale Archiven vlakbij wel te vinden. Ook voor andere vakgebieden heeft de universiteit een goede naam.

De Universiteit van de Ryukyu heeft als bijkomend maar belangrijk voordeel dat het naast een goede studieomgeving ook bijzonder prettig toeven is. Culturele uitwisseling tussen buitenlandse studenten en Japanners worden aangemoedigd middles verschillende events.

Het warme klimaat. de gastvrijheid en culturele rijkdom van de plaatselijke bevolking en hun zuiderse mentaliteit maken van deze universiteit een plek waar men even intensief kan ontspannen als studeren. 琉球大学での留学は私の人生を変えました。私の研究内容は沖縄の文学や歴史だったのですが、琉球大学には専門の研究者がいて、図書館には沖縄資料室があり、さらに近くには沖縄公文書館、沖縄県立博物館があるなど、研究する上ですばらしい環境でした。

研究以外にも、さまざまな行事への参加や見学などが活発で、 それらを通して、他の国から来た留学生、日本人学生、地域の人々 との交流ができました。琉球大学は、研究もでき、生活を楽しむ こともできる環境 100%の大学です。

享受した忍耐強さと技術



リチャード フォックストン

Richard Foxton

国・地域: イングランド

大 学:東京医科歯科大学大学院医歯学 総合研究科

(1998.4 ~ 2003.3)

現 職: 臨床講師 King's College

London

留学中に特に思い出として残る出来事は?

留学中の思い出といえば、研究に対する専門的な知識を得られる喜びと厳しさを学べたことです。う蝕制御学分野及び摂食機能保存学において歯科用セラミックの接着実験を許可してくれた長谷川名誉教授、三浦教授、私を受け入れてくれた田上教授のおかげで、留学中に接着歯学の専門的知見を得ることが出来ました。今でも当時を思い出し、King's College London の学生に対して、監督であった講師の中島先生が少なくとも10回以上も論文を却下し、如何に書き直しさせたかを話します。私の学術的な経歴はけして立派なスタートではありませんでしたが、良い勉強でした。享受した忍耐強さと技術のおかげで研究は進み、今では学生に対し、その教えを伝えることが出来ます。

また、私にとってはさまざまな出会いがあったことも掛け替えのない思い出です。5年間の東京医科歯科大学の活動の間に出会えた各国出身の留学生は、私に歯科分野におけるグローバルな視野を展開させてくれました。そして、当時、共に文部科学省奨学生として活動していた妻とも出会うことができ、また、日本のさまざまな場所に行く機会にも恵まれま

した。

日本の文化に対する印象は?

空手や合気道のような格闘技を通して「日本文化への興味」 は高まりました。しかし、東京において、私が特に印象が深かったのは通学についてです。

思えば 1998 年の 4 月、東京行きの便は JAL のビジネスクラスで、荷物の重さすら心配する必要がなく、12,000 円の手当ても頂いていたので成田から成城学園にある祖師谷国際交流会館までタクシーを使って行くことが出来ました。しかし、そんな贅沢は続くはずもなく、梅雨時には調布で行われていた日本語クラスのために、仙川駅まで歩く「湿っぽい朝」を過ごすこととなり、傘を片手に自転車に乗ることに慣れるのにも時間を有しませんでした。今、私はロンドンの地下を行く通勤者であり、本当に 5 年間も日本に住んでいたのか?と疑問に思うほどです。ガタガタの自転車の上でみた「左右に揺れる奇妙な風景」も今では良い思い出です。

現在どのような職務につき、留学経験がどのように役に 立っていますか?

現在、私は King's College London Dental Institute にて、臨床講師をしています。また、過去数年間に渡って、海外に向けた活動として本研究所と東京医科歯科大学の交流を築くために努めてきました。

本学部の副学部長であるカラコンベ教授(Prof. Challacombe)も、学生による国際的活動について意欲を示しており、また、去年の11月には2人の学部長から両校の学部生に向けた交換留学への同意を得ることが出来ました。

最後にメッセージをどうぞ

I would like to conclude this article by thanking the Japanese Embassy in London for awarding me a Monbusho Scholarship and Emeritus Professor Hasegawa for accepting me as a foreign student in his Department. Finally, I would like to say a big thank you to all the past and present staff and students at Tokyo Medical and Dental University for a most memorable experience, one, which I will never forget.

私に文部科学省奨学制度を許可したロンドン日本大使館並びに留学生として私を引き受けてくれた長谷川名誉教授に感謝することでこの文章を終わりたいと思います。最後になりましたが、私がけして忘れられない、また生涯忘れることが出来ないであろう経験をくれた東京医科歯科大学の新旧すべてのスタッフと学生に、深甚なる感謝の意を表します。

日本での私費留学体験



リフキ・ムヒダ

Rifki Muhida

国・地域: インドネシア

大 学: 大阪大学大学院工学研究科

(1999.10~2005.3)

現職: International Islamic University

Malaysia (IIUM) Assistant Professor

「充実した大学院生活なら、欧米よりも日本。日本の大学院には他国とは全く違う魅力がありますよ。」と聞いて驚きました。母校、バンドン工科大学(ITB)の教授の言葉です。ぜひそれを確かめてみたいと思い、日本留学を決意しました。1999年2月、奨学金もなければ、アルバイト先、大学も決まらず、日本語もできないという不安な状態での来日となりました。

来日後、私は大阪大学大学院工学研究科教授笠井秀明先生の論文を読み、自分の学問的な未熟さを思い知らされましたが、大阪大学で笠井先生に面会した時、先生の励ましにより 大阪大学入学を決意しました。そしてアルバイトを増やし必死に学費と入学金を貯めました。

同年9月、研究生として大阪大学に入学、私の人生でいちばん辛い時期が始まりました。笠井先生の前で、一週間に3回ゼミを行います。回数が増えて一日中ゼミ漬けの時もありました。当初、私は子ども扱いされているように感じ、この指導スタイルには到底馴染めないと思いました。が、一方では、ハードなゼミが終わる度に、なぜ先生が貴重な時間を私のために費やした上、「これは君にとって大切なことや」と

指導し励まして下さるのか、考えずにはおられませんでした。 準備不足な時には、よく怒られました。けれど先生は、時々、 実の父親のように、毎日の暮らしや経済状況について心配し て下さり、どれほど心強かったことか…。2000年4月から 2年間、私は、企業の奨学金をいただき、初めて研究に集中 できるようになり、徐々に研究成果が出始めました。

2度目の危機は博士後期課程進学後に訪れました。私は奨学金が得られず借金が膨れ上がり、志半ばにして帰国するかどうかの瀬戸際に立たされました。幸い、翌年、日本学術振興会特別研究員に採用され研究奨励金をいただくことになりました。それからは全力投入で研究に向かい、研究発表や特許取得など成果が挙がって、ようやく研究者として一歩を踏み出したと実感できました。2005年3月に博士後期課程を修了し博士号を取得しました。そしてポスドク研究員、21世紀COE特任助手を経て、マレーシアのInternational Islamic University(IIUM)でAssistant Professorの職を得て、お世話になった日本を後にしました。振り返ると、母国で聞いた「日本式」大学院教育 つまり「研究室」に所属して親密な指導を受け、研究室の仲間と行うグループワーク を通して実り多い研究生活を送ったことを幸いに思います。

私のような発展途上国出身の学生の場合、日本での生活は、 経済面で非常に厳しい綱渡りになることがあります。そのような留学生の生活費、学費などの不安が軽減され学業に専念 できることを願ってやみません。また、私のこの体験が、日 本留学を志す若い学生たちの励みになればと思います。

最後に、日本留学という困難な旅路を8年間も支えて下 さった笠井先生に心より感謝を捧げます。

最後にメッセージをどうぞ

Saya mengucapkan terimakasih kepada Osaka university yang telah memberikan banyak peluang dan kesempatan kepada saya dalam mencapai cita-cita saya. Saya berharap lebih banyak lagi mahasiswa asing yang datang ke Jepang untuk belajar, tidak saja belajar bidang yang diminati tetapi juga tentang cara hidup orang jepang yang bernilai positif seperti disiplin, kerja keras, dan menghargai orang lain.

私の夢の実現のために貴重なチャンスを与えて下さった大阪 大学に感謝します。将来、より多くの留学生が日本で学ぶことに より、規律正しさ、勤勉さ、感謝の気持ちなど日本の良いところ を知ってほしいと思います。

留学中の貴重な体験と現在



トゥミラン

Tumirar

国・地域: インドネシア

大 学: 埼玉大学大学院理工学研究科

現 職: ガジャマダ大学 工学部長

日本留学を決意した理由

私は1986年、ガジャマダ大学工学部電気工学科教員候補に採用されました。1989年大学の推薦を受けたうえで日本政府(旧文部省)奨学金に応募しました。留学先として日本を選んだ理由として、日本の技術はアジアで最も進んでいること、私の専門である電力工学に関する研究がすでにたくさん行われていることです。1990年、文部省奨学金受給者に選ばれました。1990年10月筑波大学での予備教育を経て1991年4月、埼玉大学大学院博士前期課程に入学、小林信一教授の指導を受けました。1993年には博士前期課程を修了し、同博士後期課程に進学し、1996年に修了しました。

日本文化に対する私の見方

私が大変興味深く感じているのは、日本はすでに技術先進 国であるのに、古い文化や習慣をしっかり守っているように 見えることです。これは日本の大変素晴らしい特徴です。

インドネシア人も、日本人の規律を守る精神、時間厳守、 勤勉さ、責任感の強さ、衛生観念、節約精神といった文化や 習慣を手本にする必要があると思います。高齢者を敬う態度 も社会のあり方の一部として見習う価値があります。

日本で学んだことが帰国後の研究生活にどのように生かされているか

日本での経験は今の私の研究生活に大変役立っています。 埼玉大学での教育だけでなく、日本の研究者との交流、学会 誌での論文発表、国際会議への参加など、在学中にさまざま な体験をする機会を得ることができました。また、私は留学 中インドネシア留学生協会の会長を務め、たくさんの日本の 市民やNGO、全国のインドネシア人留学生、来日したイン ドネシア政府高官と交流することができました。

また、在任中友人とともにインドネシア人留学生同士の学術セミナーを開催しました。その経験が実を結び、日本留学経験者は帰国後も積極的に全国レベルの学術活動を行っています。帰国後私が学科長、それに続いて学部長になれたのも日本での留学経験と無関係ではありません。

埼玉大学に期待すること

まずこの場を借りて、博士課程修了まで辛抱強くそして熱心に私を助けてくださった指導教官の小林信一教授、佐藤則明教授、大嶋健司教授、羽石操教授、高エネルギー加速器研究機構の齊藤芳男教授に感謝の辞を申し上げます。

埼玉大学に対しては、引き続き日本人だけでなく外国人も 含めた人類全体の知を高める役割を担ってほしいと願うとと もに、食糧やエネルギー、情報技術などの研究分野において 埼玉大学を含む日本の大学とインドネシアとの協力関係がさ らに発展することを期待しています。

最後にメッセージをどうぞ

Semoga hubungan Indonesia Jepang keDepan Tetap Lestari dan Harmonis.

インドネシアと日本の良好な関係が今後もずっと続きますように。

留学から15年、今に繋がる研究を振り返って



王 建濤 Wang JianTao

vvarig olari iao

国·地域:中国

大 学:東北大学工学部、 大学院工学研究科

(1993.4 ~ 2000.9)

現 職:中国科学院物理研究所 教授

日本に来るまで、中国山西省にある太原冶金工業学校に 於いて鉄鋼冶金を勉強したことがあり、東北大学は冶金学、 特に金属材料研究に関して世界的有名な大学と知りました。 1993年4月、念願の東北大学工学部金属材料系への編入学 ができました。青葉山において学部三年間の勉強を経て、 2000年9月博士学位を取得するまで金属材料研究所で研究 を行いました。

東北大学に入学する際、万谷志郎先生の最終公演を聞いたことを覚えています。当初は鉄鋼冶金学を勉強するつもりでした。但し、1995年ごろ、世界的に鉄鋼産業の不況から新しいハイテク産業に転じる時期になりました。このため、四年生で研究室に配属になる際、深道和明先生担当する固体物性研究室を選び、アモルファス磁性の研究を始めました。この頃、大谷博士は同研究室の助教授に勤めており、毎週一回のセミナーで「固体の磁気的性質」に関して詳しく勉強しました。今もその本を大事に持っています。

学部から大学院へ進学するのは推薦入学でした。1996年のお正月の後、研究室を決めるため、日本の学生と一緒に金研の研究室を見学しました。金研は中国人研究者がたくさん集まっている所でした。当時、川添良幸先生担当する合金

設計製御工学研究部門(現在は計算材料学研究部門)では清華大学、複旦大学から13人ぐらいの著名な中国人研究者が集まって研究に従事していました。金研を選んだのは助手であった李志強博士たちの誘いも一つの主な原因と言えます。これ以来今日まで計算物理の道を歩み続けています。

大学院で川添先生からいただいた研究テーマは多層膜磁性 とクラスターの二つありました。同じく進学した種田さんが クラスターの研究に、私は多層膜磁性に関する第一原理計 算を行うことになりました。この研究テーマを持って1998 年4月から2001年3月まで日本学術振興会特別研究員に採 用されました。磁性に関する研究知識を身に着けたのはこの 時期でした。そして、2002年からシリコン表面にある Bi ナ ノーワイヤの研究をはじめました。この頃、独立行政法人物 質・材料研究機構三木博士の研究グループおよび九州工業大 学内藤博士たちは実験的に綺麗な Bi ナノーワイヤをシリコ ン(001)表面に作ることに成功しました。特に三木博士た ちははじめて(5-7-5)構造を提案しました。これを機に、今 日まで半導体表面構造および物性の研究に従事することに なりました。この間、川添先生との共同研究で第一原理計算 によって(5-7-5)表面構造を作り出す動力学的メカニズム、 並びにシリコン(001)表面にある Sb 四量体拡散メカニズ ムに関する研究で大きな成果を挙げました。お蔭様で、"シ リコン表面にある Sb4 四量体の二段階分解拡散メカニズム " は2006年度中国基礎研究 TOP30に選ばれました。

帰国後も毎年2、3回仙台を訪問し、今も川添先生との共同研究を続けています。東北大学入学以来通算して15年間の勉強研究生涯を送って来ました。私にとって仙台は第二の故郷であります。

最後にメッセージをどうぞ

非常感谢各位老师、同学以及曾给予我帮助的所有朋友, 祝各位身体健康。也衷心地祝愿东北大学取得更多辉煌的 成就。 長い間お世話にった先生方、同級生の友達に感謝すると共に、 皆のご健康を願っております。又、東北大学一層のご発展を心よ り願っております。

災いから貴重な縁に...



楊 建華

Yang Jianhua

国·地域: 中国

大 学:岩手大学大学院人文社会科学研

究科

(1997.10~2001.3)

現 職:中国寧波大学外語学院副教授

日本の伝統的な文化に触れたい、人情の深い場所かつ素朴な気風に包まれているところで留学生活を送りたいと思い、1997年に1年間滞在していた関西から「北国の春」という歌から知っている日本の北国の岩手に来ました。大雪が降ったにもかかわらず、行ったことのない、知っている人は一人もいない岩手大学が受け入れをしてくれて、とても暖かい雰囲気を感じました。キャンパスを歩いたとき、そんなに規模の大きい大学ではないけれど、歴史が古くて、伝統文化が溢れている独特の大学だと思いました。

私費留学だから、仕送りもないし、アルバイトをしながら 勉強するのは一般留学生の姿です。私は例外なく、放課後、 急いで遠くのアルバイト先まで走っていました。それは真冬 の頃、大雪を冒して、自転車で10キロ以上離れているビッ グハウスへ向かっている途中、車から撥ねられた泥水を避け るため、転んでしまいました。「大丈夫ですか」と、助けて くれたのは市役所の部長を務めていた日本の方でした。その ことが縁で、異文化交流教師として、市の教育委員会に紹介 してくれました。これを機会に、中国文化講座を開いたり、 日本の方とコミュニケーションをとったりして、多くの日本 社会及び日本文化に触れ合うことが出来ました。大変な留学 生活はたくさんの方に助けられ、有意義な日々に変わりました。

古くてよいものを残し、外国から優れているものを迅速に 吸収し、改善するというのが私の日本文化に対するイメージ です。

帰国後、中国の寧波大学外語学院の講師になり、日本語を 専攻している学生に日本語を教えながら、中日文化比較の研究をし、自分の留学経験を生かし、学生や地元の人に、日本 文化を伝えることにやり甲斐を感じているところです。中日 大学の間にも、学術・学生交流協定を締結するように努力し て、現在、岩手大学や広島大学文学研究科はもう寧波大学の 友好大学になり、毎年6人程度の最も優秀な学生を選抜し、 交換留学生として派遣しています。

一日も早く友好大学の間に、ダブルディグリー制度を作り、 たくさんの留学生を受け入れ、よりいっそう国際的な大学に なることが私の母校に対する希望です。

最後にメッセージをどうぞ

在日本留学期间,受到老师们的特别关照,在此深表谢意。 而且,得以体验了日本第一的桑莎舞、愉快的大学纪念节、 特别兴奋的修学旅行,都成为美好的回忆。 留学中、多くの先生や職員に大変お世話になり、まことにありがとうございました。そして、日本一のさんさ踊りとか、楽しい大学祭とか、有意義な修学旅行を体験させていただき、とてもいい思い出になりました。

万葉の故郷、奈良で学んで



張 忠鋒

Zhang Zhongfeng

国·地域: 中国

大 学: 奈良教育大学大学院教育学研究科

(1995.1 ~ 1998.3)

現 職: 西安外国語大学准教授

2008年11月19日から23日までの5日間、奈良教育大学「地域と伝統文化」教育プログラム西安外国語大学の評価委員として、再び母校奈良教育大学を訪れる機会に恵まれました。 改めて豊かな自然に囲まれ、雄大な歴史遺産を抱えている奈良の町の中心にある奈良教育大学の文化環境の素晴らしさを感じました。

念願の奈良教育大学の留学が実現したのは13年前、阪神大震災直後の1995年1月27日でした。当時、私は日本文部省国費留学生として来日し、奈良教育大学の大学院で、3年間にわたって日本古典文学の勉強をさせていただきました。なぜ、奈良教育大学を自分の日本留学の拠点に選んだのか。その理由についてはあいまいな答えしか思い浮かびませんが、私が奈良教育大学を選んだというよりも、むしろ、縁というものによって、私と奈良教育大学とが結ばれていたと言ったほうが適切ではないかと私は思っています。

私は、かつて長安と呼ばれていた中国西安に育ち、西安と 奈良が姉妹都市の関係を結んでいたということで、小学校の 時から既に奈良という地名を覚えていました。地理が好きな 私は、奈良がどのような町なのか、地図を見ながら、好奇心 が次から次へと湧き、いろいろと想像しました。そして、大 きくなったらぜひ奈良へ行ってみたい、という夢がひそかに 心に芽生えていました。今考えますと、私と奈良との縁は、 この時からもう始まっていたと思わずにはいられません。

時が経つにつれ、英語も好きだった私は、厳しい受験生活 を終え、希望どおりに西安外国語大学に入学しました。しか し、英文学専攻の願書を提出した私が、どういうわけか日本 語科に配属されました。なぜ、日本語科に配属されたのだろうと、私は不思議に思いながらも、躊躇せずに日本語や日本文学の勉強を始めました。日本語の勉強は、忘れかけた子どもの時の夢を再び蘇らせ、特に、かの有名な遣唐使・阿倍仲麻呂の「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に出でし月かも」の歌を詠んだ時、奈良という町を見たいという気持ちがますます膨らんできました。そのとき、もし将来日本留学のチャンスがあれば、必ず奈良の大学に行くと心の中に決めたのです。

大学卒業後、日本語教師が不足していたため、大学側の要請により、母校に残り、日本語教育の指導をすることになりました。日本語教師をして5年目、思いもかけないまさに運命的な出会いが起きました。奈良教育大学の川北泰彦先生が西安外国語大学にお見えになったのです。もちろん、私は川北先生とは面識もなく、先生も私のことをご存じありませんでした。川北先生との出会いは、まったく偶然そのものでした。しかしその偶然から、川北先生のご尽力で上記のように1995年1月27日に念願の奈良教育大学への留学が実現したのであります。奈良教育大学への留学は、振り返れば、あたかも運命づけられたもののように思えます。

奈良教育大学での3年間の留学生活は、本当に充実した、かつ楽しいものでした。川北先生、真鍋昌弘先生をはじめ、多くの素晴らしい先生に恵まれ、学問の面においても、生活の面においても、熱心なご指導をいただきました。今も感謝の気持ちでいっぱいです。

今、私は万葉集を中心に日本古典の研究をしております。 やはり、万葉の故郷である奈良にある奈良教育大学の留学経 験があってこそ、万葉集の研究ができているのではないかと 思われます。

嬉しいことに、2006年の6月、西安外国語大学と奈良教育大学という私にとって二つの母校が姉妹校の関係を結びました。奈良教育大学とのご縁がますます深くなっていくことを祈念するとともに、両校の発展のために尽力したいと考えています。

最後にメッセージをどうぞ

愿奈良教育大学成为研究者的摇篮,学问的天堂.

奈良教育大学が研究者の揺籃、学問のパラダイスになるよう 心から願っております。

長岡技大で見つかった宝物



ダン ダン トゥン

Dang Dang Tung

国・地域:ベトナム

大 学: 長岡技術科学大学工学部、 大学院工学研究科 (2000.4~2007.3)

現職:ホーチミン市工科大学 講師

長岡技術科学大学での生活が始まった当初は、慣れない生活にも随分と戸惑ったものでしたが、非常に充実した生活を送ることができたと思っています。技大は高専からの学生が主体であることや留学生が多いことなど、「非常に特色ある学校」という印象で、私の目には新鮮に映ることが多かったです。講義は難度も高く、私の高専時代の勉強が足りなかったためか、ついていくのは大変で、研究や実験も決して楽なものではありませんでした。しかしその分問題が解決出来た際の喜びも一段と大きなものになり、非常にやりがいを感じました。

技大の先生方や事務の方にもお世話になり、遊びに連れていってもらったり、一緒に食事をしたりと忘れられない思い出を作ってくれました。長岡市近辺での国際交流イベントなどに参加し、大学以外の友達もできて、自分の視野も広げることができました。このように多くの人と交流する中で、長岡の人々が私を家族の一員のように温かく接してくれたことは、とても貴重な経験となりました。

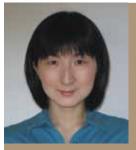
自分が選んだ留学という道で「宝物」を見つけるまでは、私 の中で孤独と忍耐の戦いでもありました。在学中に水害、大 地震、台風、大雪などさまざまな出来事に見舞われ、いくつ もの壁にぶつかり、何度も挫折しそうになりましたが、その ひとつひとつを乗り越える度に少しずつ成長していく自分を 感じることができました。また、ここまでやってこられたの も、多くの経験から学び、応援してくれた方々との出会いが あったおかげです。日本で出会ったさまざまな国の友達、日 本語がまだおぼつかない高専生の頃、勉強はもちろん、日本 の習慣についても教えてくれた友人たち、これまでの勉強や 研究を指導してくれた先生方や研究室の先輩、徹夜につき 合ってくれた仲間がいたからこそ、私はこれまでやって来ら れたのだと思います。特に大学生時代の友人たちは、時には ライバルのような厳しい関係でもありましたが、友達として 温かく励まして私を支えてくれました。このような多くの出 会いや経験は私にとって「目に見えない心の宝物」です。 現在ベトナム・ホーチミン市工科大学の講師で、長岡技術科 学大学の客員准教授でもある私は、両大学が進めているツイ ニングプログラムで学生に専門教育を指導しています。これ は日本で得た知識や技術を十分生かして、人材育成に貢献し たいと昔から思い続けていた夢を叶えたと言えるでしょう。 今後、さらに素晴らしい出会い、貴重な経験が増えることを 願いながら、今の宝物を大切にし、育てていきたい。そして これからも、素敵な宝物を見つけていけるように頑張りたい と思います。

最後にメッセージをどうぞ

Bạn có thể có được rất nhiều niềm vui trong học tập, nghiên cứu, câu lạc bộ giải trí, và thực tập ngoài trường cùng với nhiều người bạn cùng mục tiêu, cùng chí hướng, cùng hoài bão. Tôi cảm thấy rất hạnh phúc và may mắn được học tập trong một ngôi trường đại học đa sắc thái gồm cả những sinh viên đến từ năm thứ nhất, những sinh viên đến từ trường cao đẳng, những sinh viên đến từ nhiều quốc gia khác nhau. Trong tương lai, dù có đi đâu hay làm việc gì, tôi cũng xem những năm tháng học tập trường Đại học Công Nghệ Nagaoka như những hành trang quí giá trong suốt cuộc đời của mình.

長岡技術科学大学には講義や研究、サークル活動、実務訓練のほかにも、たくさん楽しいことがありました。遠く離れた地で自分と同じような目標や期待を抱いた仲間が集まってきます。学部 1 年生、高専からの 3 年編入生、さまざまな国の留学生から良い刺激を受けます。こういった、特色の多い大学にはずっと素晴らしい大学でいてほしいです。将来、どこへ行っても、何をしても、長岡技術科学大学で得た宝物のようなものを胸の中にしまっていきたい。

学問と日本文化への羨望



竇 婉 Dou Wan

国·地域:中国

大学:神戸大学大学院経済学研究科(2002.4~2004.3)

現 職: みずほコーポレート銀行(中国) 有限公司 北京支店 営業事務課 課長代理

私は、大学を卒業するまで、北京から離れたことがありませんでした。当時、就職も考えていましたが、学問に対するより深い探究心と日本の文化に対する憧れが日に日に高まる中、渡日することを決意しました。日本では、日本語を習得し、2002年4月に神戸大学大学院に入学しました。神戸大学の正門から見える海は、いつも私の気持ちを落ち着かせてくれました。そしてその光景は今でも忘れることができません。

博士課程前期1年目でほとんどの単位を獲得し、2年目では、卒業論文の作成とインターンシップに専念しました。合計16課程科目のうち、14科目は「優」でしたが、残りの二科目がそれぞれ「良」と「可」だったことがとても残念でした。

その「良」をとった科目は、必修科目の「ミクロ経済学」でした。当該科目は第1回目での合格率が低いと有名でしたが、私は初回合格を目標にして、講義ノートに書かれた公式の算出方法を理解するために、何度も計算し、経過を暗記することに努力しました。その結果、当該科目の「良」をとった2人のうちの唯一の外国人留学生となりました。

一方、「可」をとった科目は、「計量経済学」でした。ある計算問題の公式利用と計算過程は共に正確でしたが、最終計算の間違いが原因で、その問題は零点と採点され、結果的に評価が「可」となりました。良い成績だけを残すよう、「可」のテスト結果を放棄して、再試験に望もうとしていたが、先生の評価基準に大変感銘を受け、私の考えを変えました。それは「計量経済の世界は、過程より、結果は最終の評判基準」

ということです。この考えは私のその後の仕事に大きな影響 を与えました。

帰国後の私は、みずほコーポレート銀行北京支店に入社し、 営業担当として、日系企業の金融ニーズにお応えできるよう 東奔西走の日々です。実務の中で、常に結果の正確性を追求 してきました。

仕事上、お客様に対する金融情報の提供や金融商品のプレゼンテーションをする際には、マクロ経済、ミクロ経済、国際金融論等学校で習った基礎知識、理論が大変役に立っていると実感しています。また、私の修士論文テーマは、「東アジア各国為替制度の選択に関する分析」であり、中国の為替制度に対しても実証分析しました。2005年7月に人民元の切り上げ、ドルペッグ制から管理変動相場制への移行が発表されましたが、自分の検証方向と一致していたことに驚きと共に喜びを感じました。

私は昨年に出産、産休を経て、会社復帰後まもなく、営業担当から営業事務課の課長代理に任命されました。これからはさらに、神戸大学で身につけた学問や教養を活かして、一層精進していきたいと思います。

神戸大学での留学生活は私にとって一生の宝物です。諸先生方に心から感謝しております。

【補足】: もう一つの思い出~イノシシ:

ある日の夜中の1時、研究室で宿題を終え帰宅しようと、神戸大学正門前まで歩いたら、6匹のイノシシに囲まれてしまいました。私は慌てて公衆電話ボックスに逃げ込みました。電話ボックスの中では、自分の心臓が「ドン・ドン・ドン」と鳴り、電話ボックスの外では、イノシシ達が静かにこちらをみている…数分間があまりも長く感じていた時、警備員さんが懐中電灯を持ち、助けに来てくれました。ゆらゆらと揺れるライトのおかげで、イノシシたちは去っていきました。こちらも一生忘れられない留学生活の思い出です。

最後にメッセージをどうぞ

因为智慧比珍珠更美,一切可喜爱的都不足与比较。

知恵は真珠にまさり、どのような財宝も比べることはできない。

日本の木版画を学んで作品のイメージが深化



ハサン キラン

Hasan Kirar

国・地域: トルコ

大学:東京藝術大学大学院美術研究科

現 職: ユズジ・ユル大学美術学部講師

母校を留学先に選んだ理由

私の専門は木版画です。日本の木版画に以前から興味がありましたので、日本に留学して東京藝術大学で学ぶことは、私の一番の夢でした。東京藝大では、伝統的な木版画技法を用いて現代的な作品を制作している野田哲也先生が教えてらっしゃいました。野田先生のアトリエで制作したかったことも、東京藝大に留学した理由の一つです。

留学中特に思い出として残る出来事

留学中の思い出はいろいろあります。すべてが素敵な思い出です。2007年には第5回飛騨高山現代木版画ビエンナーレで準大賞を受賞し、その賞金で3週間ほど旅行をしました。飛騨高山の白川郷を始め、京都、金沢、山陰、九州それに日光と日本のいろいろなところへ行き、日本の文化を直接体で感じることができました。

また、日本にいる間には、トルコの美術雑誌にたくさんの 記事を書きました。日本の美術動向について学んだことを自 分の言葉で母国に伝えることができ、すごく良い経験になり ました。

日本の文化に対する印象

日本の文化からは、いろいろ影響を受けましたが、特に正 月、神社や寺院に参拝に行くことがとても印象に残っており 面白かったです。それに、日本人は真面目で親切な人が多く、 いろいろな面でお世話になり感謝しています。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っているか

最も役に立っていることは、水性木版画を日本で学んだことです。そのお陰で、私の作品のイメージは深化しましたし技法も上達しました。現在、トルコのユズジ・ユル大学で版画技法を教えています。国立大学ですがあまり裕福な大学ではないため、やりたいことが充分できない状況ですが、日本で学んだことを活かした教えができるよう努力しています。

トルコに戻ってからは、日本の版画芸術についての発表を2回行うとともに、美術雑誌と日本版画芸術雑誌に6回ほど記事を書きました。また、イスタンプールのシンポジウムでも日本の現代版画についての発表を行うことができました。そして今、木版画技法についての本を書いていますが、次は日本で体験した文化や習慣の思い出についても書いてみたいと思っています。



最後にメッセージをどうぞ

Japonya'daki egitimim cok guzel gecti.Cok guzel tecrubeler edindim. 5 yil bana yetmedi.Japonya'ya 2010 yilinda mutlaka donup modern baski sanati ile ilgili kitap yazmak istiyorum. 2010 yilinin bahar ayinda tekrar Japonya'ya donmek istiyorum. Japonya'yi gonulden sevdigim icin adeta benim ikinci ulkem oldu.

日本に留学してすごく良かった。5年間では足りないくらいです。日本の現代版画についての本を書くために、また必ず行きたいと思っています。2010年の春頃に日本に戻ることを楽しみにしています。日本は心から好きな国で第2の母国になりました。

理論的な面より実感ができる教育が重要



鄭 眞僖

Jeong JinHee

国·地域:韓国

、学:鳴門教育大学大学院学校教育

研究科

(2006.4~2008.3)

現職: 小学校教師

. 鳴門教育大学を留学先に選んだ理由

大学院(修士課程)に入学する前に、交換留学生として鳴門教育大学で約1年間学んだことがありました。その時に良い印象を受けたことがきっかけとなり、いつかまた、鳴門教育大学で勉強したいと思っていました。韓国に帰国後、再び、日本で勉強する機会が得られたので、当然のように鳴門教育大学に留学することを決めました。

. 留学中特に思い出として残る出来事

同級生やゼミ生たちと一緒にした勉強や旅行、各国から来た留学生たちと料理をして食べたこと、地域の優しい人々と交流した日本の文化体験など、忘れられない思い出は沢山あります。その中でも特に残っている思い出としては教育心理相談室で1年間ぐらい担当した面接経験です。ことばが少しぐらい通じなくても人と人は心が通じるということを学んだ忘れられない経験です。勉強以外としてはゼミ生と行った富士山の登山が頭に浮かびます。富士山は日本の代表的な山で必ず登りたいと思いました。登山は思ったよりすごく大変でしたが、その時にサポートしてくれた友達の優しさと温かい心は留学中の寂しい時、私の励みになりました。

. 日本の文化に対する印象

日本で「あの文化はすごいな~、韓国でもそれができたらいいな~」と思ったことは「祭り」です。特に「阿波踊り」は日本の文化として良い面が多い祭りだと思いました。まず、男女老少が一緒に参加して楽しめるということがすごいと思いました。最近、大人と子どもが共有する文化が段々少なくなっていますが皆が、一緒に踊りながら交流するのは大事なことだと考えます。それから、お互いに協力して練習するというその過程もすばらしいと思いました。個人主義が広がっている現代社会で地域住民が協力できる文化があるということは貴重な意味があると考えています。

. 留学経験が職務に役に立ったこと

留学経験を通して、遠いと思った国や人々が距離的・心理的に近くなったと感じました。現在、私は韓国で小学校の先生であり、私が教えている小学生たちは世界化している社会で住んでいます。理論的な面より実感ができる教育が重要です。そして、私の留学経験は本やインターネットの情報より、生徒たちにとっては生き生きした教育資源になっています。もう一つ、専攻の実習として大学内の教育心理相談室で1年間ぐらい担当した面接経験も生徒達を指導及び相談する時に、多方面で役に立っています。

. 母校に期待すること

私が日本に留学できた最初のきっかけは交換留学生制度です。その制度がもっと活性化し、沢山の人たちが留学し日本及び鳴門を知る機会を持つことが望ましいです。

最後にメッセージをどうぞ

가

他の国に直接行って経験することを恐れず、その機会をつか んで下さい。

第二の故郷、熊本



金 在美

Kim Jae mi

国・地域:韓国

大 学: 熊本大学大学院薬学教育部

現 職: 釜慶大学校 ぷきょんだいがく

職:金慶大字校(ふきょんたいか) こう)応用科学工学部研究員

私は 2003 年の 10 月に熊本大学大学院薬学教育部 (博士課程)に入学し、2008 年 9 月に博士号を取得して修了しました。熊本大学に留学した理由は、韓国に近く、環境のいい国立大学だったからです。留学当初は外国である日本との文化の差、人間関係、日本語の問題、孤独など、いろいろなことが心配され、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、幸い、家族みたいな研究室の皆さんに、さまざまな面で助けていただき、友達も次第に増え、日本語の上達とともに、日本文化への理解を深めることができました。 5 年間、日本で過ごしながら、日本人の深み、優しさ、真面目さ、秩序など、韓国人である私が感じ、学んで、変えていくことは沢山あり、学問のみならず多くのことを感じ、経験し、得ることができた時間だったと思います。 狭かった視野、浅かった知識をより深めた貴重な日本での5年間は、今後、人生のプラスにし生かしていくと信じています。

現在、私は釜山の大学で研究を続けています。韓国は海外で博士を取得した人に1年間支援金を与え、母国での研究を サポートしてくれる制度があります。その制度を利用し、大 学で生化学や遺伝子の研究をしながら、学生に教える仕事をしています。最初はぜんぜん慣れなかった事も、時間の経過とともにすこしずつ慣れてきています。韓国は人口に比べ博士を取得した高学歴の人が多く、博士を取得しても職場に対する競争率が激しいのが現実です。そこで、まだまだもっと頑張っていかないといけませんが、このように、ここまで韓国で研究ができ、今の自分がいるのは日本で過ごした大事な時間や経験があったからだと思います。



[2006年9月、熊本大学の教育研究活動の成果を広く海外の方々に紹介するフォーラムが、母国韓国で開催され、私も留学中の研究成果を発表しました。]

最後にメッセージをどうぞ

2

熊本は私にとって第二の故郷であり、熊本で知り合った皆さんは大事な人たちで、日本や熊本大学に感謝し、一生縁を続けていきたいと思います。ありがとうございました。

日本留学の夢を叶えて



李 芹

国地域:中国 大 学:福岡教育大学 (2007.10~2008.9)

現 職:遼寧師範大学・学生

私は中学生の頃から日本語を第一外国語として、勉強しています。日本語の勉強が面白くて、いつかぜひ日本に留学したいと思っていました。学校のおかげで、そのようなチャンスに出会って、夢を実現することができました。

福岡はきれいで気候がいい街です。そして、福岡教育大学は教育施設が完備している国立大学であると先輩に勧められました。そのような理由で、私は福岡教育大学に留学することを決めました。

今、1年間の留学生活を振り返ってみると改めて福岡教育 大学を選んでよかったなあと思います。私を指導してくだ さった先生は家族のようで、卒業後の進路や、生活の中での 細かいことなど、逐一熱心に話し合ってくれました。それか ら、仲がいい日本人の友達もできました。つらい思いをした 時、友達が私のそばにいて、困難を乗り越える勇気を与えて くれました。私はそれらを大切な思い出として心の中に納め ています。

日本は絶えず外来の文化を吸収する一方で、自国の特色を 生み出しました。日本人は勤勉で謙虚な民族であると思いま す。 留学生活をした1年間、私は語学力を進歩させたことはもちろん、実践的な能力を高めることができました。将来、日本の企業、あるいは日本とつながりがあるような企業に就職すれば、日本での留学経験は大きな強みになると考えられます。

今後、更に多くの学生に、多くの国際交流の機会を与える ために、福岡教育大学と遼寧師範大学との交流がより一層活 発で深いものになるようにと願ってやみません。

最後にメッセージをどうぞ

现在我只想对大家说、抓住现在所拥有的、争取你想要实现的。

私は「今持っている物事を大切にして、実現したい方に努力 してください」とみんなに言いたいです。

鳥取大学、最高です!



李 岩 Li Yan

国·地域:中国

大 学:鳥取大学工学研究科

(2000.7 ~ 2006.3)

現 職: 中国東北農業大学 工程学院

副教授

2000年7月28日、故郷の中国黒龍江省ハルビン市を離れ、 外国経験のない28歳の私は、初めて日本の地を踏み、約6 年間の留学生活を送り始めました。関西空港を出て、高速バ スで日本の人口最小県である鳥取県へ向いました。鳥取大学 を選んだ理由は、私の親戚が元鳥取大学の留学生であったか らです。「鳥取は静かで、人情溢れる海辺の小都市だ。」と言 われて、海のないハルビンから鳥取へ来てしまいました。し かし、留学するということは、思ったより大変でした。来日 前、中国で勉強した日本語は殆ど通じなくて、日本人との交 流がなかなかうまくできませんでした。物価も高かったし、 指導教員の先生は厳しかったです。研究でも一生懸命実験し ても直ぐにはいい結果が出ませんでした。いろいろ困った事 に直面しました!しかし、鳥取大学の事務職員や先生、そし て学生の皆様からの温かいご支援のお陰で、日本での留学生 活にだんだん慣れていきました。今では、鳥取大学に留学し た6年間の思い出でいっぱいです。特に思い出深いことは次 のようなことです。まず、入学試験で初めての面接を受けた 時は、本当に緊張しました。修士入学試験の合格を知った時 は、ほんとに嬉しかったです。ロータリー米山奨学金を頂い た時は、感謝の気持ちがいっぱいになりました。自分の論文 が始めて日本機械学会論文集に掲載される知らせのメールを 読んだ時は、苦しかった研究のことを思い出し、「やった!」 と何度も言いました。工学部長から博士の学位記を受け取った時、幼い頃から抱いていた夢を叶えることが出来た嬉しさに涙が出ました。日本太陽エネルギー学会から学生部門奨励賞を受賞した時、俺は頑張りが評価されたのだー、とちょっと自慢したくなりました。帰国前、鳥取大学主催の「さようなら Party」で卒業する留学生を代表して挨拶した時には、東京ドームでの最終戦を終えた当時の読売ジャイアンツの長嶋監督とファンとの別れの名場面での原監督の挨拶を思い出しました。それは、原監督がその挨拶の中で何度も使った「決して忘れません!!」という言葉です。私はこの言葉を自分の日本へ、そして鳥取大学へ送る感謝と思い出の言葉にしました。「決して忘れません!!」

帰国後、故郷、ハルビンにある東北農業大学工程学院の教員となっています。現在は、工程学院での専門教育と研究の傍ら、日本での留学経験を活かし、全学の学生を対象に夜間行われている日本を紹介する2つの授業科目:「日本歴史有名人物語」と「日本留学生活」も担当しています。授業内容は、日本国、日本文化、日本の歴史、日本人など、自分が留学中に経験し、学んだ日本についてです。今では、200人位の学生が受講しており、学生にはとても人気のある授業です。また、研究も母校、鳥取大学と縁を切ることなく続いており、毎年、日本との間を行ったり来たりしながら、鳥取大学の先生と国際共同研究を行っています。鳥取大学は特徴のある素晴らしい大学です。今後、さらに発展し、国際的に有名な大学になってほしいと心から祈っています。

最後は、一語でまとめようと思いますが、やはり野球の話しにします。ジャイアンツの阿部慎之助選手が試合後のヒーローインタビューでよく使う「最高です!!」と言う言葉を借りて、やはり日本に来て、そして、鳥取大学で学んで本当に良かったです。

最後にメッセージをどうぞ

鸟取大学,最棒!

鳥取大学は最高です!!

桜満開の季節



鹿 Lu Qi

国·地域: 中国

大 学:東北大学工学部、大学院工学研究科、大学院環境科学研究科(2000.4~2005.9)

現 職: 吉林大学 副教授

仙台は中国の文学巨匠の魯迅先生がかつて留学したところです。中国人で仙台を全く知らないという人はいません。中学校の国語の教科書には魯迅先生の作品「藤野先生」が掲載されており、仙台のことも教えています。私もそこから仙台を知り、仙台にある非常に有名な大学 東北大学を知りました。

東北大学のことで私が一番記憶に残っているのは、桜の満 開な季節に、東北大学に入学した時のことです。

日本人保証人の里沼先生に連れられて佐藤教授を訪問しました。佐藤教授は研究室にいらっしゃいませんでした。そこで訪問メッセージを書き置き、研究室から出ました。駐車場まで距離があったので小道に沿ってゆっくり歩きながら、キャンパスの中の美しく満開の桜を見ました。そして車のドアを開け車に乗り込もうとした時、呼ぶ声が聞こえました。「里沼さん!」

端正な姿で、黄色のセーターを着て、見たところ少し厳し そうな男性が早足で近づいて来ました。

佐藤先生でした。先生は私達がメッセージに書き記した時刻を見て、初めてキャンパスに来た私がすぐには帰らず、キャンパス内をまだ見て回っているかもしれないと思い、走って追いかけてきたようです。佐藤先生はハンカチを取り出して額の汗を拭きながら言いました。

「研究室でお話しましょう。」

よく分からず動転した私は答えられないまま立っていました。佐藤先生はもう一度英語で繰り返しました。この後しばらくの間、私がびくびくして日本語で質問することができるようになるまで、佐藤先生はずっと英語で私と話してくださいました。

これは、佐藤教授との初対面の時のことです。私が考えて いた以上の心遣いに、感動しました。

大学院の入学試験の受験準備をする時には、佐藤研究室の皆さんが私をとても助けてくれました。日本語が下手な私にとって面接試験はとても難しく思えました。そこで研究室の皆さんは面接試験でよく質問される問題を整理し、私の考えた答えを添削してくれました。そしてそれらをさらに先生にも目を通していただきました。また、面接の練習も行いました。研究室の皆さんは会議室の机に並んで座り、教授の役を演じました。私はドアをたたいて部屋に入るところから面接が終わり部屋を出るまでの全過程を練習しました。1時間余り、皆はずっと真剣に役を演じて、根気よく私の不足を指摘して、「大丈夫ですよ。緊張しないでください。」と言ってくれました。

実際の面接試験は練習とほとんど同じで、自信満々の私は 実力以上に答えることができ、順調に合格することができま した。皆さんには感謝しています。親切なお気遣いと助けを いただいたおかげで幸せな人間になれました。まじめで、入 念で、根気良い日本人に感動しました。

帰国して教師になり、たくさんの学生との出会いがあります。学生には東北大学で習った専門知識を教えるだけでなく、まじめに働くこと、人に優しくすることを教えようと思っています。

最後にメッセージをどうぞ

让我们一起感受与不同民族、不同语言、不同文化的邂逅 所带来的感动和喜悦吧!

別の国を訪れ、いろいろな人々や違う言語、そして異なる文 化に接することを楽しもう。

国際人権法を学び、司法官として活躍



マラ・モー

Marlar Maw

国・地域: ミャンマー

大 学: 新潟大学大学院現代社会文化 研究科

(2005.4 ~ 2008.3)

現 職: ミャンマー最高裁判所 研究部 門 三等司法官

. 母校を留学先に選んだ理由

新潟大学を選んだのは、国際人権法がご専門である山崎公 土教授がおられ、また、非常に静かな新潟市には勉学に集中 できる環境があったからです。山崎先生には、親切に貴重な ご指導をいただいたことをここに改めて感謝申し上げます。

. 留学中特に思い出として残る出来事

新潟大学での学生生活は非常に充実した楽しいものでした。一番記憶に残っているのは、2004年10月に発生した中越地震です。この地震では、留学生研修旅行で以前お世話になった旧山古志村に特に大きな被害がありました。地震後、新潟大学国際センター主催のボランティアプロジェクトで村民の方々と田植え、稲刈り、雪かきなどを行いました。山古志の方々から感謝のお手紙をいただき、その後、ついに彼らが「ふるさと:山古志」に帰村できたと聞き、本当にうれしく思いました。自分にとって可能な限りの支援ができたことに非常に満足していますし、この経験を一生忘れることはないでしょう。

. 日本の文化に対する印象

日本国内の名所を幾つか訪問しましたが、第二次大戦の苦難がありながら、それぞれの文化を保護してきたということに感銘を受けました。新潟県内では、古くからの建造物と豊かな歴史を持つ「佐渡が島」が特に印象的でした。大学主催の研修旅行で計4回も訪問しましたが、その度に新しい発見がありました。

. 現在の職務と留学経験

日本から帰国後、ミャンマー最高裁判所研究部門で司法官として研究を再開しています。研究部門は重要な法的課題の処理や、必要に応じ判事も出席するセミナーで問題提起を行っています。また、研究部門の司法官として、司法府にとって重要な研究を遂行しており、上司から指示を受けた研究課題に関する解明とその発表も求められます。私が日本で得た全ての経験と知識をそれらに活かしています。



最後にメッセージをどうぞ

I believe that all of students, who were graduated from Japanese Universities, have acquired experiences about not only new visions of our research work but also understanding of Japanese custom and culture. Now I am much confident to learn new findings to improve my research. Finally I could say that my study in Japan was both memorable and beneficial.

日本の大学で学ぶことは、研究活動への新しい知見を得られるだけでなく、日本の習慣や文化への理解を深めることにつながります。今、私は自身の研究を更に発展させることができると確信しています。私の日本留学は、忘れがたい、大変有益なものでした。

日本語が世界の窓口に



ナスティオン

Vasution

国・地域: インドネシア

大 学: 兵庫教育大学連合学校教育学研

究科

(2004.4 ~ 2007.3)

現職:国立スラバヤ大学准教授

私は、インドネシアのスラバヤ教育大学(現在:国立スラバヤ大学)と、教師を育成する大学を卒業しました。インドネシアでは、日本のことを、欧米諸国と同様に経済的・技術的にレベルが高い国として人気があります。私は、日本ではどのように学校教育及び教科教育が発展していくのか、また、日本の教育のスタンダードを学ぶことを目的に、愛知教育大学(修士課程)に進学しました。この2つの大学に入学した理由は、母国で卒業した大学と同様に教師を育てる大学であり、授業実践を強調している大学だからです。さらに、両大学に私の興味のある専門的な歴史教育で有名な教授がいらっしゃって、私の指導を心よく受け入れてくださったからです。

さて、日本に留学中の思い出といえば「飲み会」です。日本では同じゼミの仲間や指導教官と一緒によく「飲み会」を行います。母国において、特にイスラム教徒においては、お酒を飲むことをいけないこととしています。しかし、日本ではお酒というコミュニケーションツールで、多くの人が知り合いとなり、良い人間関係を築いて話し合いが進むことを経験しました。

また、日本人は毎日忙しい仕事をしながら文化を守っていることも印象的でした。例えば、茶道、温泉、きもの、祭りの時の踊り、神社、花見などの文化が、日本人の生活の中にとけ込むように存在していると感じました。外国から見ても日本は豊かな文化を持っていると感じていましたが、日本に暮らしてみて、さらにその豊かな文化の中に日本人がいることを感じました。

日本から帰国した後の私は、現在、インドネシアの大学で 准教授として仕事をしています。私の留学経験は、日本の授 業のスタンダードを私の教える大学においてのみに伝えるだ けではなく、全国の学会、小・中・高等学校の教師たちの研 修を通しても活かされています。

今後も日本の科学的知識の発展や、今どのような事柄が課題となっているのかを知って認識を深めるため、日本との情報交換を進めていきたいと思っています。

本冊子を読む留学生読者のために一言。漢字圏以外の国からやってきた私は日本語を読むということが一番つらいことでした。しかし日本語が上達するようになってきたら、読むということによって日本語が私の世界の窓になっていることに気づきました。例えば、論文を書く時に海外で書かれた本がほしいと思って日本の図書館に行っても、たいてい日本語に翻訳したものが置いてあるのです。ですから、日本に留学したのに日本語(漢字)を読まないということは残念だと思います。困難なこともあるでしょうが、まず日本語を頑張って勉強しましょう。

最後にメッセージをどうぞ

Selama belajar di Jepang, saya banyak dibantu oleh voluntir baik sebagai individu maupun grup. Karenanya kami sangat terbantu. Kepada mereka tidak lupa saya mengucapkan banyak terimakasih dan berdoa semoga tuhan membalas segala budi baik mereka, Amin.

日本には留学生を支援する個人運営のボランティアグループがたくさんあります。私は、その人たちのおかげで日本での生活をスムースに行うことができました。彼らには、今でもとても感謝しています。今後、益々元気に活動されることを、心よりお祈りしています。

かけがえのない日々



朴 宰用

Park JaeYong

国·地域:韓国

大 学:上越教育大学学校教育研究科 (2000.10~2001.8、

2002.10 ~ 2004.3

現 職:韓国教員大学校講師

私が初めて来日したのは 2000 年 10 月のことです。私は韓国教員大学の修士課程在学中でしたが、偶然にも協定校である上越教育大学に交換留学生として来日する機会を得ました。10 カ月という短い期間でしたが、私の人生にとって大きな意味をもつ期間でした。帰国後、より研究を深めたいと考え、2002 年文部省大学推薦国費留学生として再来日し上越教育大学で学ぶことができました。

上越教育大学は韓国でも教育・研究分野で高く評価されている優秀な大学です。1年半の国費留学は私にとって、かけがえのない日々となりました。恩師や先輩・後輩、友人との出会い、同じ分野の研究者との交流は、今ある「私」を育ててくれたと思っています。

私は、現在韓国教員大学校の博士課程を終え、三つの国立 大学で日本の歴史と文化を教えています。私が大学で日本史 を研究し、講義をするようになったのは、こうした日本での 留学経験が大きいです。

日本に対する印象は古いものと新しいもの、東洋的なものと西洋的なもの、自然と人工的なものがお互いに調和していることです。つまり、日本は伝統文化と最先端ハイテク技術が共存する豊かな文化をもっていると思います。このような豊かな文化が私の日本に対するイメージに大きな影響を与えています。このような文化をもっている日本人との交流は私の人生をより豊かにしています。例えば、甲府市の友人の家では、お正月とお盆を過ごしたことは貴重な経験でした。上越市では、日本のお母さんと妹たち、学問だけではなく心の

拠り所であった恩師や先輩に出会ったことは、私の一番の貴 重な経験であり財産でした。

現在大学で講義していますが、日本文化に直接ふれたことがない多くの学生たちに対して、日本の歴史と文化を理解させることは難しいと感じています。さらに、韓国と日本の悲しい歴史や学生たちの日本への歪曲された眼差しの前では、もっと講義しにくくなります。ところが私の留学中の経験を講義中に話題にすると、学生たちは講義内容に興味をもち、熱心に耳を傾け、日本を新しい視点で見直そうとする意欲を感じることができます。このような学生たちの変容は、日本の学生にも共通することです。私は、毎年、上越教育大学で韓国の文化について講義をすることがあります。その際、私自身の留学経験や韓国若者の生活などを話題にすると、上越教育大学の学生は非常に関心をもって講義を聴いてくれます

最後に、今後の国際交流の在り方について述べます。

上越教育大学は留学生のために多様なプログラムを準備 し、多くのボランティアが留学生のためにとても熱心に活動 しています。今後は、これまで以上に留学生を活用した多様 な国際化プログラムを作成してはどうでしょうか。こうした プログラムの作成過程に日本の学生も積極的にかかわること が大切です。その過程で留学生と日本の学生たちが、積極的 にかかわり、新たな関係を取り結ぶことができると思います。このような地道な営みを通じてこそ、国際交流が実りあるものになると考えています。



韓国教員大学校の日本史の講義

最後にメッセージをどうぞ

自分の知識の無さを知り、誰からも学べ

たゆまぬ努力を明日のために



ピシット ブーンスリムアング

Pisit Boonsrimuang

国・地域: タイ

大 学:三重大学工学研究科 (2004.4~2007.3)

現 職: モンクット王ラカバン工科大学

, こうファーエラガバラエ 工学部電気通信工学科

1998年と2000年に、タイ国のモンクット王ラカバン工科大学(KMITL)工学部電気通信工学科の学部と修士課程を卒業し、その後は同大学で講師として採用されました。大学勤務中は、JICAの支援の下に設立された情報通信技術センター(ReCCIT)に所属しました。このセンターでは、日本の大学とKMITLとの間で複数の共同研究プロジェクトが実施されました。その中で、私は移動通信研究室に所属し、次世代の移動通信システムの研究に従事しました。

私の研究室には、三重大学より客員教授として小林英雄教授が短期間滞在し、移動通信に関する共同研究を行いました。それが縁で、JICAの支援により外国人研究者として三重大学の小林教授の研究室に半年間滞在することができました。半年間の日本滞在で、移動通信の分野で博士の学位を是非とも取得したいと言う気持ちが強まりました。その後、日立国際奨学財団の奨学生として採用されると言う幸運があり、2003年より3年半の間は三重大学の研究生、及び工学研究科システム工学専攻の博士課程の学生として小林先生の指導の下に研究活動を行うことができました。

日本に滞在中は、電気通信に関する研究はもとより日本語

をはじめ、文化、食、日本の生活を学び、また外国人として 日本の国を内側から見ることができました。日本での生活は、 最初は驚くことが多く面食らうことばかりでした。しかしな がら、日本の生活が長くなると、それが普通に感じ何も気に ならなくなりました。これは、歴史、文化、国民性に基づい て長い間に形作られた生活様式や習慣は、その国に旨く適合 しているのだと分かりました。即ち、日本式やタイ式のどち らが良いか悪いかではなく、その国では最適な形となって生 き残っていることだと理解しました。異文化理解は、その国 にある程度住んで初めて身につくものだと実感することがで きました。

日本は、技術革新がありながらも独自の文化を守り続けている国です。一般的に、西洋からの新技術など共に西洋文化が入ると、何らかの影響を受けますが、日本では新しい技術も旨く日本文化と融合しているように感じました。

現在私は、モンクット王ラカバン工科大学工学部の電気通信工学科で働いています。今後、三重大学とモンクット王ラカバン工科大学との間で研究・教育の一層の交流を実現できることを望んでいます。お互いが協力し、持てる知識等を共有することで最大限の成果が得られるものと確信しています。

最後にメッセージをどうぞ

พรุ่งนี้ไม่เคยมาถึง พยายามให้ถึงที่สุดสำหรับวันนี้

たゆまぬ努力を 明日のために

稲作国という共通点から



<u>タテバ・サパングトーン</u>グ

国・地域: ラオス

大 学:京都大学大学院アジア・アフリ カ地域研究研究科 (2000.4~2007.3) 現 職: ラオスニ農林省統計情報セン

コメがつなぐラオスと日本 ラオス農村が直面する問題 に取り組むためには同じ稲作国で学ぶ必要があると思い、日 本への留学を決意しました。さまざまな日本の大学の中で、 東南アジアでの研究活動を積極的に展開しており、また分野 の異なる複数の教員から指導を受ける体制が整っている京都 大学を留学先に選択しました。ラオス人が京都大学へ留学す るのは25年ぶりでした。

学生仲間との語らい 2000年4月から一年間、東南ア ジア研究センター(現東南アジア研究所)の研究生となり、 その後、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に編入しま した。毎週のゼミでは、教員や仲間がそれぞれの視点から アドバイスしてくれました。価値観や育ってきた環境の異な る人々と協調する術を学びました。

大学と町が一体となった京都 京都では、大学と町が一 体となっています。京都の人は開放的で、とても住み心地の よい町でした。町家と呼ばれる古い建物が今でも使われてい ます。古くからの伝統が近代的なものと融合しているところ に京都の本当の魅力があります。町のいたるところにお寺や 神社があります。そして年間を通じてお祭りがあります。祇 園祭や五山送り火や時代祭など挙げていけばきりがありませ ん。食文化も忘れることができません。京料理の美しさ、き め細かさには目を見張りました。

私は、今、ラオスの農林省の統計 ラオスの農政を担う 情報センターの所長を務めています。ラオスの農業と林業の 動向を整理し、政策の策定を支援することが使命です。国民 の大部分が農業に従事している我が国の将来を担う仕事で す。京都大学で学んだことが役に立っています。日本への留 学仲間に助けられることも多いです。

もっと多くの留学生を 京都大学では、最先端の学術と ともに、伝統と近代を融合させる知恵を学びました。ラオス のみならず、世界の多くの国からますます多くの学生が京都 大学に留学することを期待しています。私のささやかな望み は、ラオスに京都大学の同窓会を設立することです。

最後にメッセージをどうぞ

עות לון ואו

วันชาในการเกล้าเลือง เรื่องการ เกล้าเลืองเลยเล้า เกล้าเล็กเล่น เกล้าเล็กเล่นขึ้นเล่น แทรกรูปแพรโภาพกปลปราเกาะภิฐกักกุญปรุงมูลปัญญา ผู้อุปการัฐมูก พอดูป แลก เลเสกมากจา ลำรู้รีก เจ้า พ.น: ทำ และรือกฤปะเพนีเรา เราล้า . ถือ พอกเรารู้ แล้วอ่า พาสา แม้บา พะ นาม ที่สำลับใบกาน เล้าสุ้า แบบอีกิภามลำสิริชิต และอัดทะมากบับได้ล้ และ เล็กเล้า ทว่า เพาะพาสาเซ็ดใช้ เรือ สามาลสามาเอาเปลุ่มมักคินขึ้น เมื่อเส้าข้อย เบอบคิมชื้ ปุ่ม วิทีเกโม บันนา และ ทางเจือกในแบบ วิหี ซี ปุ่น. กามใส ชีวิตปู ปะเทสซีปุ่น มอกาก รางพรามรู้ ลาน อิวุงภาม จาก ละฤเช่น ที่ ติน ปุม แล้ว ญัส นุเษล้ำ นูเษย่ ๆ อรัม วัก เร็า ที่ ที่เคาะ รีการเการ์ นั้นที่ เรื่องเราะเกาะ เกาะ เกาะ เหาะ เกาะ รื่องเกาะ เกาะ เกาะ เกาะ เกาะ เกาะ เกาะ เมโตโดยเบาย เมื่อให้ เพาสา เพื่อรู้ เปลา เกลา หาว ที่ เป้น ที่ เป้น ที่ เป้น เลา ที่ จะเป้น โม อากาตัด โด้เผ ขางเมติมในกามสินสภัรารารณ เดิสอเมรัฐเจง เพิ่งในเนาได้ ในอุปาเลา เรื่อนยู่ รู้ปุ่น

บัวเลยากรุปเครายนาย

บัลเทอา ซะผับเค

みなさま

ラオス留学生 OB を代表して一言アドバイスをします。日本 に留学してもただ勉強をしていればよいというわけではありませ ん。日本の生活や文化や慣習など、たくさんのことを学ぶ必要が あります。日本の生活や文化をよく知るためには、特に日本語を 学ぶことが大切です。日本語ができると、困ったことが起こった ときなどに日本人の意見を聞いて彼らの解決方法を参考にするこ とができます。大学や学校での専門の勉強だけでなく、日本語や 生活慣習をはじめ、さまざまなことを学ばなければなりません。 みなさまが現在の、あるいは将来の留学生として、日本での留学 期間中にしっかり学び、たくさんの知識を身につけられることを お祈りしています。

タテバ・サパングトーング拝

日本人読者との文字の交流



王 晓霞

Wan XiaoXia

国·地域:中国

大 学: 山口大学大学院人文科学研究科

現 職: 人民日報社人民網日本株式会社

山口大学を選んだ理由

日本とは違い中国では有名な大学はすべて国立大学です。このため中国人の私もなんとなく国立大学に対して信頼感があり、留学先を決めるときに、安心できると思い、国立大学の山口大学を選びました。また、日本と中国の物価の差は周知のことで、自費留学するにはコストを抑えることもきわめて重要です。年間数十万円の学費は普通の中国の家庭にとっては絶対馬鹿にできない膨大な金額ですから、国立大学は、留学生が毎学期、学費の全額か半額の免除を申請できることもメリットのひとつでしょう。

次に、山口大学の所在地山口市は東京のように賑やかで現代的な大都市ではありませんが、空気がきれいで、人が親切で、心を澄ませる静かで美しい町です。学問に努めたい人にとっては、一番の選択ではないかと私は思います。

日本文化に対する印象

日本文化のなかで一番印象に残ったのは秩序があるということです。信号のない交差点で順番に通行する自動車、マクドナルドのカウンターの前に自然に並んだ人の列、ごみ収集日に、指定した場所に集められきれいに洗って、干して、きちんと畳んである牛乳パック……秩序がある場面はどこでも見ることができます。しかも、誰かに言われたわけでもなく、

みんなが何気なく徹底的にやっていることに感心しました。

日本人の行動は効率が高いことがよく知られています。私は、秩序があるからこそ効率的に行動できるのではないか、と思っています。

留学中に学んだことが、今の職業で役立っています

留学中に学んだことは二つあります。一つは私が専攻していた言語学、もう一つは国際交流に対する理解です。

私は日本から帰国して以来、ずっと人民日報社人民網日本語版に勤めています。「日本語で中国を伝える」が、会社の宣伝スローガンで、普段私たちは、仕事で中国の出来事を日本の読者の方たちに報道しています。日本語での仕事となりますので、留学中に身に付けた日本語力や言語学の知識がもちろん不可欠なものとなっています。また自分の留学経験から「交流」がどれだけ重要であるか分かっていますので、今は文字で日本人の読者との「交流」に努めています。

私自身は、日本に留学していろんなことを経験して、自分の目で見た日本が好きになりました。ところが、ある日、バイト先で「中国にみかんはありますか」って聞かれ唖然としました。一体日本の方は中国のことをどれだけ分かっておられるのか。中国に来られない日本人の皆さんに本当の中国を伝えよう、その時から心の中でこう決心しました。

分かり合ってないから、誤解や偏見が生じます。もし私たちの努力で、中日両国民の交流や相互理解を一歩でも進めることができれば、これ以上ない幸せだと思います。

山口大学に対する期待

「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の理念を 堅持し、平和で調和のとれた世界になるよう貢献し、未来型 の一流大学になってください。

最後にメッセージをどうぞ

留学经历对一个人来说是一笔巨大财富。通过留学不仅可以开拓视野,丰富人生阅历,学习到先进的文化,接受到崭新的思维方式,而且能锻炼人的意志,提高生存能力。 在两种截然不同的文化的撞击中找到自己的位置和平衡点,是一件奇妙而有趣的事情。 留学経験は人にとって宝物と言えるでしょう。外国に留学することによって、自分の視野が広げられ、先進的な知識や斬新な思想を身につけ、意志力と生存力も鍛えられます。カルチャーショックと戦いながら、自分の居場所を見つけることは不思議で面白いことでしょう。

日本語の壁を乗り越えて



吳 珍之 Wu Zhenzhi

国·地域:中国

大 学: 秋田大学大学院教育学研究科 (2002.4~2004.3)

現 職:中国浙江工業大学芸術学院

数昌

秋田大学を留学先に選んだ理由は?

もともと日本の商業デザインや建築デザインなどに興味を もっていましたし、父の友人から「秋田大学にはデザイン分 野の研究をしている良い先生がいる」と紹介を受けたからで す。

2001年に実際に秋田に来るまで、秋田という街は雪国で田舎であるというイメージしかなく、日本語が全く話せない私は不安でいっぱいでした。しかし、研究生と大学院を含めた計3年間の留学生活を振り返りますと、一言では言い切れないですが、充実した日々で、秋田そして秋田大学には愛しい気持ちでいっぱいです。

留学中特に思い出として残る出来事は?

指導教官の横山智也先生に、大変お世話になりました。先生からすれば、些細なことでお忘れになったかもしれませんが、私には忘れられない出来事があります。それは日本語が分からず、いつも英語でコミュニケーションをとっている私に対し、ある日突然「これからは日本語で話しなさい、呉さんは日本に来ているのだから」と厳しい口調で仰せられたことです。普段はニコニコとやさしい先生から突然厳しい言葉

を頂き、正直なところ驚きましたし、少し落ち込みました。 しかし、先生のその一言が日本語を絶対に習得したいと私の 心に火をつけました。

その後、日本語の勉強は軌道にのり、順調に進みました。 あの時の先生の一言がなかったら、私の修士論文そして日本 での就職活動は順調に進まなかったかもしれません。

日本の文化に対する印象は?

日本と中国は文化的に繋がりが深く、共通する部分が多く あると思います。私の修士論文は「日中のグラフィックデザインについての比較」をテーマにしました。また論文を書く 上で、日本の美意識についての資料に触れる機会があったのですが、日本の美意識は日常生活に根付いており、商業デザイン、建築、庭園など生活の多岐に渡っていること、内面的・文化要素・洗練・簡素・自然要素などがキーワードとされていることが、とても印象的でした。日本人が伝統文化を大切にする気持ちにも感激しましたし、これからも日本文化について勉強していきたいと思います。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っていますか?

現在、私は中国浙江工業大学芸術学院で教員として勤めています。自分の専門はもちろん、日本語を役立てる機会もあります。例えば、千葉大学工業デザイン学科・三菱電機の開発部門と本校が交流を持つ機会には、講演会の通訳などを担当させて頂きました。他にもイギリス・スウェーデン・日本・中国の四カ国で芸術設計分野の卒業制作優秀作品展示会を本校で催し、日本側の対応をさせて頂くなど、中国に戻ってからも日本語が生かせる機会にめぐまれ嬉しく感じています。

最後にメッセージをどうぞ

谢谢秋田,谢谢秋田大学。在秋田大学的留学生活是我一生中最珍贵的体验,每年一度的竿灯节,米糕火锅,大学的老师和同学等等都给我留有深刻印象。不知哪天但我一定会回去的。

秋田そして秋田大学、ありがとう。秋田大学での留学生活は、私の人生にとってかけがえの無い貴重なものでした。竿灯祭り、なまはげ、きりたんぽ、大学の先生、そして研究室の友達、いつまでも忘れられません。いつの日か、また秋田を訪れたいと思っています。

留学のきっかけから共同研究への繋がり



馬木堤 吾拉木

Wulamu Mamut

国·地域:中国

大 学: 旭川医科大学医学部、大学院医学系研究科

(2001.1 ~ 2006.3)

現 職:新疆医科大学 正教授

私が旭川医科大学の伊藤亮教授と初めて会ったのは新疆医 科大学で開催されたエキノコックス症シンポジウムに参加し た1998年8月でした。これがその後の共同研究展開の始ま りでした。シンポジウムの後、米国立衛生研究所研究費によ るエキノコックス症国際共同調査が中国、フランス、日本の 研究者によって新疆ウイグル自治区、アルタイ地方で実施さ れました。この調査中に、私の活動が伊藤教授の目にとまり、 日本への留学の機会を検討してくださいました。2001年に これが夢から現実に変わりました。私が日本政府の国費留学 生として採用されたのです。2001年1月17日から旭川医科 大学外国人研究者になり、伊藤教授の熱心な指導のもとで1 年以内に最初の論文を国際専門誌に発表することができまし た。2002年3月に大学院への進学が許可され引き続いて国 費留学生として大学院生活を送ることになりました。大学院 での研究期間に、日本学術振興会の研究プロジェクト、米国 立衛生研究所の研究プロジェクトに参加し、学位を得るまで に第一著者として4篇の論文を国際専門誌に発表できまし た。また共著者としての論文は9篇になりました。2001年 から 2006 年までに日本寄生虫学会の大会に 5回、国際会議

に2回参加し、英語で口演発表をしました。2006年3月に 学位(医学)を授与され、新疆医科大学に戻り、寄生虫学講 座で教育と研究に従事する生活を再開しました。日本留学中 の研究成果が高く評価され、2008年から正教授に昇任しま した。現在、中国政府、中国省政府から幾つかの研究費を受け、 総額は約日本円で500万円です。中国に帰国して2年間で6 篇の論文を第1著者、共著者として国際専門誌、中国自然科 学誌に発表しました。2006年に中国四川省成都ならびにタ イ、バンコックで開催された国際シンポジウムで講演しまし た。これらは伊藤教授が企画した会議でした。2007年から 分子生物学、免疫学の研究を展開できる新しい研究室を立ち 上げ、伊藤教授とエキノコックス症、テニア症に関する共同 研究を展開しております。伊藤教授は2002年から新疆医科 大学客員教授として毎年、研究調査のために新疆ウイグル自 治区を訪問する際に大学でセミナーをしてくださり、若手研 究者、大学院生、学部学生を啓発してくださっております。 現在、新疆医科大学と旭川医科大学間での研究、教育交流を 目指す学術交流締結に向けた活動が展開されております。

最後にメッセージをどうぞ

In conclusion, through my study in Japan and continuous collaborative work with Prof. Ito, we have improved our mutual understanding not only between me and Prof. Ito but also between Xinjiang Medical University and Asahikawa Medical College. This is a good start point to set up University to University cooperation net work on medical research and scholarly further education between Xinjiang Medical University and Asahikawa Medical College.

日本での研究活動、伊藤教授との継続的な共同研究を通して、 私たちの相互理解に留まらず大学間の学術交流締結に向けた理解 が深まりました。近いうちに学術交流協定が締結され、さらなる 協力関係が積み重ねられることを信じております。

悲願の日本留学



肖 冬元

Xiao Dongyuan

国·地域: 中国

大 学: 佐賀大学大学院教育学研究科 (2002.10~2005.3)

現 職: 福博印刷株式会社 流通 S P 推進事業部 中国事業担当

悲願の日本留学

母国の大学で日本語を専攻した私は、習得した日本語を駆使して、日本文化や景勝を肌で感じたいと思う気持ちがこみ上げてきました。それは、綺麗な桜を見たい、雄大な富士山に登りたい、矢のごとく早い新幹線に乗ってみたいというような思いでありました。そして、「一衣帯水」の隣国の真の姿を肌で感じてみたかった。

大卒後、大学の教員、観光会社の観光案内士、日系企業の 通訳など、多数の職を経て、結婚、子どもも授かりましたが、 留学の夢は片時も忘れませんでした。

そのような中、今から約6年前の夏、日本にいる友人から便りが届きました。それは、佐賀大学大学院の入学許可書でした。ようやく、悲願の日本留学の夢は実現しました。実に、大卒後12年目のことでした。

中国との関わりが深い佐賀

佐賀は中国と関わりが深い町です。今から約2000年前の秦時代に、いわゆる「不老不死の仙薬」を探すために、童 男童女数千人を連れて中国の東南沿岸より船出した徐福が佐 賀に上陸したと言われます。また、中国で「聖人」として尊 ぶ「儒教の祖」の孔子を祀る聖廟が佐賀にもあります。 さらに、中国現代の有名な文学者・政治家の郭沫若氏が、短期間ではありますが佐賀に滞在し、多くの小説や詩を書き上げる足跡を残しました。

このように、佐賀は、母国のことがすぐ身辺にあるような 興奮にわくわくと胸を躍らせる地でもあります。

文学的な商業販売促進物を目指す 留学で身に付けた知識の活用

文学を研究テーマにした私は修了後、印刷会社に入社しました。今の仕事は、中国にある日系ショッピングセンターの販売促進チラシのデザイン・制作関連です。中国語と中国関係の知識を生かしていることはいうまでもなく、留学中に学んだことがとても役に立っています。例えば、日中両国の名作や名文を読むことを通じて身に付いた文学的なセンスや語感は、コピー考案などに大変助かります。文学的な要素を入れることによって、セールス的な商業販売促進物でも、「面白い」とお客さんに思って頂けるように、努力を積み重ねていきたいと思います。

環境にやさしく、節約に励む日本人 感心した日本の文 化

日本に来て一番感心したのは、日本人が環境にとても配慮し、物のリサイクルに力を尽くすことです。自分には使いようがない物を簡単に廃棄せず、必要とする人に譲ったり、資源の有効活用を目的とするバザーを行ったり、中古品取り扱い商店があるなど、環境保全に努力しつつ、しかも、「世界第二の経済大国」という栄冠に驕らず日常生活において節約に励んでいる日本国民は本当にすばらしいと思っています。

最後にメッセージをどうぞ

积极创造更好的条件,吸引更多世界特别是中国等亚洲国家的学生赴日留学,让世界特别是亚洲国家更多的年轻人能直观地了解今天的日本!

留学にもっと便利な対策や措置を積極的に採り、世界、特に中国などアジアの国からもっと多い学生たちを日本へ留学に招き、世界、特にアジアのもっと多い若者が今日の日本を直接に感じることができるように。

石の上にも3年



陳 蘭庄(荘)

Chen Lanzhuang

(1989.4~1992.3) 現 職: 南九州大学 園芸学部 園芸学科 蔬菜園芸学研究室 教授

母校を留学先に選んだ理由は?

私は、中国政府派遣留学生として、日本文部省の斡旋で1986年11月に山形大学大学院の研究生となりました。そこで修士課程を終えましたが、当時、博士課程ができていなかったため、指導教官のご推薦で、同じトマトのバイテク育種をやっている宮崎大学農学部育種学研究室に弟子入りし、博士課程に3年間在籍しました。

留学中特に思い出として残る出来事は?

私は、実験の合間を使って特に学位論文を書くとき、大学の図書館にもチョクチョク行っていました。そこの「常連客」となったのか、ある日、図書館委員から、「図書館だより」に寄稿してくれないかと声をかけてくれました。「図書館頼り」というタイトルで、情報収集、情報交換等の当り前のことのほかに、静かで、流れる気持ちよいクラシックの音楽、エアコン完備の部屋、仙境みたいな憩いの場でくつろげ、自分の世界に入れる絶好の場所としても利用して、良い効果があったと正直に書きました。いまでも時々図書館で過ごした時間を懐かしく思い出します。

日本文化に対する印象は?

「石の上にも3年」という素晴らしい言葉があります。辛 抱すれば必ず成功するという意を信じてよかったと思うこと があります。日本に来る前に主に屋外の実験をしたので大学 院時代でいきなりバイテクをやらねばというショックがあり ました。そこでゼロから1つ1つクリアしていきました。大 学院終了後、すぐ科学技術特別研究員に採用され、またいき なりトマトから牧草のアポミクシス研究に切り替えねばとい うことになりましたが、その言葉を信じて、根気よく、地道 に、しかも一歩一歩と今日まで進むことが出来たと思います。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に 立っていますか?

いまは、南九州大学の教授を拝命していますが、留学生活のなかで学んだ知識はもちろん、知識にまつわる人的ネットワーク、先生、先輩、同期そして後輩から教わった人間としての生き方まで、大変自分の今に役に立っています。たとえば、アポミクシス研究で「平成 18 年度宮崎県文化賞(学術部門)」をも受賞しました。留学がなければ、今の自分はないと言っても過言ではありません。

母校に期待することは何ですか?

我々は母校から生まれた子どもである以上、母校を誇りに 思うし、母校が我々の永遠の後ろ盾であるため、母校のます ますの発展を祈っています。これからもっとたくさんの優秀 で世界に通用する人材を日本だけではなく、世界に輩出され ることを切に願っています。

最後にメッセージをどうぞ

我的座右铭是[世上无难事,只要肯登攀]。

私の座右の銘を紹介します。「世の中に実は至難なことなんかなし、ただ、登攀を要するのみ」。

留学(開始)期間:~1980年代

障害児教育の実践力



鄭 仁豪

Chung Inho

国·地域: 韓国

大 学: 筑波大学大学院心身障害学研究科

現 職: 筑波大学大学院人間総合科学研 究科·准教授

日本留学へ

就職か進学か、進学なら、留学先は米国か日本かで、学部4年の最後の最後まで散々と悩みました。進学先として、最終的に日本を選んだのは、日本と韓国の文化的類似さと、私の専門領域における日本の障害児教育の実践力を学びたいという希望からです。筑波大学を選んだ理由は、筑波大学心身障害学研究科(現在の人間総合科学研究科障害科学専攻)は日本における障害科学の殿堂であるという亡き父からの勧めがあったからです。

筑波大学での思い出

1年間の研究生期間は、日本語の難しさを痛感した時期でもありました。朝から晩まで、大学で日本語と専門の勉強をし、夜遅く宿舎に帰る単調な生活でした。そういう生活の中でも、部屋に戻り寝るまでの約1時間のテレビ視聴と週1回のガソリンスタンドでのバイトの時間は、何より楽しい時間であったことを覚えています。昼間本で学んだ日本語をテレビやバイトの時間に使い、理解できたり、会話として成り立ったりした時のうれしさは当時のストレスを吹き飛ばしてくれる活力剤でもありました。博士課程入学後は、周りに良き友だちとして日本人の先輩や同期たちに支えられ、順調に課程を進むことができました。その先輩や同期たちは今もいろんな形で交流が続いており、留学生活の中で得た大きな財産で

す。

日本文化に対する印象

韓国は、中央集中型文化つまり、都ソウルを中心に栄え、 地方に波及する文化です。一方、日本は国土が横長であり、 それぞれの地域の文化が栄え、北は北海道から南は沖縄まで、 地域の特性が生かされ共存している地方発信型文化のように 思われます。祭、能、歌舞伎などの芸能に現れるように、色 や形を重視し、日常生活を楽しみながら大事にする文化です。 日本文化の良さは日本語におけることばのニュアンスや使い 方からもよく伝わります。

母校への期待

筑波大学からは多くのことを学び、また現在も仕事もさせて頂いており、感謝の気持ちで一杯です。筑波大学は、日本国内より、アジアの国で、知名度が高い。開かれた大学として国際化を止めることなく邁進してほしい。単なる一流大学を目指すのみでなく、留学生も日本人学生も魅力を感じられる特色のある大学を作ってほしい。また、私自身も少しでもそれに役立つ仕事をしたいと願っています。

現在の職務と留学経験

現在は、障害を有する方々のことを科学的に研究する障害科学(Disability Sciences)を専門とし、研究と教育を行うほか、留学生センター相談室で留学生、日本人学生、教職員を対象に相談を受けています。留学生時代の経験から留学生の悩みをこころから受け止めることができ、また、単なる感情的処理に留まらず、現実的な解決策を一緒に考えることができます。留学生も障害者も環境的ハンディに苦しんでいる側面では共通しており、専門の教育や研究にも通じるところがあります。このように、留学経験は教育と研究の基礎をなし、また、私自身にとって心の豊かさを発見できる経験でした。

最後にメッセージをどうぞ

留学生活によって得ることのできるものには、専門的知識と、 その国の言葉や文化があります。専門的知識は学者の財産に、他 文化の知識は人生の財産になります。

留学(開始)期間:~1980年代

鎖国性を打ち破るために、新しい考え方を



井手 亜里

de Ari

国地域: イラン(日本に帰化) 大学:京都大学工学部、大学院工学研

(1973.4 ~ 1984.3)

現 職:京都大学教授

日本へ 日本に来て37年以上が経ちました。私の「思考形成」期間のほとんどです。「世界の果てにある」日本に来ようと考えた動機は未熟でも、極めて「感性」に磨かれていたものでした。異なる文化へ飛び込んで、全く新しい世界に溶け込むのはどういうことか?西洋の文化、哲学、科学、何よりもその価値観にあこがれていた私が、なぜ、逆方向の世界の果てのユニークな国へ行こうと考えたか?

留学、つまり、他文化に接触するということは、新しい世界への窓を開くことであり、一生を自分の選んだ文化の中で過すことは、私の世代では簡単な選択ではありませんでした。美しい日本の春の香りを嗅ぐより前に、若く未熟な留学生の「心」に映ったのは、欧米文化への迎合によってもたらされた「インテレクチュアリズムの欠落」でした。その後、長い間、近代日本の西洋文化への過剰迎合について、私の批判的な考え方は変わりませんでした。

学びの場の日本 「同化」を好む私には、選択と線引きとの難題が課せられました。新しい体験を重視する者にとって、戦後の日本は「絶好の学びの場」でした。あの悲惨な戦争を体験した国、戦後の民主主義を創造しようとする日本の大衆行動に触れることができたのは、二度とない貴重な経験

でした。

ただ、日本は、経済発展、技術立国、科学立国を集団(国)の目標にしながら、日本にしかない美しい土着文化を、外貨との引き換えに犠牲にしてきたように見えました。隣国、アジアの国に目を向けず、アジアを見ない集団思考がいかに愚かであるかは、イランの田舎に生まれながら、イランの町を知る前に、テレビや新聞の目で、まずロス・ロンドン・パリのことを見るような歪んだ世界観を持った私には、よく理解できた。他方、日本が見事な経済・産業発展および西洋型民主主義を実現する過程など、アジアの史上例のない現象に触れることができました。

日本から世界へ 今の世の中は、ひとつの国に住んで、その国のことだけを見ることは不可能です。まして、先進国だけを見ることは「インテレクチュアリズムの欠落」と言えます。日本への留学で得た成果またその内容は、アジアのため、世界のために活かすことを目指さなければならない。日本の独特な地域中心的、集団中心的な活動形態は、「鎖国性」を伴っており、今の若者(留学生も含めて)にとって日本は教育に関し最適な場であるとは思えません。この鎖国性を打ち破るために、新しい考え方を作らなければいけません。

留学で得た最大なもの 日本での留学で何を得たか。一言で言い表すことは難しいですが、何より20年に及ぶ若い学生との教育研究活動が、その成果と言えるでしょう。日本の若者にどういうメッセージを伝えることができるか?これからの時代を担う日本の若者を教育するという難しい問題です。イランの田舎町で生まれ、美しい京都で学んだ人間でなければ伝えられないメッセージがあり、それこそ、この37年の留学経験の成果ではないでしょうか?

最後にメッセージをどうぞ

さあ、 赤い薔薇の花びらをまいて、杯にぶどう酒を注ごう 天を覆う敷を破り、共に新しい世を創造しよう

悲しみの軍が押しよせて、恋する人たちの血を流そうとすれば 私と酒の女神は手をとり、共に悲しみの軍を滅ぼすであろう

ペルシア 14世紀の詩人 ハーフェズ

بیا ما کل برافشهم در درس الداری فلک داسف دشکه می وطر کردد الداریم فلک داسف دشکه می وطر کردد الداریم ازم نشکر داملی درد موسف کریدد ارم نشکر داملی درد موسف کردد

成長の礎



呢喃

Ninan

国·地域:中国

大 学:大阪教育大学大学院教育学研究科 (1989 4~19913)

現 職: 大阪府立長吉高等学校講師

大阪教育大学での充実した留学生活を思い出すと、感銘に 堪えません。一枚の色褪せない絵巻のように私の脳裏に刻ま れています。恋しく思う度に、その想い出は大根を抜くよう に土ごと出てきて、まるで昨日の出来事のように鮮明によみ がえります。

21年前の秋、私は中国ハルピン師範大学の仕事を辞めて、 勇気と自信を持って、私費留学の道を選びました。キンモク セイの香りが漂う大阪の街には驚くことがたくさんありまし た。大阪教育大学は私の夢の始まる所となりましたが、実現 するにはさまざまな困難に直面しました。聞きなれない大阪 弁、したことのないアルバイト、帰りたいが帰れないという 複雑な自分と戦わなければなりませんでした。幸いなことに、 研究生としてご指導いただいた大阪大学の先生の暖かいご支 援のお陰で、大阪教育大学に合格できました。そして、大阪 教育大学で出会った先生方が、いつも困惑した私に最も適切 なアドバイスをくださいました。指導教官の先生に添削され た「真っ赤な修論」・・・レベルアップは私の一生の課題だ と気づかせてくれました。

また、熱心に仕事を紹介してくださった先生方のことも忘

れられません。自分の目で日本の小学校・中学校・高校の現場を確かめることができましたし、そこで出会った中国出身の児童生徒たちが置かれている現状を知ることもできました。私自身は、来たばかりの生徒たちが日本語のハンディを抱えながら、学校生活を頑張っている姿に励まされました。「先生、次いつ来るの?何で毎日来てくれないの?」不安そうな目からいろいろな意味を読み取ることができました。「教壇に立ちたい!この子たちと一緒に頑張りたい!」とこっそり決めました。

働きながら仏教大学(通信制)と関西大学(二部)にも通い、 念願の国語の教員免許と中国語の免許がとれました。大阪府 で第1号の外国人の常勤講師として公立学校に派遣されまし た。中・高での講師経験を18年も積みました。仕事として は極めて不安定ではありますが、続けられるのは、目の前に 困っている生徒をサポートしたいという気持ちを強く持って いるからです。もちろん、生徒に教えられたことも支えられ たことも私のエネルギーになっています。

私が目指しているのは、日本の子も外国の子もみんな笑えるような学校です。「教学相長」「雨垂れ石を穿つ」「継続は力なり」これらは私の座右銘です。今後も教員採用試験にチャレンジし続けたいと思います。

最後にメッセージをどうぞ

困惑時,請牢記一句話:日日行,不怕千萬里,常常做,不怕千萬事。水之所以能穿石,是因爲它永遠打在同一點上。留學教育大的同學們,快快加入教師行列吧。教育大是我們成長的基石!

戸惑った時、「雨垂れ石を穿つ」という言葉をしっかりと心に刻みましょう。根気よく弛まずに努力すれば必ず事を為し遂げます。大阪教育大学は教員を目指している留学生の成長の礎だと思います。

理想・理念のある留学生受け入れ政策を



リッターポン・イッティ

Rittaporn Itt

国・地域: タイ

大学:東京大学工学部、大学院工学系

研究科

(1979.4 ~ 1988.3)

現 職:株式会社豊通エレクトロニクス

母校を留学先に選んだ理由は?

私の場合、大学を選んで留学したというより日本を選んだという方がただしい。1978年に来日したのですが、日本の高度成長が続いていた時期で、世界中が日本の勢いを大いに感じる時代でした。私もその流れで日本の高度技術に期待し留学しました。

留学中特に思い出として残る出来事は?

留学中は勉強はもちろんですが、自分の国から出ないと分からない・体験できないことばかりだったので、学部・修士・博士課程とも充実した日々でした。修士課程中にパソコンと出会い、日本のパソコンの雑誌に記事を書いたり、本を出版する一方、研究の方は世紀の大発見の酸化物系高温超電導材料の研究に関わり、卒業後も引き続き日本に残り研究できたこと、その間の日本と世界の著名な研究者・研究機関との関りは貴重な体験でした。

日本の文化に対する印象は?

日本の文化は「極める」ことに重きを置く文化と強く感じています。自然の厳しさ・美しさが大事な環境条件だと思いつつ、世界は今後厳しい環境に突進していくので、日本の気

質・考え方(のいいところ)はより理解され、普遍的になればと思います。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っていますか?

1978年に来日して勉学と研究で1996年まで日本にいた後、タイに戻り国立の研究機関の仕事をし、2006年に再び日本に戻り、民間の会社に入りましたが、その間の仕事は内容が変わってもずっと日本とタイの接点のあるものでした。タイではタイ初の放射光設備と半導体製造設備の立ち上げに参加しましたが両方とも日本との接点が多く、日本留学がそのきっかけを作ったと言ってもいいくらいです。まだまだタイは科学技術の大きな成果を出せるまでにいたっていないのは残念ですが、日本の元留学生が活躍した形跡はタイではかなり蓄積してきたという意味では日本のタイからの留学生受け入れは評価されるべきでしょう。タイ自身の政治社会的な発展をもって、今後はもっと科学技術の成長、世界への貢献に期待したいと思います。

母校に期待することは何ですか?

いままでの日本の留学生受け入れは、受身的な面があると 同時に後進国助けの意味合いと日本の企業の海外進出・展開 の支援の側面が入り混じっていますが、今後は日本の高齢化・ 少子化の流れで、留学生の受け入れの積極化と留学後の国内 での引き続きの活躍の流れに社会・経済的な要請が強まるよ うで、その意味では後進国支援の側面は弱くなり、世界の頭 脳の争奪戦の様相になるので、母校にはその流れの中でも理 想・理念のある留学生受け入れ政策を追求してもらいたい。

最後にメッセージをどうぞ

ผมหวังว่า นโยบายรับนักศึกษาต่างชาติ3แสนคนของญี่ปุ่นจะประสบความสำเร็จ และเป็นประโยชน์ไม่เฉพาะแก่ญี่ปุ่นแต่แก่ทั้งโลกในการพัฒนาเศรษฐกิจและสังคมโล กที่ยังยืน

留学生 30 万人の政策は日本のみならず世界の持続的発展にも貢献できるような仕組み・成果にしていってほしいと思います。

東京外国語大学に学んで



順南(金 順南)

国·地域:韓国

大 学:東京外国語大学外国語学部

現 職:通訳業

韓国で日本語ガイドの仕事を4年ほど経験した後、日本の 歴史や文化を直接学びたく、東京外国語大学に留学すること になりました。

日本語を改めて体系的に学習すると共に、読解の授業で、 日本近現代の文学・小説・評論などを綿密に読むことによ り、短期間である程度日本や日本人を理解できたように思い ます。他の授業も、とても面白く、興味を引くものが多くあ りました。

日本文化特殊研究では、日本の女性史、特に明治以降の大 衆文化の流れを学び、その他新興宗教研究、日本経済論、比 較経済論、政治過程論、倫理学、心理学等、文字通り朝から 晩まで学校に入り浸り、学ぶ楽しさに心を奪われる日々でし た。特に興味あるテーマとしては、日本近代の成功と影に関 する部分があり、母国韓国の近代化に極めて参考になると感 じました。

韓国も経済発展と共に、広く世界に海外視察ミッションを 送りましたが、特に日本には、経営手法、生産システム、サー ビスの質の向上など、多様なテーマの下、多くの公民視察団 が派遣されました。

私は、学生時代からアルバイトとして、そういった企業訪 問や会議の通訳をしていましたが、卒業後はそれが本業とな り、各種通訳(韓国語)は無論、韓国企業等日本研修のコーディ ネイト、更には貿易の仲介業務へと、自然に仕事が広がり、 1997年には株式会社の登記も済ませ、現在に至っています。

その間、東京外大で学んだことが、本当に役立ちました。 大学で学んだことが、こんなに実生活や仕事に役立つとは思 いませんでした。これも偏に、個性豊かで、私には留学生の 面倒見に関しては日本一と思われる東京外大の先生方のお蔭 だと今でも感謝しています。

特に、異文化コミュニケーションの面で、摩擦の発生しや すい現場に日々身を置く私にとって、大学と日本社会で学ん だことが、日々の仕事と生活の中で検証あるいは修正され、 新たな認識をもたらしてくれることが大きな喜びです。その ような機会を与えてくれた日本と東京外大に、感謝の念を捧 げたいと思います。

学ぶべき先進国、日本



厳浩

国·地域:中国

大学:山梨大学工学部大学院工学研究科

現職: イーピーエス株式会社代表取締

役計長

東京大学博士課程(医学統計専攻)在籍中の 1991 年に現在のイーピーエス株式会社を創業しました。創業当初は医薬品開発に関わる臨床試験のデータ解析やそれに関連するシステム開発など、自分の専門を生かした仕事が中心でしたが、現在は臨床試験を中心に、医薬品や医療機器開発に関する総合的な専門サービスを手掛けています。日本をベースにしながら、中国その他アジア地域での事業も積極的に展開し、順調に成長を遂げてきました。創業当時たった 3 名のスタッフが今では単体 1 千名強、連結では 2 千名を超えるに至り、2006 年に東証一部上場も果たしました。

私は1962年に中国江蘇省の田舎で生まれました。同世代のみながそうであったように、大学進学すら考えられなかった時代(文化大革命中)留学は想像もつかない世界でしたが、鄧小平氏の改革開放政策が我々の人生を劇的に変えました。1981年4月、中国政府の第2期学部派遣留学生として、100名の同期とともに、私は初めて乗る飛行機で日本の地に降り立ちました。桜が満開でした。

山梨大学へ行ったのは国の指示によるものです。初めて山梨という地名を耳にしたのは、北京を出る一週間ぐらい前のことでした。多感な青春時代、勉学以外もいろんなことにチャレンジしましたが、中でも卓球部がもっとも印象深く、日本人を理解する格好の場となってくれました。そして、甲府盆地や北アルプスのあの山々の稜線。平原地帯で育った私、最初は迫ってくるような山並みに恐怖感を抱くほどでしたが、今では山をみると心が和む、といったふうに、甲府での6年間の留学生活は自分の感受性までに深く粘着するようになっています。

そもそも日本留学も、国の命令に従っただけです。ただ、それは喜んで従ったのであり、少しの無理も意味しません。当時の中国にとって、日本は紛れもなく学ぶべき先進国、日本留学はとても名誉なことでした。だから、私は今でも日本留学を誇りに思っています。そして、アジアに対して日本は胸襟を開き、もっと自信を持てばよいのにと、我がことのようにときおり思うのです......

最後にメッセージをどうぞ

加油、山梨大学!

「頑張れ、梨大」

平和を支える科学創造と繁栄を求む学問の殿堂



全 炳德

国·地域:韓国

大 学:長崎大学工学部、大学院海洋生 産科学研究科

現 職:長崎大学 教授

. 長崎大学を留学先に選んだ理由

外国人として留学を決心し、日本の大学を選ぶ手段として は有名な大学や先生を、あるいは友人や先輩などによる紹介 が一般的です。私の場合は出身大学の先輩からの紹介で「長 崎大学」を選び、私の専門とする「リモートセンシング」を 学びました。留学当時、外国人であった私にとって長崎大学 は、東京大学、広島大学に並ぶ大きな大学の一つとして認識 されていました。長崎に落とされた「あの原爆」が印象づけ た名残であったのだと思われます。

. 留学中に思い出として残った出来事

留学して3カ月目になった頃、日本語の勉強だけに専念し ていた私に「長崎県日本語弁論大会」は自分の日本語能力を 試すチャンスでした。当日の原稿を韓国語で仕上げ、韓国語 が理解できる日本語の先生に翻訳して頂き、発音まで録音し たテープを毎日のように聞いて、覚えました。大会当日、私 は舞台に上がり立ったままで、口だけが勝手に動かされてい ました。結果はびっくりの一等賞。私はびっくり仰天のまま。

早速、テレビカメラが回り、司会者のインタビューが始ま

りました。しかし、司会者からの質問がまったく聞き取れ ない。私を見ていた傍聴席の人々もびっくり。当日のテレビ ニュース番組での一等賞のインタビューは多分、カットされ ていたであろう(笑)。

. 長崎大学に期待する・もう一つのノーベル賞

長崎大学は今、留学生に強く印象付けている「あの原爆の 事件」と真剣に向き合い「地球の平和を支える科学を創造す ること」を大学の理念の中に盛り込んでいます。創立 150 周 年を迎えた医学部には原爆医療の専門家や設備が、また、先 進的な熱帯医学の研究設備があります。創立 130 年を超えた 教育学部には平和多文化センターが設置されており、平和や 多文化の土壌を継承しています。海外に開かれた唯一の窓口、 長崎へのあこがれを持った若者たちが集まったとされる経済 学部が創立 100 周年を迎えました。さらに、海岸線の長さが 日本一長いことから海洋実習船を持つ水産学部が、平和を支 える科学を創造する工学部が、また、新しい環境問題に取り 組む文理融合型の環境科学部があります。それにとどまりま せん。ノーベル化学賞を生んだ薬学部も、医学部に肩を並ぶ 歯学部も今や誇り高い自慢の学部です。長崎大学が先人の海 外に開かれていた広い心や、原爆の悲惨さを乗り越えた知恵 を生かすとき、もう一つのノーベル賞が期待できます。

最後にメッセージをどうぞ

가

가

가

長崎は日本の江戸時代、鎖国政策の中でも外国の文物を受け 入れ学ぶ、学習の場であり学びの町でした。長崎大学はこのよう な長崎の根強い伝統と学習の土壌を、今に発展させ、平和を支え る科学創造と繁栄を求む学問の殿堂です。原爆を祈りに昇華させ た内的力を学べる世界唯一の大学です。

第2章

地方に根ざした大学から世界の発展に力を



管 益成(管 奕斌)

Kan Masunari (Guan Yibin)

国地域:中国(日本に帰化) 大学:宇都宮大学国際学部

現職: 木徳神糧株式会社管理部門管理

部企画室長代行

母校を留学先に選んだ理由は?

若い時、私は世界を見てみたいと思い、その願望を実現してくれるのは、当時、日本の国立大学では唯一国際学を研究している宇都宮大学国際学部ではないか、と直感致しました。

留学中特に思い出として残る出来事は?

国際学部が設立されてまだ1年しか経過していなかったので、学生の人数に対し多くの教授陣がいました。お陰で、多くの先生方と交流する機会があり、さまざまな分野の研究にも触れることが出来ました。また、「コモンルーム」というオープンな場所で、毎週のようにお酒とつまみを片手に学内外のいろいろな方の講演や研究発表を聞くことが出来ました。留学生もさまざまな経験を持つ社会人学生も沢山在籍しておりましたので、国際学部は世界の一部と感じることが出来ました。

日本の文化に対する印象は?

日本文化の他人への「思いやり」や「以心伝心」といった 言葉に感銘を受けております。留学生活を振り返ると、実に 多くの方の助けをいただき、日本人の他人への暖かさや優し さに魅了されておりました。母国である中国は、経済成長を 遂げ、経済格差の拡大につれて他人より上にいきたい気持ちが強いせいか,私が生まれ育った都市部において人間関係が段々希薄になりつつあると言わざるを得ません。日本も格差社会が深刻化しており、日本社会の行く末に一抹の不安を感じています。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っていますか?

私はジャスダックに上場している食品卸会社で経営企画の 仕事に従事しております。昨年、入社歴最短で最年少の管理 職として登用されました。主な仕事は、グループに係る事業 の企画立案、連結ベースの予算編成や実績管理、取締役会を はじめとする社内重要会議の実務のほか、Investor Relations や広告宣伝活動など多岐に亘っております。大学時代に培っ た多様な意見に耳を傾けること、先生や同学との議論、セル フコントロールを実践するといった習慣は、組織の中で効率 的かつ円滑に仕事を推進することに役立っています。

母校に期待することは何ですか?

中国では90年代中期から大学の統廃合が行われ、特徴ある小規模大学がどんどん姿を消していきました。私は母校のような地方に立地し地域に根を下ろした国立大学をなくしてはならないと考えます。より多くの人に宇都宮大学の魅力を

分かってもらえるように情報発信は勿論のこと、粒が小さくでも異彩を放つような研究活動の促進を期待しています。



最後にメッセージをどうぞ

在经济全球化潮流的进程中,可以说中国和日本都对整个亚洲具有举足轻重的影响。日本在上个世纪中实现了脱亚入欧的目标,成为高度发达的国家之一。但在新的世纪里,日本也有必要再度审视作为一个亚洲国家,如何和中国在内的亚洲国家更近一步地发展双边关系。我相信众多的在日本国立大学求学的留学生和毕业生们都将来会在社会的各个领域中成为一股推动中国和日本,乃至亚洲和世界发展的重要力量。

急速に進む経済のグロバール化の中で、アジアにおける日本と中国の役割がとても大きいと言えます。もう一度アジアにおける日本の姿を問い直して中国を含むアジア諸国と更なる関係強化を考えるべきです。多くの留学生、社会で活躍している元留学生たちは日本と中国、世界の発展にとって大きな力になると信じています。

日本と世界の架け橋となるために



キン・マゥン・トゥン

Khin Maung Tun

国・地域: ミャンマー

大 学: 北海道大学大学院農学研究科 (1997.4~2006.4)

現 職:帯広市役所市民活動部親善交流課 国際交流員

留学について、私なりに考察をしてみると、20世紀に入って留学そのものが形も意味も留学生も大分変わってきているように思われます。

先ず、私自身にとって留学とは何だったのだろうか? 人生 の巡り合わせにすぎなかったのだろうか? それにしては得ら れたものがあまりにも多かったような気がします。

私が大学1年生の時、母国ミャンマーは社会主義国から民主主義国家に変遷をしようとしていました。大学生をはじめ、市民の民衆運動が活発化してくると、ミャンマー軍が全国の大学を約5年間閉鎖しました。

私は、未来に不安を感じ、希望をなくし、どん底の状態で 母国を離れたのが1997年3月のことでした。

札幌に来てからというものは、全てが驚きの連続であり、 未体験のことが非常に多かったです。異国で生きて行くため に毎日が目一杯、精一杯の状態でした。

北大のキャンパスに通学するようになってからも、母国の 状況が把握出来ないことや、自分自身の将来像が描けないこ となどで、心配で不安だらけな毎日をおくっていました。

今、振り返ってみるとそんな生活をしていたことが、かえって私自身が目指したいこと、やりたいことを考えさせてくれた良い時間だったような気がします。留学した大きな目的にも影響を与えた貴重な時間でした。

私が留学をしていた当時の北大には、約80カ国800名ほ

どの留学生が勉強をしていました。北大で学ぶ外国人留学生 の全てが所属できる自治的組織が、その当時なかったため、 北海道大学留学生協議会を設立することを、私が何故か任さ れることとなりました。

設立の目的は、留学生自身の立場から、大学での研究環境や地域の生活環境の改善、帰国後に母国と北大、しいては日本との架け橋になるためでした。

設立にあたって、全ての留学生がナショナリズムを超え、それぞれの国の文化や宗教を超えて協働して行く必要がありました。そのためには、どのような理念を持ち、どのような形の協議会がふさわしいか検討をしました。各国の留学生会や留学生会を持たない国の留学生たちと準備委員会を2004年に立ち上げ、1年間を通してさまざまな活動を展開して、2005年にいよいよ留学生協議会が設立されました。

この協議会の活動を通じて、世界中のいろいろな国の留学生たちと、心から話のできる友達を得ることができました。 そこで学んだことは、お互いの存在、違いを認め合う、尊重 し合う、ことでした。お互いを認め合うことを通じて、お互いに自分自身、少し成長したような気がします。

そして、世界の平和に繋ぐための一つの道筋になれば、こ んな嬉しいことはないと思いました。

私にとっては、とても大事なことです。なぜなら、母国ミャンマーは多民族国家であるからです。

私にとってのアイデンティティは多民族国家ゆえのミャンマーであるからです。

現在、私は帯広市役所市民活動部親善交流課で国際交流員 として、今まで北大で学んだ貴重な経験を活かすように日夜 頑張っています。

いつかは、私が生まれたミャンマーに帰国することになると思いますが、日本で学んだ全てをミャンマーの国づくりに活かしていきたい。

そして、北大をはじめとする、出会った友達の母国との架 け橋となるように、努力をしたい。

最後にメッセージをどうぞ

မြန်မာပြည်ကို ပြန်သွားတဲ့အခါ။ဂျပန်ပြည်မှာ လေ့လာသင်ကြားခဲ့သော အတတ် ပညာ၊အသိပညာကိုဖြန်မာပြည်အတွက်အကောင်းဆုံးအသုံးချနိုင်အာင်ကြိုးစားပါမည်။

ကျွန်တော်ကိုပညာသင်ကြားပေးခဲ့သောဟော့ကိုင်းခိုးတက္ကသိုလ်၊အစစအရာရာ ကူညီထောက်ပံ့ပေးခဲ့သောမိတ်ဆွေများကိုအတူးကျေးဇူးတင်ပါသည်။ေဟာ့ကိုင်းခိုးတက္ကသိုလ်မှာတွေ့ဆုံခဲ့တဲ့ သူငယ်ချင်းများရဲ့ တိုင်းပြည်တွေနဲ့လည်းရှေ ဆက် ပြီးချစ်ကြည်ရင်းနှီးမှုရရှိစေရန် ကြိုးစားဆောင်ရွက်သွားဖို့ရည်ရွယ်ချက်ရှိပါသည်။

ဒီချစ်ကြည်ရင်းနှီးမှုကကုန္ဘာဗြိမ်းချမ်းသာယာရေးအတွက်တစ်ဘက်တစ်လမ်းက အထောက်အကူပြုမှုဖြစ်ပါလျှင်အထူးလမ်းမြောက်ဝမ်းသာဖြစ်ရပါမည်၊ဟော့ကိုင်း ဒိုးတက္ကသိုလ်တိုးတက်အောင်မြင်စေရန်ဆုတောင်းပါသည်။ 北大やお世話になった多くの皆さんには、感謝の気持ちで一杯です。

これからも、世界が平和でありますように、そして、北大の益々 の充実を祈念して私の感謝の気持ちといたします。

PCRの手法を会得し、応用する



金 惠淑

Kim HyeSook

国·地域:韓国

大 学: 岡山大学大学院薬学研究科、 大学院自然科学研究科 (1992.4~1998.3)

現 職:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 薬学系 准教授

私が韓国で大学を卒業する前に聞いた一つの言葉は「PCR」でした。PCR は分子生物学の分野では 1980 年代の最先端の手法でした。しかし、私の回りにはこの手法を使って応用研究をする人はいませんでした。当時、この PCR の手法を使って疾病の診断に応用研究していたのが、岡山大学薬学部の綿矢有佑教授(当時助教授)でした。PCR を利用した感染症の研究をするために綿矢教授の門を叩いたのが留学の始まりでした。

留学時で一番記憶に残っているのは、研究室全員で毎週土曜日に各自の研究の進捗状況を報告した時です。一週間の研究内容を失敗してもいいので、なぜ失敗したのか、もし、成功したので有ればその後は何をどのように進めていくのかを自分の言葉で述べるものでした。最初は自分の考えを述べるのが苦手で苦しかったのですが、だんだん慣れていくと、自分の考えや主張、そして研究の方向性もきちんと言えるようになりました。良くまとめられると褒められ、もっと頑張ろうと新たに元気が沸いてきたのを覚えています。今、私も教える立場になり、昔の先生のように学生が成長できるような言葉をかけるように心がけています。

温泉が日本の文化かどうかは判りませんが、私は温泉が大好きで、新しい温泉の情報を耳にすると必ず下見に行き、自分の肌で温泉を楽しんでいます。

私は PCR の手法を用いた病原体の診断方法の開発と新規 抗マラリア薬の探索研究を行ってきました。その成果が認め られ、岡山大学薬学部で薬の開発研究を続けています。薬学 部は薬に関する基礎研究と応用研究が可能で、私はマラリア を始めとする熱帯感染症治療薬の開発研究を行っています。 マラリアは日本にはなじみの薄い病気ですが、年間3~5億 人が感染し、そのうち100~200万人が命を失われている世 界三大感染症(エイズ、結核、マラリア)の一つです。現在、 開発研究を行っている化合物が次世代の抗マラリア薬として 世界のマラリアコントロールに貢献できることを願って止み ません。

最後にメッセージをどうぞ

가

悩みましょう。話し合いましょう。そして解決の糸口を見つけましょう。言いたい言葉は胸にしまい込まないで、言葉にしましょう。そうしないと一生後悔します。

今が実践の時です。

国際的な大学、我が母校



金 周映

Kim Jooyoung

国·地域:韓国

大 学: 豊橋技術科学大学大学院工学研

究科

(1999.10~2003.3) 現 職: 豊橋技術科学大学助教

留学のはじめ

1999年10月1日は私の日本留学が始まった日です。そして、これまで日本で約10年間の生活をしてきました。留学や新たな環境についているいるな準備をしてきましたが、言葉、文化、食べ物、住むところなど専門の勉強以外でたくさんの不安を抱えながら渡日しました。豊橋技術科学大学(以下、豊橋技科大)では、留学生の不安な点をなくすため、さまざまな制度が用意されていました。例えば、チューターの方のおかげで、日本の生活へスムーズに移ることができました。豊橋技科大の定員は約2000名と小さい大学ですが、大学院生が約半分を占め、研究中心の大学です。また、学生10名に1名の割合で留学生がおり、外国からの研究員や先生も多く、国際的な大学です。現在、私が所属している研究室では、私の他にロシア人やマレーシア人の先生がいます。このように、豊橋技科大では世界中の人に対して専門技術を学び、先端技術を研究できる機会がある大学です。

大学でのしごと

2003年3月に博士課程を修了してから、これまで日本で6年間研究と教育に関するしごとをしてきました。豊橋技科大の研究員で2年間、日本大学理工学部電子情報工学科(船橋校舎)の助手で2年間働き、また、母校の豊橋技科大に戻り、現在電気・電子工学系の助教として働いています。現在も留学当初と同じ気持ちで、専門知識、日本の文化、日本語など毎日学んでいます。大学のしごとで一番の喜びは学生が自分の力で問題を解決し、徐々に成長する姿を見ることです。

おわりに

私は、大学の先生になることが夢でした。日本で先生になっているいろな経験ができ、さらに私が学んだ母校に戻り、後輩を教えることができ、幸せです。私が学生のときに教えて頂いた先生方の温かい気持ちを学生たちに伝えていきたいです。

最後にメッセージをどうぞ

留学は新たな挑戦で、明確な目的意識や計画が必要だと思います。また、留学は学業以外で日本語や日本文化を学ぶことができます。これから、日本と韓国の間の研究や大学交流の橋渡しの役割に貢献したいです。

快適な留学生活



林 広麗

Lin Guangli

留学生が母校を語る

国·地域:中国

大 学:富山大学経済学部

(1992.4~1996.3)

現 職: 株式会社 林インターナショナル

代表取締役

母校を留学先に選んだ理由は?

私は、中国から1990年10月に来日しました。当初東京の日本語学校に入り、知人の紹介で富山大学人文学部の研究生として入学しました。富山大学を選んだのは、私の出身地である遼寧省と富山県が友好県省の締結をしており、密接な交流活動が行われていたからです。

留学中特に思い出として残る出来事は?

富山大学留学中は留学生担当の事務の方、学部の指導教官をはじめたくさんの先生方に温かく支援して頂き、どんどん富山のことが好きになっていきました。その後、以前から興味があった経済分野について学ぶため、経済学部経営学科に入学しました。

学部学生の4年間は多数の科目を勉強することができ、充実した毎日を送る事ができました。特に日本的経営の特徴、経営理念、典型的な成功例、失敗例などの事例に対しての詳細分析、問題解析は非常にためになりましたし、多国籍企業の経営管理の仕組みと国際経済、貿易情勢の分野をマスターすることによって自分の視野を広げ、判断力を身に付けることができました。

また、社会経験を積む機会にも恵まれ、日中合弁会社、国際交流員、交流事業などの通訳を数多く経験させて頂き、だんだんと自信が持てるようになりました。

私にとって、留学生活は自由で自分の好きな分野に集中でき、とても快適なものでした。

そのなかでも1泊2日のスキー活動、大学や国際センター 企画のキャンプ体験が数多くの思い出の中でも特に楽しい出 来事として心に残っています。

日本の文化に対する印象は?

留学生のための特別授業(日本事情、課外補講)で、日本 の文化、諸習慣を数多く理解する事ができました。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に 立っていますか?

卒業後、留学中に学んだ事や経験した事がビジネスに大いに役立ちました。(㈱林インターナショナルを創業し、12年の年月が経ちましたが、振り返ると大学での5年間は私にとってとても大切な期間であり、社会に第一歩を踏み出すための重要な人生の出発点となっています。

自分を育ててくれた母校に感謝し、今までの経験を生かしてこれからも国際貢献をしていきたいと思っています。

現在、越嶺会(経済学部同窓会)の幹事役をさせて頂いています。母校そして後輩のため、少しでもお役に立てればと思っています。

母校に期待することは何ですか?

学生たちが社会と接触する機会をより多く与えていただけ たらと思います。

最後にメッセージをどうぞ

我希望母校——富山大学能培养出在国际社会上更加活跃的人材。我作为母校的留学生,为了母校,也为了日中交流,会继续努力作出贡献。

私は母校 富山大学がますます国際社会で活躍する人材を育成されることを願っています。私は母校の留学生として、母校のために、そして日中交流のために貢献していきます。

第二の故郷「日本」で得たもの



第2章

劉

Liu Qiuying

国·地域:中国

大 学:弘前大学理学部、大学院理学研

(1997.4~1998.3)

1998.10~2001.3) 現 職: ソフトウェア開発技術者 (京セラ株式会社 勤務)

1997年4月に姉妹校の交換留学生として、ハルビン師範 大学に在籍しながら初めて弘前大学を訪れたことが留学を決 意するきっかけになりました。その後、ハルビン師範大学を 卒業した年に弘前大学大学院受験に合格し、再び弘前大学に 参りました。これまで10年間の在日生活の原点となる弘前 大学が私にさまざまな可能性をくれました。

弘前大学在学中の思い出として残る出来事は、青森県議員 訪問団の通訳として中国訪問したこと、松崎保育園の国際交 流に携わったこと、及び岩谷奨学金を頂いたことなど、たく さんあり、全て私にとって成長の原動力となっています。そ の中で、大学院1年生の夏、当時の青森県知事等30名の議 員と一緒に北京、瀋陽、ハルビンへ訪問し、知事や訪問先の 中国政府関係者に接することが私にとって良い勉強になりま した。特に、訪問の最終日に青森県知事から頂いた暖かいお 言葉「日本が貴方の第二の故郷と思ってこれからも日本で頑 張ってください」は、いつまでも忘れることがないでしょう。

日本の友人に琴を教えてもらい、毎年演奏会に参加したこ とは日本の文化に触れる機会を作ることができ、懐かしい思 い出です。大学院2年生の時、弘前市内のホテルで演奏会を

開き、着物で演奏することになりました。演奏は成功したの ですが、ちょっとしたトラブルが発生しました。舞台から立 ち上がろうとした時、立てないので、確認すると、大変!自 分の足が着物の前身ごろを踏んでいたのです。仕方がなくて 立ち上がる途中でまた座り直して、やっと無事に立つことが できました。隣の演奏者が笑いたいのに笑えない表情だった ことを今も覚えています。

在学中は、日本の良い風習も学ぶことができました。一例 ですが、中国の交通事情は今でも横断歩道を渡るとき、信号 を無視する人が大勢います。弘前に来たばかりの時、車が走っ ていない交差点でもちゃんと赤信号を待っている人々を見て びっくりしましたが、しばらく生活していると、私自身も車 の全然いない交差点で赤信号を待つようになりました。考え てみれば、人生の規則は道路の規則と同じ、守り続ければ、 当たり前のことになりますよね。

弘前大学では、大学の先生を始め、日本人の真面目さと団 結力が印象に残っています。先生が研究の指導や論文の指摘 を何回もして下さいましたし、卒業生同士で発表の練習を深 夜まで続け、お互いに励まし合いました。現在、京セラ株式 会社で日本国内や米国の携帯端末の開発に携わっています。 弘前大学で勉強した専門の知識や日本語が現在従事している ソフトフェア開発に役立っており、さらには仕事上のコミュ ニケーションにも学生時代の経験が大変に役に立っていま す。同僚と一致団結して仕事する意識も弘前大学の同級生た ちと培いました。

弘前大学には、今後も国際交流に積極的に取り組んで頂き、 国際的な人材を育ててほしいと思います。

最後にメッセージをどうぞ

以生命的短暂而打动人们心灵的弘前城的樱花,日本第一 的庙会, 渲染着美丽色彩的十和田湖的枫叶, 红绿交织的 苹果路, 洁白一色满带诗情的雪原, 让人怀念的津轻方 言, 教给我现在的工作所需的知识的弘前大学的老师和同 学们,给了青春时代的我开朗的性格,与困难斗争的勇气, 努力的意志和对未来的希望。

命の短さに人々の心をうつ弘前城の桜、日本一のねぷた祭り、 美しい色彩を放った十和田湖の紅葉、緑と赤の織り交ざるアップ ルロード、白一色の詩情豊かな雪景色、恋しい津軽弁、そして今 の仕事に必要な知識を教えてくれた弘前大学の先生方々と同級生 が、青春時代の私に、明るい性格、困難と戦う勇気、頑張る意志 と未来への希望を与えてくれました。

人生の指針を決めた留学



プラ カオティエン-ナカヤマ

Pulla Kaothien-Nakayama

国・地域:タイ

大 学: 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科

現職:ポスドク研究員

. 母校を留学先に選んだ理由は?

私が NAIST(奈良先端科学技術大学院大学)を選んだのは、タイの大学で先生が勧めてくれたからです。その先生自身も大阪大学での留学経験があり、その先生の恩師である新名先生が大阪大学から NAIST に着任されたことをきっかけに NAIST を知ることとなり、NAIST の最新研究設備と新名研究室スタッフの親身な教育態勢に魅力を感じ、NAIST の新名研究室への留学を決意しました。

. 留学中特に思い出として残る出来事は?

忘れられない思い出は、楽しいものから悲しいものまで、いくつもあります。実験が終わった後に友達と夜通しでカラオケをしたのは、身体はしんどかったけど、とても楽しい思い出です。個人的な思い出としては、博士論文を書き上げた瞬間の気持ちが忘れられません。それは寒い日の早朝でした。徹夜して書き上げた博士論文を前にしても疲れは感じずに、達成感からくる幸せと、NAISTでの留学を修了して出て行かねばならない悲しみがこみ上げてきたのです。私の最大の思い出は、私の直接の指導教員として吉田和哉先生と出会ったことです。吉田先生はとても優しく、とても親切な方でした。吉田先生は、時間があるときは、私と当時同じ研究室の

学生だった日本人の夫とともに、一緒に食事をしながら学生生活の悩みなどの相談相手になってくださいました。また、UC-Berkeleyでのポスドク時代には、海外出張中に私たち夫婦を訪ねてきてくださり、日本での研究情勢などについて親身に話をしてくださいました。私にとっては、吉田先生と深夜まで研究生活や人生について心行くまで語り合った時間が今でも心の宝となっています。

. 日本の文化に対する印象は?

日本文化といえるかわかりませんが、私の日本に対する第一印象は、日本人はとても有能で用意周到であるということです。私が日本に到着した初日から、すべてについて準備が整えられており、私は勉学だけに集中すればいい状態でした。NAISTで研究室に配属された際にも、学生がチューターとして私の生活のサポートをしてくれました。

. 現在どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っていますか?

私は、現在ポスドクとしてNAISTで研究しています。また私の研究プロジェクトでは、留学生とともに研究を進めています。留学生との研究プロジェクトにおいても、私の留学生としての経験が役立ち、研究チームとしてのコミュニケーションも留学生の立場を理解した上で円滑にすることができていると思います。

. 母校に期待することは何ですか?

私は、今後も NAIST が国際的な発展をすることを期待しています。また、NAIST はそれができると確信しています。なぜなら私は、その実現のために日々努力を惜しまないNAIST のすばらしいスタッフたちと出会ってきたからです。

最後にメッセージをどうぞ

ตอนแรกที่มาที่NAISTยังไม่แน่ใจว่าอยากจะเป็นนักวิจัยหรือเปล่า แต่ประสพการณ์ที่ได้จากNAISTทำให้มี ความมั่นใจในการทำวิจัยและสนุกกับการทำวิจัย ที่สำคัญที่สุดคือเราได้เห็นตัวอย่างของนักวิจัยดีดีที่นี่ และ ได้เห็นและเข้าใจความสำคัญของงานวิจัยที่มีต่อสังคม ตอนจบจากNAISTจึงมั่นใจมากว่าอยากเป็นนักวิจัย

私が NAIST にきた当初は、自分が研究者になりたいかよくわからない状態でした。NAIST で時を重ねるうちに、研究者としての私のスキルが身に付いたことが自信になり、今では研究者としての道を歩みたいと思うようになりました。

国境を越えて、理解し合うこと



唐 Tang Ning

国·地域: 中国

現職:金沢大学 助教

. 金沢大学を選んだ理由は?

富山高専に在籍した時、偶然にも、金沢大学教授の早川和 一先生と一緒に中国の大学を訪問する機会がありました。短 かった一週間の中、環境科学について、いろいろと語ってい ただいたことが、金沢大学に進学する発端でした。

. 留学中特に思い出として残る出来事は?

留学生時代に、ほぼアパートと研究室の二点一線の毎日で した。特に思い出と言えるものはありませんでしたが、今に なっても、実験科学の辛さ及び早川先生からの嫌になるほど に実験しろの一言だけは忘れていません。中国には、「厳師 出高徒」という言葉があり、私はその「高徒」を名乗る資格 はありませんが、早川先生という「厳師」がいたからこそ、 今の私がいることは間違いないことです。

. 日本の文化に対する印象は?

一言文化と言っても、あまりにも範囲が広すぎます。ここ で一例を挙げ、私の理解している中国人と日本人の国民性の 一つを比較したいと思います。中国人も日本人も真似するの が得意です。中国人はできる限り原物に近いものを作ります が、日本人は如何に原物より良くするかのところに力を入れ ているように思われます。このような日本人の国民性は、日 本を世界第二の経済大国まで育てた原動力でしょう。

. 現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役 に立っていますか?

普段、金沢大学の助教として早川研で研究と学生の研究指 導を行っていますので、留学経験との関連は特にありません が、中国に行って調査研究時に、やっぱりここが私だと思っ たことはしばしばあります。研究内容は兎も角として、日本 人と中国人の微妙な考え方の違いは、英語が話せても、理解 し合えないところがたくさんあるためです。

. 母校に期待することはなんですか?

美しい兼六園と150年の歴史に誇りを持ち、環日本海域の みならず、世界的に名が知られる大学に成長してほしいです。 言い方を変えますと、もっと開放的な大学になってほしいと 期待します。





最後にメッセージをどうぞ

相互理解是成为永久朋友的唯一途径。

理解し合うことは、永遠の友達になるための唯一の方法であ る。

芥川賞受賞に繋がった母校での学び



楊 逸

国·地域: 中国

大 学: お茶の水女子大学文教育学部

(1991.4 ~ 1995.3)

現職:作家

略歴

中国・ハルビン市出身。1987年、留学生として来日。お茶の水女子大学卒業。卒業後、在日中国人向けの新聞社を経て、中国語教師として働く。2007年「ワンちゃん」で第105回文學界新人賞を受賞。2008年「時が滲(にじ)む朝」で第139回芥川賞受賞。

母校を留学先に選んだ理由は?

国立大学だから、費用が安く学べること、さらにそれに「女子大学」というのが中国にないので興味がありましたし、何よりも、伝統がある女子大であることを知り、お茶の水女子大学を選びました。

留学中特に思い出として残る出来事は?

毎年の留学生旅行と、地理学科だけの科目として巡検がありました。そのお陰で、日本の歴史と文化が凝縮された京都奈良などの観光名所だけではなく、辺鄙な農村にも行くことができ、フィールドワークなど他の学科では勉強できないことも、いろいろ行って見聞を広めることが出来て、たいへん勉強になりました。

日本の文化に対する印象は?

日本も嘗て農耕国であることを、今では旅行していてもそのような面影が中々見えてこないのですが、辺鄙な農村に行って、長閑な稲作風景や、山が多いことで、山への信仰も多様に存在していることなど、中国にいた時に思っていた日本は経済が発達した工業大国であるというシンプルなイメージが変わりました。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に 立っていますか?

現在日本の方に中国語を教えながら、小説などを書いています。幸いなことに、2008年上期の芥川賞を受賞させていただきました。この作品を著す上で本学の学びが陰に陽に土台となっていると思います。特に、上述のような本学で学んだ経験が、日本人の価値観や考え方、対人関係のあり方などを理解する上で大変役立っております。小説を書くときに、日本人の人物像造りや性格特徴の表現に参考にさせていただいております。

母校に期待することは何ですか?

近年日本では女性が大変活躍しているように見受けます。これからまさに女性の時代と言っても過言ではないのだと思います。そんな中、これからさまざまな分野で活躍できる女性を育てるのは女子大学の大事な役目ではないかと思います。これからは、今以上に、社会の未来を読み、社会に良い人材を送り出して欲しいと願っています。そして、国際社会で活躍できる女性のリーダーをたくさん輩出していただきたいと期待しております。

最後にメッセージをどうぞ

在御茶水女子大学的学习经验,成了我人生中最重要的财富,也为今天我走的这条路奠定了坚实的基础。我衷心地感谢母校、感谢母校的培育之恩。今后我也将为我毕业于此而自豪,并将再接再厉写出更多更好的小说,继续得到大家的关注与支持。谢谢!

お茶の水女子大学での勉強は、私の大事な財産となり、今日の私に繋がったと思います。母校に心から感謝しております。誠にありがとうございます。これからも本学の卒業生として誇りを持って頑張って参ります。いつまで応援していただければ幸いに思います。

母校のますますの発展をお祈りしております。

工業先進国「日本」



阿里木江 依明

Alimujiang Yiming

国·地域:中国

大 学:北見工業大学大学院工学研究科

(2002.4~2005.3)

現 職:北見工業大学非常勤研究員

私は 1986 年 7 月中国新疆ウイグル自治区にある新疆大学で工業自動化専攻を卒業後、同年 9 月から同大学の工業自動化専攻の専任講師として採用されました。その後、自動制御と情報技術を融合する分野に大変興味があり、北見工業大学でその分野で研究を行っている栄坂教授と連絡し、2002 年 4 月から栄坂研究室で博士として研究を行ってきました。2005 年博士号を取ってから今まで、北見工業大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで非常勤研究員として勤めています。研究内容としては、制御工学、情報技術と交通工学などを融合するドライビングシミュレータによる走行実験から、ドライバの運転行動に影響を与える路面特性を抽出し、ヒューマンファクタを考慮した性能評価指標に基づく路面診断システムの開発や、各種路面環境下でのドライバの視覚特性の解析と運転行動のモデル化です。

今は、工業先進国として、日本は世界の多くの産業で主役を演じます。 例えば、自動車産業、エレクトロニクス産業、ロボット工学、情報技術など。しかし、私にとって日本の一番興味深いところは、日本人がもつエネルギーの大きさです。 そのエネルギーは明治維新から今まで世界にみせてきまし

た。しかも戦後たった何十年間でゼロから世界二番目の経済 大国をつくりあげることに成功しました。それは日本が困っ てきた時に勝利に導いてくれる原動力だと思います。

日本の社会や文化に対する印象として、外国からは「保守的」といわれるほど自国の文化に対する尊厳を重視しながらも、勤勉な国民が一丸となり日本のために尽くしました。人々が丁寧で他人を尊重するし、社会の特性が経済発展に大いに貢献している点を申し分ないと見られます。しかし、その一方で、出生率の低下および高齢化問題などさまざまな問題もあり、日本社会・文化及び経済にどんな影響をもたらすかという点があります。これは、日本社会にもっとも根本的な変革を要求するものと見られて、今こそ真剣に解決方法を考える必要があると思います。

日本の最も北にある国立大学である母校に期待する事は、 多くの国から留学生をさらに受け入れると共に、国際化に対応できる素養・コミュニケーション能力を持つ学生を育てることです。また、国際的視野を踏まえて教育研究を活性化するため、学生・研究者の交流を図ると共に、さまざまなレベルでの国際共同研究を奨励・推進することも期待しています。

最後にメッセージをどうぞ

(ウイグル語)

北見工業大学での留学生活は最高です!

Kitami Sanaet Institutidiki okhux hayatim ajayip maenilik boldi!

(中国語)

在北见工业大学的留学生活非常有收获,也最令我难忘!

勉学と私生活と将来と



鮑 松偉

Bao Songwei

国·地域:中国

大 学: 滋賀大学大学院経済学研究科

(2006.4~2008.3)

現 職: 住友電気工業株式会社勤務

母校を留学先に選んだ理由は?

私は8年前に来日し、現在、日本企業で輸出・輸入の仕事に携わっています。大学は法学部に入学し、日本の六法や国際貿易法を中心として学びました。しかし、法律という側面に捉われず、さらに経済という広い分野から学び、専門知識を身に付けるため、滋賀大学大学院経済学研究科に入学することを決めました。

留学中特に思い出として残ることは?

滋賀大学は、教育学部と経済学部の2学部で構成されています。経済学部は国立大学としては最大規模の6学科、大学院経済学研究科は博士前期課程3専攻・博士後期課程1専攻を有する総合的な陣容を備えていることで、全国から優秀な教員が集まり、また、多くの方は実務経験者でもあり、教科書に無いような具体例や経験談を織り交ぜながら指導していただけたのもよかったです。この2年間を通して私は広く浅くではなく、1つのことを深く掘り下げて学び、確かな知識力がしっかり身に付いたと思います。勉強の面だけではなく、私生活と日本での就職活動もしっかりサポートしていただき

ました。

学生生活はどうでしたか?

留学生の生活においては、滋賀大学では、国際センターや 国際交流会館があり、学長と留学生の交流会、地域との交流 などのイベントが毎年開催されています。また、国際センター の職員の方が本当に留学生のことを考えて、我々留学生の身 になってくださったからこそ、困った時に気楽に相談するこ とができ、充実な大学生活を送れることができたと思います。 さらに奨学金制度も充実し、懸命に勉強すれば、政府・大学 から奨学金をいただき、生活の余裕が生まれ、さらに勉強す る時間が持てる良い環境を備えています。

現在留学経験がどのように役に立っていますか?

就職活動においては、先生と1対1の面接の指導を受け、 私の同期生は殆ど希望の企業に入って、現在活躍しています。 就職においても、滋賀大学のひとつの強みではないかと私は 思います。現在会社で仕事している上で、滋賀大学で学んだ ことが本当によかったと常に実感されます。専門知識はもち ろんですが、歴史を持つ滋賀大学なので、職場の上司の方も 滋賀大学卒業の方が多数いらっしゃるので、仕事もスムーズ に進めることができます。

母校に期待することは何ですか?

留学生として思うことは、私は滋賀大学に入学した事により私生活と勉学を両立する事ができ、自分のよりよい将来を選択することができたと思います。今後とも国際社会に向け、多くの人材を送り出されることを願っています。

最後にメッセージをどうぞ

作为一名留学生,能够进入滋贺大学,无论是在私生活还 是学习方面都可以有条理地分配时间对将来的发展来说, 是一个很好的选择。 私は滋賀大学を誇りとして、皆さんに是非勧めたいと思います。なぜなら、我々留学生にとって、勉強・私生活・卒業後の進路について、三つとも希望をかなわせるには、滋賀大学は間違いない選択だと私は思います。是非、皆さんと一緒に日本で頑張っていきたいと思います。

私の日本生活



峰花.

国·地域:中国

現職:アパレル会社勤務

私は、2002年桜が満開している季節に日本に来ました。 今考えれば、母国を離れる寂しさよりも、これから迎える日 本での生活に胸はずむうきうき感の方が大きかったような気 がします。2002年4月に岐阜女子大学文学部に入学し、最 初は文化の違いからいろいろなカルチャーショックを受け て、日本が嫌になったこともありましたが、日本人の温かさ にふれ、気がつくとどんどん日本が好きになっていました。

あっという間に4年が過ぎ、卒業後の進路を決めなければ ならない時期が来たとき、就職か進学か迷った末、進学の道 を選び、言語学に興味があったので、岐阜大学大学院教育学 研究科の英語教育講座を受けることにしました。

英語教育講座の授業には、国際異文化理解という授業があ り、多文化、多民族という言葉を聞くたびに自分が歩んでき た歴史、中国の歴史を知りたいと思うようになりました。入 学当時は、岐阜に住み慣れていたので岐阜大学に入学できて よかったという安心感だけでしたが、岐阜大学で学んだ2年 間はとても充実した忘れられない思い出となりました。

言語学、国際異文化理解などについてあまり知識がなかっ た私が、今少しでも人の気持ちを理解しようと思いやりの心 が分かるようになったのも、大学の講義や論文指導を通して、 私の個性を生かしつつ、厳しく指導してくれた寺島先生を含 む先生達のお陰でした。また、奨学生として採用してくれた ロータリー米山奨学会と私のアドバイザを担当してくれた林 さんにも感謝でいっぱいです。皆様の助けがあったからこそ、 勉強に集中することができたし、今の私がいると思います。

私は今、アパレル会社で生産管理事務を担当していますが、 海外と書類のやりとりをする中で、信頼関係の大切さを感じ ています。全てが順調とはいきませんが、皆様との出会いが あったからこそ乗り越えていける気がします。感謝の気持ち を忘れず皆様の期待にこたえられるよう頑張って行きたいと 思っています。

最後にメッセージをどうぞ

能来到日本、很高兴。 能成为岐阜大学的毕业生感到很荣幸。 我会用我学到的东西、努力的培养更好的缘。 谢谢

日本に来てよかったと思います。 岐阜大学の卒業生でよかったと思います。

今まで学んできたことを生かしてもっといい縁を作るために頑 張りたいと思います。

ありがとうございました。

光陰矢の如し



曹振波

Cao Zhenbo

国·地域: 中国

大 学:鹿屋体育大学体育学部、大学院 ____ 体育学研究科

(2000.9~2007.9)

現職: 国立健康·栄養研究所

光陰矢の如し、気づいたら日本に来て8年となり、博士後期課程修了からあっという間に1年以上も経ちました。大学院時代を振り返ってみると、とても素晴らしい思い出がいっぱいです。

私は、運動及び健康増進の分野でより先進的な知識と研究経験を身に付けるために、海外留学することを希望しました。母校の恩師が日本の先生との共同研究協定を締結したことをきっかけに、留学先に鹿屋体育大学を選びました。なぜなら、小さい時、日本のドラマや映画を見てから日本のことが好きになり、大学時代から経済強国と長寿国日本を築きあげた秘訣は一体どこに潜んでいたのか、について知りたい気持ちを持っていました。また、鹿屋体育大学に留学した経験のある先生が、鹿屋体育大学のことをよく話してくれていましたので、良い印象を持っていました。さらに、日本は社会の安全面では他の国と比べたら非常に良く、勉強、生活に理想的な場所だと思います。高齢社会である日本での高齢者の健康増進に関する研究に深い興味を持ち、日本に留学することを決意しました。

来日当初、学校の自然の美しさや設備の素晴らしさに本当 に興奮し、感激しました。ここで勉強できることが幸せだと 思いました。しかし、すぐ言葉の壁にぶつかって、日本語の 勉強に苦しみました。その当時は、大学で留学生のための日 本語補講がありましたが、部活動に入ってない私は日本人学 生との交流のチャンスが少ないので、果たして専門の勉強の 出来るレベルまで日本語を操ることが出来るかは不安でし た。その時、大学のサークルであるグローバル研究会に出会 いました。このサークルの方々は生活面でぶつかった問題に ついて、アドバイスをするだけでなく、休日や研究の合間を 見つけて、一緒にスポーツをしたり、国際交流イベントに参 加したりしました。彼らのおかげで、私の日本語が上達し、 異国の日本にすぐになじむことができました。彼らには本当 に感謝の気持ちでいっぱいです。

今、私は、独立行政法人国立健康・栄養研究所の健康増進プログラムに勤務しております。毎日人間を対象に身体活動と健康の分野で、健康づくりのための科学的に介入及び評価する方法及びエビデンスの研究に取り組んでいます。大学院時代は中高年者を対象に運動及び栄養介入の効果についての研究をテーマに、運動及び健康についているいろなことを学びました。そのことが現在の研究に大変役立っております。また、日本での留学及び研究経験を生かし、日中の友好と学問交流にも頑張っております。

留学生活を振り返ってみると、大学などで多くの日本人や 色々な国籍の友達と出会い、それをきっかけに、さまざまな 文化や習慣を自然と理解できるようになりました。このよう な環境で、自分独自の考え方や価値観について客観的に考え るようになったことは、私にとって、とても貴重な財産になっ ています。最後に私の愛する母校鹿屋体育大学が、世界の鹿 屋体育大学になるよう、ご成長を心から祈ります。

最後にメッセージをどうぞ

留学日本之前,最好先打下一定的日语基础。留学生活中,在尊重和理解相互国家·民族的文化和习惯的基础上,应该广交朋友,在生活方式和行为规范上尽量做到"入乡随俗"。

日本へ来る前にできれば日本語を勉強した方がいいと思います。留学中にお互い国・民族の文化や習慣を尊重かつ理解したうえで、友人をたくさん作るべき、日常生活行動及びマナーの面で「郷に入れば郷に従う」べきだと思います。

私の好きな日本の精神



チョードリー・チューリン・

国·地域: バングラデシュ

(2004.4 ~ 2008.3)

現 職: 日本学術振興会博士研究員

医学部を卒業後医学研究のキャリアを選択するとき、心臓 血管疫学の分野で大規模で高等な研修を受けたいと考えてい ました。その頃、文部科学省、日本政府奨学金による学生に 選ばれました。応募過程で、日本の大学、教授について特に 希望があるかどうか訊かれました。バングラデシュで研究分 野の先輩とその件について話していたとき、滋賀医科大学の 上島教授の研究について聞きました。上島先生の活動・研究 記録を細かく読み進むにつれ、滋賀医科大学の上島教授の指 導の下なら、心臓血管疫学について他に負けない研究ができ るのではないかとかなり確信するようになり、上島先生の学 生として私を受け入れてくださるように連絡を取らせていた だきました。

外国人留学生として生活の中で最初に忘れられないのは日 本に引越ししてきたときのことでした。周りの人、みんなが 親切に手伝ってくれて、引越しはとても簡単に済み、ストレ スも何も感じることはありませんでした。このスムーズな引 越しの過程が、私がその後に学んだ多くのことの基礎になっ たと信じています。学生生活の中で最もすばらしかったこと のひとつは、もちろん、2006年6月18日から22日にイタ

リアのローマで行われた第14回アテローム性動脈硬化症国 際シンポジウムで若手研究者賞を受賞したことです。指導教 官の先生方にも私の研究を誇りに思っていただけたと感じま した。

私は日本文化、特にその社会面に大変好印象を持っていま す。一般的に皆、他の人々と問題を起こさないように最善を 尽くそうとします。また、日本人の「もったいない」という 精神が私は大好きで、私もまた私生活でもその精神に従おう としています。これらとは別に、日本の宗教文化にすごく興 味をかき立てられます。日本中に本当にたくさんのお寺や神 社があります。それほどたくさんの神社仏閣を訪れることは できませんでしたが、一番魅了されたのは金閣寺です。私が 京都市に近いところにある大学を選んだのは運がよかったと いえるでしょう。

現在、講座で日本学術振興会から奨学金と研究助成金を受 け、博士研究員として働いています。外国人留学生としての 経験が研究を詳細に調べるのに役立っているということは明 らかです。学生時代に学んだことは「我慢」という言葉で、 この精神が私の研究を助けてくれています。

「母校」への私の希望は学術研究者になることです。疫学 界で研究に打ち込みたいと思っています。世界中の人々を究 極的に助け、私たちの社会がもっともっと健康な社会になる のを助けるような研究結果を夢見ています。

最後にメッセージをどうぞ

My message to the readers is that ;following simple attitude in life makes our life a cheerful one, sticking to simple values makes life smooth, and enjoying/loving your work will make life less stressed. Whatever is the situation,"Gaambatte Kudasai".

人生において純真な態度に従うことはわれわれの人生を愉快 なものにし、真価にこだわることは人生をスムーズにします。仕 事を楽しみ愛することは人生をよりストレスの少ないものにしま す。どんな状況においても、「頑張ってください。」

一番好きな場所



高 Gao Yang

国·地域:中国

大 学: 東京工業大学大学院社会理工学

(2006.10~2008.9)

現職:株式会社カネボウ化粧品 国際

東京工業大学と清華大学大学院合同プログラムに参加し、2006年10月から2008年9月の間、東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻で勉強させていただきました。修士論文は、戦後GHQに占領された日本の科学技術政策についてです。

戦後日本の科学技術体制の刷新が行われました。科学技術庁の母体となった科学技術行政協議会 (STAC) の成立は、GHQ 側の影響が大きかったと思われます。それを証明するために、指導教員のアドバイスを受け、国立国会図書館の憲政資料室で GHQ の内部資料のマイクロフィルムを専門の機械で見るのも、貴重な体験でした。東京工業大学での勉強は、本当に正しい歴史というのは存在していなく、私たちの研究も、過去の歴史の新しい可能性を示すに過ぎないことだと認識させられました。教科書の歴史でも、普段の常識と言われる歴史でも、新たな可能性、違う展開があるかもしれません。その新しい可能性の存在を証明できる資料を探し出し、修士論文を完成させたことに、研究の喜びを感じました。東京工業大学に在学中、指導教員をはじめ、講座の先生方、先輩達が熱心にご指導をしてくださいました。また、留学生課、清

華大学プログラム事務室のスタッフの皆様にも大変お世話に なりました。心から感謝を申し上げます。

勉強以外に、日本の文化を触れるチャンスもたくさんありました。留学生課に煎茶のお稽古がありまして、参加させていただきました。普段の生活に正座をしない私にとっては、苦労しましたが、おいしいお茶が入れられ、和の心をすこし近づけたような気もしました。東京工業大学の理工学系は、全国でも有名ですが、私にとって、東京工業大学の世界文明センターも大切な存在でした。日本の能、歌舞伎、狂言など、内容豊かな講演ばかりでした。卒業した後でも、ぜひまた出席していきたいと思います。

そして、東京工業大学で一番好きな場所は、駐輪場のそばにある富士見坂の橋です。天気のよい日には、富士山がはっきりと見えます。夕日のオレンジ色に染まる雲、遠くにある富士山、鉄道の線路、日本らしい景色に感動を覚えました。写真の絶好のスポットなので、皆様が近くにいらっしゃるとき、ぜひ寄ってみてください。



最後にメッセージをどうぞ

在惊叹于日本上下学路上浪费了太多时间的不知不觉中, 开始喜欢上了在大冈山车站旁的东京工业大学的幽静,和 上下学路上的风景。以理工科著名的东京工业大学,有着 她朴素求实的一面,让一直生活在理工科学校的文科生倍 感亲切。 通学の時間が長いことに驚いている間に、知らずのうちに大岡山駅前の東京工業大学の静かさと、通学中の風景を好きになりました。理工系が有名な東工大では、理工系らしく、素朴な一面を持ちながら、とても懐かしく思います

母校が新しい自分を鍛えてくれた



剔

Guo Dengji

国·地域:中国

大 学:福井大学大学院工学研究科機械

三菱電機株式会社 名古屋製作 所HMI 開発第一課 ______

時間が飛ぶように過ぎ去り、母校を卒業してから間もなく 2年になります。母校での日々を思い出すと、その懐かしさ の響きが絶えなく、母校の方々に心より感謝しています。そ の頃は、後悔なく、かけがえなく、充実した学習と生活の日々 でした。

5年前、まだ中国の母校の大学4年生で、中国の大学院進 学か日本への交換留学か決めかねていました。大学の先生や 日本にいる先輩たちに励まされ、日本への留学を決意し、桜 舞う季節に日本の土を踏みました。

. 留学中特に思い出として残る出来事は?

日本での学習と生活をスタートしましたが、日本語は直面 する壁となりました。日本語がまだ初心レベルだった私に とって、日本人学生と同じクラスで授業を受けるのは大変で、 黒板で講義内容を理解するしかありませんでした。その時、 日本語が流暢になり、支障なく先生の講義を理解できればど んなに楽しいことだろうと思い、日本語が早く上達できるよ うに頑張りたいと決心しました。毎晩図書館の閉館まで勉強 し、勉強した内容を翌日の日本人学生との会話で実践してい ました。それを堅持し、半年後はほぼ問題なく講義を理解で

き、生活面の会話力も獲得できました。

当初日本に来るきっかけは知識の勉強だけでなく、日本文 化に対する好奇心でもありました。大学では日本文化、日本 工業の発展、社会見学に関する授業なども留学生センターに より開講されており、興味津々に受けていました。今でも大 変勉強になったと感じています。最も印象に残ったのは、中 島教授が授業で取り上げた NHK スペシャル番組 Project X シリーズでした。戦後日本復興のために頑張っていた方々の 物語に感動させられました。今でも仕事に疲れて気が落ち込 んだ時に、それらを思い出すと勇気が生まれてきます。

. 現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役 に立っていますか?

現在は大学院時代の研究と完全に異なる分野の開発をして いますので、人生には常に探究心が必要だと感じています。 いろんな問題や困難を乗り越えるのに、1つの分野の知識だ けでは決して足りなく、常に自習等を通して自分を鍛錬する 必要があります。また、誰でも従事する仕事に対して興味が あるとは言い切れませんが、向上心と責任感をもってプラス アルファーで成果の質のアップに努力しなければならないと 感じます。従って、この機会に、後輩たちに探究心・向上心・ 責任感という3つのキーワードをお伝えしたいと思います。

最後にメッセージをどうぞ

我们来到日本留学,不仅要学习先进的科学技术知识,更 要善于发现和学习日本社会的好的体制和日本人的好的品 质。然后再保持和继承我们中华文化的自身优点,相信一 定会使我们的人生更加精彩。

另外,我们作为中国和日本之间的纽带,并且同时了解两 个国家的社会状况, 因此我们有义务从我做起, 为增进两 国的共同发展和相互理解而发挥应有的作用。

我々が日本に留学し、高度の科学技術を勉強する上で、日本 社会の良い体制と日本人の良い品格を見つけ出し、理解すること は大事でしょう。それらを自身の中華文化の精粋とうまく融合す れば、きっと我々の人生を一層アップできると信じています。

また、我々は日本と中国の架け橋として、しかも両国の社会状 況も承知しているので、両国の共同発展と相互理解の事業に自ら 努力しなければならないでしょう。

桜島の活火山に魅せられ



<u> ハフィーズ ウル レーマン</u>

Hafiz Ur Rehman

国・地域: パキスタン

大 学:鹿児島大学大学院理工学研究科 (2002.4 ~ 2007.3)

現 職: 鹿児島大学 理学部 助教

来日前、私はパキスタン地質調査所で働いており、鹿児島 大学の山本先生とヒマラヤの地質に関する共同研究を行って おりました。そのことから山本先生を通じて、鹿児島大学の 素晴らしさを知り、また、桜島という活火山が、鹿児島への 留学を決める要因となりました。

来日後、すぐに日本語や日本の文化が好きになりました。 日本人の心の温かさ、親切さ、仕事に対する真面目な姿勢に も、心を打たれました。日本滞在中に多くのことを学び、人 生が大きく変わったと思っております。日本の友人や先生方 から、命の大切さ、仕事の喜びを学びました。大学では日本 語や日本文化の美しさに触れ、研究室では最新の設備や専門 の研究手法に触れ、毎日が発見の連続でした。特に研究室で は、充実した実験設備に囲まれ、先生方の熱心な指導のもと、 多くの知識を吸収し、大きな自信へとつながりました。また、 キャンパス内外でのさまざまな国の人々との交流活動を通じ て、社会的視野が格段に広がりました。鹿児島大学で学んだ ことは私の宝物です。このような機会をあたえてくださった 文部科学省をはじめ、勉学・生活の両面で、私の家族に対し ても同様に、励まし支えてくれた先生方と研究室の皆さんに は大変感謝しています。

私は、現在母校の鹿児島大学理学部の助教として、後輩の 指導にあたれる事を誇りに思っております。異文化社会で生 活することは、私もそうでしたが、多くの困難に遭遇します。 留学生に同じような思いをさせないようにしたいと思ってい ます。

鹿児島大学は、今後更に外国人研究者の受け入れ基盤を充 実させ、異文化をより理解し、友好の輪を広げ、最新の研究 を行う場であって欲しいと願っています。



喜界島での地域住民との交流 (インターナショナルキャンプにて)

最後にメッセージをどうぞ

زدندکی ہت بڑی نعمت ھے ہمیں اسکی قدر کرنی چاھیے

Life is an important gift granted once. Spend it positively. Life is continuous process of learning; learn from whatever you see, whatever you hear, and whatever you do. Even if something wrong happens to you, take it positive and learn from it. Whatever you learned teach the good part of it to others.

人生はたった1つの大切な贈物である。前向きに生きよ。見るもの、聞くものそして己の行動から常に学び続 けるもの。たとえ不幸な目に会おうともそこから学ぶもの。また良いことはなんでも人に教えること。

大学教員から留学生へ



褔

学: 香川大学大学院教育学研究科 (2003.4 ~ 2005.3)

現職: 広島大学大学院教育学研究科博 士課程後期(大学院生)

私は日本に来る前に、中国のある大学の日本語教員でした。 大学卒で大学教員になったため、日本語の実力と教育に関す る専門的な知識に対する不満・不安が日々高まってきました。 自然な日本語、教育に関する専門的な知識を求めて、私は来 日しました。大学院に進学しようと思った時期に、偶然、高 松にいる友達に香川大学を進められました。初めて香川大学 を訪れた時、落ち着いていて歴史が感じられるキャンパスは 勉強するのに良い環境だと思いました。しかし、香川大学を 選んだのは、このキャンパスではなく、キャンパスの中の先 生方でした。香川大学で初めて出会った先生は、私の指導教 官であり恩師でもある加野芳正先生でした。初めて先生の研 究室に足を入れた瞬間、大きな衝撃を受けました。そこは私 のイメージでいうと図書館でした。私はこれまで一生懸命勉 強してきたつもりでしたが、教科書を含め、あんなにたくさ んの本を目に通したことがありませんでした。その大量の本 は、私と先生の間の壁になるのではないかという不安があり ました。しかし、先生はとても明るくて優しくてユーモアに 富んだ方でした。当時の私にとって、先生の日本語はとても 分かりやすかったし、この環境の中で勉強してみたいと心に

決めました。

大学院1年目の後半だったと思いますが、驚いたことに先 生方と事務職員の方々は、教育学研究科の全留学生を招いて、 中国の水餃子パーティーを計画してくれました。場所は大学 の研究科にある家庭科の調理室でした。私たちは先生方、職 員の方々と一緒に母国の料理を作り、食べることに大変興奮 していました。先生方の「オー、韮のにおいだ」という嬉し そうで楽しそうな声は、いまだに鮮明に覚えています。この 出来事は、当時の留学生にとって共通の話題の一つになって います。

今現在、私は広島大学で博士号の取得に向けて頑張ってい ます。修了後には、中国で大学教員に復帰したいと考えてい ます。日本での留学経験は、私の今後の人生の大きな糧になっ ていくと思います。日本にいる間、日本人の方々に助けられ、 友達として付き合ったりすることが数多くあったので、今の 私は、自分の日本語に自信を持てるようになりました。香川 大学で修士論文を書いたことから、さらに研究を深めるため に、博士課程後期に進学したいと思うようになりました。今 はある程度研究の楽しみ、面白さがわかってきました。それ に、日本の国立大学の先生方の教育・研究に対する情熱と勤 勉さを自分の目で見て、それを体で感じることもできました。 これは、今後の私の大学教員としての生き方にも良い影響を 与えると信じています。

最後にメッセージをどうぞ

高松一我心中的第二故乡

高松 私の心の第二のふるさと

JTWへの参加をきっかけに



李素治

Lee Soyeon

国·地域: 韓国

大 学: 九州大学大学院システム情報科

チャリ (2004.4~2006.3)

現 職: エンジニア

母校を留学先に選んだ理由は?

九州大学には、世界中から派遣された学生たちに日本について体験してもらうJTWという交換学生プログラムがあります。私はそのプログラムを通じて、日本についてだけではなく、世界についての理解を広めることができると思い、学部のときJTWに参加しました。その体験の中で、九州大学大学院の学問レベルの高さや福岡の環境が大変気に入り、大学院への進学を決めました。

留学中特に思い出として残る出来事は?

共同研究をしていた東京の会社にインターンとして2カ月間派遣されたことがあります。そのとき学生や社会人の考え方の違い、そして会社では日々の理性的な判断が非常に重要であることについて学ぶことができ、大変良い体験でした。

日本の文化に対する印象は?

細かいところまで相手を配慮する、という文化はとても素晴らしいと思います。茶道のような伝統文化にはもちろん、現代の日本の雑貨や家電にも消費者を配慮する細かい機能が

たくさん盛り込まれていて、すごく印象的です。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役 に立っていますか?

現在はテレビを作るソフトウェアエンジニアとして活躍しています。大学で学んだソフトウェアについての技術的な基礎や商品開発のマネジメントの仕方のような専門知識を今の仕事に活かしています。また、さまざまな学会での発表経験も、会社でプレゼンテーションを行う際に役立っています。

母校に期待することは何ですか?

九州大学は現在移転を推進中であり、場所だけではなく学校のイメージやキャンパスの役割分担など、さまざまな面で変化を迎えようとしています。その変化の中で、九州大学の古き良き文化をしっかりと残しながら、卒業生が誇れる新しい九州大学だけの文化を積極的に作り出していってもらいたいと思います。



最後にメッセージをどうぞ

가

九州大学の学生は大変地元志向が強く、九州に残って仕事をしている方々がたくさんいます。それも地元への貢献という面では素晴らしいことだと思いますが、個人的には、もっと九州大学の優秀な人材には東京や大阪のように企業の数も、仕事のチャンスも多い場所で、のびのびと活躍してもらいたいと思います。

予想していなかったこと



マンチャンダ プリーティ

Manchanda Preeti

国・地域: インド

大 学:京都教育大学日本語·日本文化 留学生、大学院教育学研究科 (2003.10~2007.9)

現 職: 株式会社城南電器工業所 京都マーケティング部配属

私は、2003年10月に、インドから京都教育大学に、1年間の「日本語・日本文化研修留学生」として来ました。約5年前、日本全国の大学リストから「京都」と「教育」をキーワードに選んだ大学が、京都教育大学でした。こんな単純な決断が、私の人生を大きく変え、いつの間にか1年間の留学期間が5年間の日本滞在期間に変わってしまうとは、その時予測もしていませんでした。

もう一つ予測していなかったことは、インドであまり料理 していない私が、入学して間もなく、学園祭で約 100 人前の カレーを作るということでした。留学生の仲間たちが助けて くれたお蔭で飛ぶように売れてしまいました。この時たくさ ん友達ができ、その後も、学園祭で各国の料理を出しました。 大学時代の一番楽しい思い出の一つです。

このような楽しい1年間を終え、教育に関する本格的な学びが始まりました。修士課程に入学し「学校教育」を専攻しました。日本の小学校などを見学させて頂く機会を頂き、日本の教育についてより理解を深めることができました。修士課程ならではの勉強の難しさはもちろん、言葉の面での困難、それに加え、家族やインドの友人から離れている寂しい思い

など、辛いときもありました。けれども、大学の先生方、事務スタッフや友人たちの支えや温かい応援のもと、何とか乗り越えることができ、2007年に無事卒業することができました。

学生時代にもう一つ心がけたことは、日本文化の中心である京都に学ぶことです。日本の奥深い文化を直接体験しようと、茶道をはじめ、生花、着付け、染色、陶芸などを習いました。また、大学の部活に入部し、日本の厳しい修業の文化や先輩後輩という上下関係を体験することができ、まだ生き残っている保守的な日本の一面をみることもできました。

現在、私は京都にある日本の中小企業に勤めています。日本の大学で学んだ論理的な思考や、細部までこだわって考えることは、会社で計画書やレポートなどを作成する時とても役に立っています。また、茶道など日本文化に学んだ謙虚さや思いやりの心は、日本人の同僚と付き合っていく上で欠かせないものだと感じています。

最後になりましたが、京都教育大の先生方はじめ、留学生 係や事務スタッフ、図書館スタッフ、皆さんに感謝していま す。4年間は、学業面での指導はもちろん、生活面、就職の 面でも、総合的なサポートをして下さり、本当にお世話にな りました。京都教育大学を、自分の「母校」と呼べることは 誇りに思っています。

これからも、日本とインドの人々がお互いに理解し合い、 より友好的な関係ができる様に貢献していきたいと思いま す。

最後にメッセージをどうぞ

देश अलग, भाषाँऐं अलग, धर्म अलग हैं,

मगर इन्सान मूलभूत एक ही है|

प्रीति

なによりも、京都教育大学での留学経験を通して、一番大事なことを学びました。それは、人間は世界中同じだということです。違う文化や習慣、環境によって生まれる特徴を私たちは持っていますが、基本的には、世界中の皆が同じ心や感情を持っています。言葉や宗教のような外的な要素は違っていても、世界中の人間は同じものです。

デザインの基本「コンセプト」独自性」を忘れずに



ファン ディン アン コア

Phan Dinh Anh Khoa

卦·地域:ベトナム

大 学:東京藝術大学大学院美術研究科

(2005.4 ~ 2007.3)

現 職:KAD株式会社

母校を留学先に選んだ理由

日本の文様や家紋など独特なデザインの美しさに惹かれ、 京都精華大学芸術学部に留学し4年間デザインの勉強をしま した。引き続き日本で勉強することを考えたとき、デザイン 専攻がある日本の大学院で、入学が一番難しいと言われてい るのが東京藝術大学であったため、挑戦することにしました。 また、東京藝大の卒業生で、社会から高い評価を受けている 人が多いことも理由の一つでありました。美術館やたくさん の文化施設がある上野公園、この素敵な環境の中に東京藝大 があるというのも魅力でした。

留学中特に思い出として残る出来事

大学院修士課程の修了制作で、「ファン・ボイ・チャウ が見た二つの日本」という37分のドキュメンタリービデオ (DVD)を作りました。取材費は自腹、カメラなどは大学の 機材が空いている時に借りるという状況での制作でしたが、 多くの方々の手助けがあったからこそ完成することができた ものと大変感謝しています。

また、留学生の寮である国際交流会館での生活はとても楽 しかったです。日本語を殆ど話すことができない学生もいま

したので、お互いに料理をつくって交換して食べたり、絵を 描いたりしてコミュニケーションを取っていました。いろい ろな国から来た学生に出会ってさまざまな文化を知り、面白 い考え方や自分と違った考え方を知ることができ、とても貴 重な体験でした。日本に来たばかりの頃は、お寿司やお刺身 は食べることができませんでしたが、最近はお刺身の美味し さが分かってきて今では食事は殆ど和食です。

日本の文化に対する印象

日本人は思いやりがあり、丁寧な性格という印象を持って います。また、日本には素晴らしい文化があると思います。 京都精華大学の学生時代は京都で過ごしましたが、この地に は山や川などの自然が豊富な上、伝統的な建築物や古美術も 見ることができ、とても幸せに生活することができました。 京都で過ごしたことで、色や形の微妙な違いが分かるように なり、感覚も研ぎ澄まされていったようにも思いますので、 デザインのための感性を養うには最適な環境だったと思って います。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っ ているか

現在、KAD という広告会社を経営しています。学生時代 にデザイン科の先生方から、「コンセプトをしっかりと考え ること」と「独自性が不可欠である」という基本を忘れない ことが大切であると教わり、今もその姿勢を怠ることなく仕 事に励んでいます。

最後にメッセージをどうぞ

Co nhieu thu nhieu tien van khong mua duoc.

Thoi sinh vien la thoi gian hanh phuc nhat, chung ta nen tran trong nhung khoang thoi gian dang quy do.

お金がたくさんあっても買えないことは一杯あります。 僕にとって学生時代は一番楽しい時でした。学生時代を大切に しましょう。

日本の文化・伝統に触れて



チャン・ティ・ヴィエト・ハー

Tran Thi Viet Ha

国・地域:ベトナム

大 学: 茨城大学人文学部

(2004.12~2005.9)

現 職: 昭和女子大学生活機構研究

大学院4

母校を留学先に選んだ理由

ベトナムのハノイ国家大学で勉強した時、茨城大学の学生と交流したことがあります。茨城大学の学生は大変親切で、積極的に付き合ってくれました。私は日本の文化・日本人が大好きになったので、必ず日本に留学すると夢を抱きながら、勉強を頑張りました。大学3年生になってから、茨城大学の先生の推薦で奨学金を頂き、茨城大学に留学することになりました。

留学中特に思い出として残る出来事

寒い冬朝、成田空港に到着し、茨城大学の先生と友達に暖かく歓迎して頂きました。しかし、最初に専門授業の内容が聞き取れないし、日常の生活で日本人と話す時、わからないことがいっぱいあって、困りました。けれども、先生はいつも励ましてくれました。学校の勉強だけではなく、先生は神社見学や陶器を作る体験などを行ってくれて、日本文化に接触できました。茨城大学で過ごした日々は人生で素敵な日々で、数えられないほどいい思い出があります。しかし、一番

印象に残るのは先生方・先生のご家族・他の留学生の暖かい 心です。茨城大学の先生とご家族に優しく付き合って頂き、 心強くなりました。私にとって、先生のご家族と他の留学生 と過ごした花見・新年パーテイー・誕生日パーテイーはとて も忘れられない素敵な思い出です。

日本文化に対する印象は

茨城大学で留学した時、日本語だけではなく、さまざまな 日本文化を体験できました。成人式にボランティアさんに日 本の着物を着せて頂き、大変嬉しかったです。そして、先生 の家族と桜や紅葉を見に行って、日本の自然に心をひかれま した。日本人は上手に伝統と現代の文化を結び合い、伝統文 化を大切にしていると思います。仕事で忙しくても茶道のク ラスに通う人もいるし、長く並んで神社参りする人もいます。 つまり、日本人は伝統文化を大切する自覚があり、伝統文化 と楽しく接触していると思います。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に 立っていますか

茨城大学での指導の先生のおかげで、良い卒業論文を完成し、ベトナム人の先生に高く評価して頂きました。そして、ベトナムでの大学を卒業した後、日本に留学した知識を生かして、日本の大学院に進学する試験に合格しました。茨城大学に留学したことがあったからこそ、2回目の日本に留学する時、あまりカルチャーショックがなかったので、毎日、楽しい日々を過ごしています。茨城大学に留学し、親切な先生方や暖かい家族に会えて、幸せだと思います。

最後にメッセージをどうぞ

Đối với tôi, 10 tháng lưu học ở trường Đại Học Ibaraki quả là những ngày tháng đẹp đẽ trong cuộc đời. Tôi thật sự rất biết ơn các thầy cô giáo đã rất nhiệt tinh dạy dỗ cho chúng tôi,. Từ khi được đến Nhật du học, cuộc đời của tôi đã có nhiều thay đổi. Tôi như cảm thấy mình mạnh mẽ hơn, tự tin hơn và học hỏi được nhiều điều thú vị. Cuộc sống của 1 du học sinh có những niềm vui nhưng cũng có những khó khăn nhất định, tuy nhiên cũng chính sự cố gắng vượt qua khó khăn đó sẽ giúp chúng ta sống những ngày có ý nghĩa hơn.

私にとって、茨城大学で留学した 10 カ月はとても素敵な日々です。先生に親切に教えてもらい、いつも暖かく付き合って頂き、深く感謝しています。日本に留学してから、人生が大きく変化し、より強くなり、毎日の生活がより充実したものになりました。留学の生活で、楽しいこともあるし、悩むこともあるでしょうが、いろいろな困難を乗り越えて、きっと充実な日々に出会うと思います。

情報スキルを学ぶ



王 命玲

Wang Mingling

国·地域:中国

大 学: 静岡大学大学院情報学研究科 (2001.4.~2007.3)

現 職: 株式会社コア 中部カンパニー エンベデッドソリューション部 オープンシステム担当

母校を留学先に選んだ理由

現在の社会では、情報技術は著しく進展を遂げつつあり、 さまざまな分野で重要な役割を果たしています。高校卒業後、 社会で通用する情報スキルを学ぶために、日本へ留学するこ とを決心しました。第一志望の静岡大学情報学部は文工融合 の学部であり、より広い分野で研究を進めることができます。 理系出身の私は、文系の知識にも大変興味を持っていました。 そこできっと自分のやりがいのある勉強・研究を見つけられ ることを信じていました。また、静岡大学は、留学生の受け 入れに関する体制が整っています。世界中数多くの大学と提 携関係を持ち、毎年、積極的に留学生や研究者などを受け入 れています。ホームページを見たりして、さまざまな面から サポートがあり、留学生が安心して勉学に専念できるという 印象的を持ちました。最後に、大学のキャンパスは工業の町、 音楽の町と言われる浜松にあります。浜名湖の景色などの魅 力的な生活環境にも惹かれました。このような理由から、私 に一番相応しいと感じ、静岡大学を留学先として選びました。

留学中に特に思い出として残る出来事

大学を卒業してから間もなく2年になろうとしています。 大学では勉強のほか、自分の趣味も楽しみながら、充実した 生活を送ってきました。毎年6月の駅伝大会、11月の大学 祭などの多彩な学校行事に、友達を誘って参加していまし た。大学生活の中で、一番思い出になっていることはNPO 法人浜松日中文化交流会で活動したことです。浜松日中文化 交流会の活動趣旨は、留学生たちと地域の日本人に、異文化 コミュニケーションの場を設け、お互いの文化に対する理解 を促進することです。そこで真の日本文化に直接に触れることができ、日本文化に対する理解は一層深まりました。また、さまざまな交流活動に携わったことによって、異文化コミュニケーションの重要性も実感するようになり、非常に意義のある活動だったと思っています。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役に立っているか?

現在、名古屋で車載ネットワークシステムに関するソフトウエアを基盤 (半導体)に組み込み、車の各機能をコントロールできるようにする仕事に携わっています。大学で学んだ基本的な知識、論理的な考え方、プレゼンテーション技法などは研究開発の仕事全般で非常に役に立っています。また、職場では常にコミュニケーションを取りながら、作業を進めていきます。多様な背景を持つ人との共働作業では、大学、地域の国際交流活動や異文化理解の活動に参加し身についたコミュニケーション能力が十分活かされています。

最後にメッセージをどうぞ

由于文化的差异,生活习惯的不同,导致各种误解的产生。特别在现在"全球化"的进程中,由于文化理解的偏差,误解和摩擦将进一步加剧,甚至发展成为战争。我们应该通过相互的沟通,促进相互的文化理解,来创造一个和谐的社会。

文化の違いや生活習慣の違いが原因で、さまざまな摩擦や誤解をもたらしています。特に、これから「グローバル化」が進む社会において、異文化理解の欠如による問題は益々深刻になることが予想され、戦争にまで発展することもあります。交流・会話を通じて、異文化の壁を破り、お互いの理解を促進し、平和な世界を築いていきましょう。

私の一生の宝物



王冉

Wang Ran

国·地域:中国

大 学:九州工業大学工学部、大学院工学研究科

(2002.4 ~ 2008.3)

現 職: パナソニック株式会社

. 母校を選んだ理由

工学の好きな私は、中国の高校を卒業してから日本へ留学する道を選びました。留学先は北九州にある九州工業大学です。

九州工業大学は、工学の分野で高い技術力を持つことが昔からよく知られています。また20世紀に九工大の前身の明治専門学校で学んだ多数の中国人留学生が、本国で活躍しました。元中日友好協会会長の夏衍氏はその一例でした。私はこのように中国と深い絆を持つ九州工業大学を留学先として選びました。

. 留学中に思い出として残る出来事

大学院2年の時に母校の支援を受け、ドイツのミュンヘンで開催されたEMC国際会議に参加しました。それにより技術力と英語力を磨くことができ、ドイツの独特な文化を肌で感じたことが、とても印象に残っています。

毎年 11 月頃に九工大学園祭と留学生フェスティバルが行われます。そこで国境を越えた異文化の交流が面白くて思い出に残りました。

私の在学中、年2回の留学生見学旅行がありました。日本

の名所を見学することを通じて、日本の文化と接することが でき、良い思い出になりました。

私が日本で感じた日本の文化は深く複雑で、一言ではとて も言い表すことができません。長い歴史を持つ日本は自国の 文化を大事に守っている一方、異国の文化を速いスピードで 吸収していると私は感じました。

日本の文化には中国の文化と西洋文化の要素が見えます。 いろいろな要素が交じっていることによって、どこにもない 日本独自の文化を作り上げたと思います。

. 留学経験と現在の職務

私は留学中に日本の文化や社会を知ることで、日本人の考え方をよく理解することができました。私の留学経験は、今の仕事にとても役に立っています。

私は今、パナソニック株式会社で斜めドラム洗濯機制御技術の開発という仕事に携わっています。日本の文化や習慣をよく理解している私は、先輩社員の間に速く溶け込むことができ、仕事は順調に進んでいます。

. 母校に期待すること

これから国境を越える人と人の繋がりがもっと深まっていくと、私は確信しています。私たちの住む地球が、やがて地球村と呼ばれる時代が来るでしょう。今後もっと多くの優秀

な留学生を受け入れ、国際社会に貢献できる人材を育てて欲しいと、私は母校に期待しています。



最後にメッセージをどうぞ

在九州工业大学留学的6年中,母校教会了我很多东西。 回顾这6年留学生活,脑海里涌现出的是很多美好的回忆。 这些美好的回忆将成为我一生宝贵的财富。我非常感谢母 校的教导之恩。祝母校将来可以更加的繁荣昌盛。谢谢。 私は大学院までの6年間、九州工業大学に留学させて頂きました。振り返ると素晴らしい思い出がたくさん心に残っています。 それは間違いなく私の一生の宝物になります。今でも母校に感謝する気持ちは胸に一杯です。これからの母校の益々の発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

第2章

信頼・尊敬できるよき指導者との出会い



ザンコフ・ディミタール

Zankov, Dimitar Petrov

国・地域: ブルガリア

(2003.4 ~ 2007.3)

現 職: 日本学術振興会 外国人特別研

ザンコフ・ディミタールと申します。2002年10月にブル ガリアから日本に来ました。

1995年に母国のソフィア医科大学を卒業し、その後、病 院の内科で医師として働いていました。

2000年に友達の一人が日本での研究生としての文部科学 省奨学金を獲得しました。その後、その奨学金の条件や機会 が私にピッタリであると気が付き、応募することを決めまし た。応募手続きは大変長く、約1年でした。手続き内容は、 一般常識試験、ブルガリアの教授に評価される研究活動計画、 奨学生候補者を受け入れてくださるスーパーバイザーを見つ けるためにいくつかの日本の大学に手紙を書くこと、そして、 最後に日本・ブルガリア委員会による面接がありました。最 初の年、面接で落ちてしまい、とても落胆しましたが、二度 目には合格しました。

応募手続きの間にいくつかの日本の大学に手紙を書き、東 京、京都、新潟の3大学から受け入れの手紙をいただきまし た。京都大学については堀江稔教授と連絡のやり取りをさせ ていただきました。堀江先生は大変親切で、私の応募をいろ いろと助けてくださいました。ついにどこに行くかを選ぶ機

会を得ることができ、京都大学を選びました。

京都大学で研究生として6カ月が過ぎたころ、堀江先生が 滋賀医科大学に移られることになり、先生は私に一緒につい てこないかとおっしゃってくださいました。もし、一緒に行 かなければ、私は信頼のできるよき指導者を失うことになり ますので、躊躇することなく同意しました。滋賀医科大学で は大学院博士課程の入学試験に合格し、4年間の勉強を始め ました。大学院では生理学講座の松浦博教授とも密接な共同 研究をしました。堀江先生と松浦先生の監督の下で心臓電気 生理学の分野での知識を広げ、いくつかの有名な学術誌にも 何とか論文を発表することもでき、この期間は私にとって本 当に有意義なものとなりました。

滋賀医科大学での私の忘れられない日のひとつは、最優秀 論文に与えられる学長賞を受賞した 2007 年 3 月 26 日の卒業 式の日です。博士課程を修了後、日本学術振興会の博士研究 員に応募し、そしてそれが私の現在の身分であり、滋賀医科 大学で堀江先生の監督の下でまた研究をしています。

研究活動以外のことから離れた話をしますと、日本は違う 大陸に住んでいる人にとっては大変興味深いです。生活様式 や文化、日本人の伝統的な行動様式は最初は理解しがたいも のです。しかし、自己発達には文化交流は重要なのです。

滋賀医科大学への私の希望は、学生のためにいっそうより 良い条件を整え、提供していただくことです。

最後にメッセージをどうぞ

Лознаването и общуването между различните култури обогатява човека.

異文化相互交流は経験を豊かにしてくれます。

無限の可能性を秘めて



鄭 希 Zhang Yi

国·地域:中国

大 学:信州大学経済学部

(2002.4 ~ 2006.3)

現 職:三菱商事株式会社 金属グループ鉄

鋼製品本部 部品事業開発ユニット

母校を留学先に選んだ理由は?

勉強以外にも、日常生活や、日本市民との交流や、旅行など、さまざまな面から留学生の生活をサポートしていただけると先輩に教えてもらったからです。生活の面において、奨学金、授業料の免除、国際交流会館などが充実しています。日本市民との交流において、ふれあいパーティーや、多国籍料理大会や、松本ボンボンなど非常に豊富です(私は卒業した後、東京の大学院に進学しましたが、東京の大学に比べ、信州大学時代は日本人と交流する機会が圧倒的に多かったと強く感じました。その他、自然が豊富な長野県では、スキー場、温泉、山、高原など、留学生にとって最高の環境です。

留学中、特に思い出として残る出来事は?

教授が授業以外の個人指導にも熱心です。経済学部の西村 先生は私の人生の恩人です。私は3年後期から大学院に進学 すると決心しました。大学院の選び方や、参考資料や、情報 収集など、西村先生に何でも親切に教えていただきました。 一番重要な研究計画書は、日本語のミスからロジカル的に不 適切な箇所まで、十数回も訂正していただきました。お陰様 で、私は第一希望を含め、5つの大学院全て合格しました。 言葉では先生に対する感謝の気持ちを表現できませんが、こ の結果は私の最大の恩返しだと思います。誠に有難う御座い ました。

日本の文化に対する印象は?

現代と伝統が自然に融合しているところが一番印象的です。クリスマスやハロウィンなど西洋の祭り、渋谷・原宿のファッション、大量の外来語など積極的に外来文化を導入する一方、伝統的な祭り、着物、歌舞伎、宗教、自然観もしっかり守っています。

現在、どのような職務につき、留学経験がどのように役立っていますか?

今は三菱商事金属グループで勤務しており、豪州の事業投資先を管理しています。中国人とはいえ、業務は日本語と英語しか使いません。又、言葉より日本とオーストラリアの文化、ビジネスマナー、習慣に対する理解と尊重の気持ちが大切です。これは専門知識ではなく、信州大学時代に日本人や、他の国の留学生とたくさん交流したことを通じて学んだことです。

母校に期待することは何ですか?

- 1.海外の大学との交換留学制度を更に充実させていただきたいです。
- 2.図書館は24時間オープンにしていただきたいです。

最後にメッセージをどうぞ

在海外留学有无限的可能性。不要因为别人的阻扰,环境的不利而放弃自己的目标。只有想不到的目标,没有做不到的目标。认定自己的理想,然后要做的就是不懈的努力。即使失败也无所谓,重要的是人生的旅途中,曾经拼尽全力的拼搏过。既然来到这世上,与其平庸的消沉,不如热情的燃烧!

海外留学には無限の可能性があります。他人の否定や、環境の不利によって自分の目標をあきらめるな!考えたことのない目標はあっても、実現できない目標はありません。自分の理想を決め、後で必要なのは努力だけです。失敗しても大丈夫。重要なのは、人生で全力を尽くし、頑張ったことです。せっかく世の中に生まれたのだから、平々凡々と消えていくより熱く燃えたほうが良いのだ!

第 3 章

留学生のための特色ある講義や教育プログラム、 事業(地域との交流事業等)、フォローアップ等

日本語教育プログラム・支援事業
日本文化理解
多文化理解
短期留学プログラム
ー 共同教育プログラム
ヤング・リーダーズ・プログラム
国費外国人留学生(研究留学生)の
優先配置を行う特別プログラム
「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
アジア人財資金構想
ーーー 他機関との連携プログラム
地域との交流事業
就職支援事業
留学生同窓会

日本語教育プログラム・支援事業

全学日本語プログラム【東京外国語大学】

本プログラムは、東京外国語大学における留学生(日本語を中心とした予備教育を受ける国費研究留学生、交換留学生及び日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生や私費研究生等)が日本語を集中的に学ぶプログラムです。毎年50ヵ国以上、200名前後の留学生が本プログラムで学んでいます。本プログラムは、4月(春学期)と10月(秋学期)に始まり、各期15週を単位として開講されています。学習者の日本語力や学習ニーズの多様性に対応できるよう「入門」レベルから「超級」レベルまでの8段階のコースを設け、学習者はそれぞれのニーズに従い、自分にあったレベルで、週1コマから週10コマま

での授業を履修することができます。



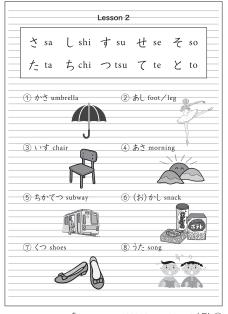
日本語かな学習支援プログラム 一渡日前の日本語学習一【福井大学】

福井大学留学生センターで受入れている短期留学プログラム及び日本語研修コース(教員研修留学生・研究留学生)の留学生は、入門期の学習者が中心です。そのため、渡日後の日本語学習を効率的に進めるため、渡日前の留学予定者と連絡をとり、かなの事前学習を支援しています。具体的な支援内容は以下の2点です。

まず、渡日2ヵ月前に留学予定者にかな学習用教材を送付し、自習を奨励します。送付する教材は、留学生センターで作成した専用教材「Japanese KANA workbook」です。

次に、留学生センターホームページに自習用サイト(Self-Study Program)を設け、数種類のかな自習用CALL(Computer Assisted Language Learning)教材を掲載し、それらを使用して自国でのかな学習を奨励しています。サイトの使用は自由であり、海外でも使用できるよう配慮しています。CALL教材は、2005年度に同大学において作成した「ウェブを利用した日本語の文字・語彙学習用ソフト」です。このような事前学習の奨励により、渡日後の学習をスムーズに開始することが可能となりました。

(Self-Study Program: http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/kyoiku/jishu.html)



「Japanese KANA workbook」例 ①



「Japanese KANA workbook」例 ②

日本語教育プログラム・支援事業

日本法教育研究センター【名古屋大学】

名古屋大学は、市場経済への移行など経済的・社会的改革を進めるアジア諸国に対する法整備支援事業の一つとして、2005年9月、ウズベキスタンのタシケント国立法科大学に「日本法教育研究センター」を開設しました。従来の日本法教育は、学生と教員双方が使える言語として英語を使用していましたが、英語で書かれた日本法の文献が不足している上、法改正がされても英訳には時間がかかるなどの問題があり、また、真に法律を理解するには、背景にある社会、文化、言語を理解する必要があるため、現地に「日本語による日本法教育」を行う同センターを設置しました。

センターでは日本語と日本法の教育を4~5年間かけて行い、センターの課程を修了した者の中から名古屋大学大学院法学研究科への留学生を優先的に選抜し、日本法に秀でた研究者を育成しています。

その後、モンゴル国立大学、ハノイ法科大学(ベトナム)、カンボジア王立 法経大学にもセンターを設立しています。



日本法教育研究センター(カンボジア) 開所式[2008年10月]

愛媛大学日本語教育プログラム【愛媛大学】

愛媛大学では、留学生が1日も早く大学や地域での生活に慣れ、留学期間にできるだけ多くの日本人と接触することを通して、有意義な留学生活を送ってもらえるよう、さまざまな支援を行っています。例えば、入学直後の2週間で行うサバイバルコース。ここでは、生活上必要最低限の日本語の学習機会を提供するとともに、生活に不可欠な情報(対人関係構築のための情報、湿気・防虫対策など)を全新入留学生に対し提供しています。また、このコースを含む日本語教育プログラムの授業には、J-supportと呼ばれる日本人が学習補助員として参加し、日本語学習の支援を行っています。J-supportには同大学の学生だけでなく、

学外者も登録でき、2004年の開始以来、登録者数は徐々に増えつつあります。今では、留学生にとって学習上だけでなく、精神的な支えにもなる重要な存在になっています。さらに、年に2回、教育プログラムの一環としてホームステイを行っています。この行事は、松山とは違う愛媛の良さを知ってもらうため、留学生があまり訪れる機会がないと思われる県内のさまざまな地域で行い、これまでに8ヵ所で実施しました。県下全域にわたって、留学生や留学生の母国の理解者を増やすよい機会ともなっています。



サバイバルコースの学習風景



J-support支援

日本文化理解

国際交流科目「津軽近代文化史」、「津軽の工芸」「弘前大学」

弘前大学の短期プログラムに参加する留学生の多くは到着するまで津軽地域についてほとんど知りません。しかしその後、この地域の文化との出会いを通して充実した留学生活を送っている学生が多くいます。この出会いに大きな役割を果たしているのは「津軽近代文化史」と「津軽の工芸」と題した国際交流科目です。国際交流科目は本来英語で行われる科目ですが、受講生の半数をアジアの学生が占めるため、

授業の様子(ねぷた絵作成)

易しい日本語と英語の二カ国語で進めています。このバイリンガル授業は英語圏の学生からも好評を得ています。これは日本語のヒアリング能力が鍛えられるのと同時に内容を英語で確認できるためです。留学生の多くが到着する後期は弘前城や岩木山神社への見学や津軽三味

線の演奏の体験を挟みながら、専門家による歴史や文化の同時通訳付の講義を行います。前期は同様のスタイルで津軽の工芸について学びます。この授業のためのテキスト「日本語と英語で読む津軽学入門」が2008年に弘前大学出版会より刊行されました。



津軽学入門表紙

大学附属小学校との連携 - 「日研生特別演習」の試み- 【東京学芸大学】

日本語日本文化研修プログラムでは、必修科目として「日研生特別演習」をおいています。「日研生特別演習」では、学内、地域など身近なところから日本の文化・社会を体験し理解するとともに、諸活動を通して日本語の運用能力を身につけることを目的とし、学内外の体験的日本文化社会学習を実施しています。中でも、大学構内にある附属小金井小学校4年生との継続的交流は5年目を迎え、双方に成果をあげていま

す。この交流は、単発の学校見学ではなく、1学期間に3回同一学年、同一クラスを日研生が訪れ、留学生からの自国紹介・小学生からの日本文化紹介などを通して、段階的に個と個の交流を深めていくものです。年によって、給食をともにしたり、「能」のワークショップを共同開催したり、留学生が日本の学校文化や子どもたちの言語生活を体得する場となっています。



附属小金井小学校との交流授業 ①



附属小金井小学校との交流授業 ②

日本文化理解

地域文化を通して日本を学ぶ【島根大学】

多くの留学生が来日する10月、島根(出雲)では全国の神様が集まるという「神在月」を迎えています。他県では「神無月」と呼ばれているのに、なぜここでは神在月と呼ばれているのか?ということについて了解すると、留学生の顔が輝きます。島根大学の留学生は、地域に根づくさまざまな文化を学ぶことを通じて、広く日本を学ぶことが可能です。そのうちの一つ、「石見神楽(いわみかくら)」見学研修は来日後まもなく実施されます。神楽の歴史や石見について、郷土資料を活用しながら予習を行い、当

日は山中の神社で、手を伸ばせば触れられそうな距離から神楽の舞を 鑑賞します。神楽を心から愛し、継承している老若男女の方々との温か い交流も、日本へ来たばかりの留学生の緊張した心を和らげてくれます。 島根には日本の文化を学習する格好の素材が溢れています。今後、そ れらを留学生教育に大いに活用させていただきながら、学生と地域の 人々との交流も併せて発展させていきます。



衣装の重さを実感



神楽面の歴史的な変遷を学ぶ

多文化理解

留学生・日本人学生に対する異文化理解教育【千葉大学】

文化的、言語的背景の異なる者同士がいろいろなレベルで頻繁に接触する現代社会においては、複眼的、相対的な思考力を身につけることは、何人(なにじん)であろうと、どこに住もうと今後ますます重要になっていきます。

千葉大学では、「教養展開科目(国際性を高める)」という正規授業の中で、留学生と日本人学生の相互理解を促進する機会が既に用意されています。この科目は、国際社会の中での問題解決能力や対処能力を

養うことをねらいとしており、他文化・他言語との関わりの中で自分の文化 や言語を相対化し、客観的に見つめなおすことを目的としています。

例えば、「隣人を知る」では、日本人学生と留学生が異なった文化・行動様式を有することを理解するだけに留まらずに、直面した相違や齟齬を調整し、折り合いをつけ、問題解決する態度を養成します。

また、「留学生支援入門」では、異文化理解および日本語教育法等の基礎的な知識・能力を有したチューターを育成します。



はじめての書道に笑顔の留学生たち



地域の方々と一緒に七夕に願いを

留学生のための特色ある講義や教育プログラム、事業(地域との交流事業等)、フォローアップ等

短期留学プログラム

北海道大学短期留学プログラム (Hokkaido University Short-Term Exchange Program) 【北海道大学】

HUSTEPは、協定大学からの交換留学生に学習機会を提供する "Junior Year Abroad"タイプのプログラムです。受入れ期間は毎年10 月から翌年8月までの11カ月間であり、受入れられた留学生は、人文社 会・環境・科学技術の分野に渡る多様性に富んだ授業科目及び日本 語授業を履修します。留学生は各学部に配置されてそれぞれの専門 分野に応じた指導教員が付き、学生によっては指導教員のもとで自主 的な研究を行います。さらに学期の途中には、琴・華道・書道・合気道・

坐禅といった日本文化に触れる時間も設けています。協定大学からの 応募者数は毎年増えており、2008年10月期は、北米・アジア・欧州の9 カ国24大学から38名を受入れました。学生は、日本人学生はもちろんの こと各国から集まった留学生と一緒に勉強することで、互いに研鑽し合 い交流を深めています。このプログラムで得たスキルや経験が、各学生 の帰国後の進路に役立てられることが期待されています。



「Power of Design」見学授業風景



文化活動(華道)

個別セミナー「世界の中の日本」「横浜国立大学」

短期留学国際プログラム(JOY)では、2007年度より以前選択科目で あった「個別研究」を、グループ・ワークをコアとしたセミナー「世界の中の 日本」に再編成し、プログラムの必修科目にしています。このセミナーでは 学生が各自設定した問題について個別レポート(場合によってはグルー プ・レポート)をまとめます。問題を設定するにあたっての2つのルールは、 1.「日本」に関連するテーマであること。2.国際的(交流または比較)観点 を含むことです。プログラムの申請書にプロジェクト・プロポーザルを課し、 渡日後、テーマの近い学生同志でグループ編成を行っています。さまざ

ま知識・問題意識をもった留学生がお互いに刺激しあいながらプロジェ クトを深めていく「共育」の場となっています。2008年度後期は、以下の グループを編成し、プロジェクトを開始しています: Food Wavs: Labor. Leisure, Subculture; Culture: Comparative and Interactive Perspectives; Business and Technology; International and Transnational Relations; Sports; Ecology and Demography.



学期末発表会



短期留学プログラム

サマープログラム(夏期集中講座)【名古屋大学】

名古屋大学工学部及び大学院工学研究科は、同大学の学術交流協定を結んでいる海外の有力大学から学生を募集し、同大学の学生とともに、英語により「最新先端自動車工学」についての集中講義を受けるサマープログラムを開講しています。本プログラムの最大の特徴は、東海地区の基幹産業である自動車産業や関連企業の協力のもと、企業の先端技術者や研究者、同大学の教員が共同で、先端技術や課題について講義を行うことです。また、講義だけでなく、海外の学生と

同大学の学生がグループで取り組む課題研究やその発表会、企業や研究所の施設見学など、さまざまなカリキュラムが用意されています。6週間という短期間とはいえ、海外の学生にとっては、日本の得意とする専門分野の勉学を通じて日本への関心を高め、同大学の学生にとっては、専門分野の勉学と合わせて、英語力の向上と国際的視野を拡げることに役立っています。



ヤマハ発動機(株)での見学会

「共同教育プログラム」は、日本の大学が海外の大学との協定に基づいて、共同・連携して教育プログラムを策定し、両大学 において教育及び研究指導を行うプログラムです。

学生が派遣元と受入れ先の両大学で教育・研究指導を受けることによって、将来、国際舞台において重要な役割を担う人 材を育成します。また、教育・研究指導を受けた複数の大学から学位を取得することも可能です。

ダブルディグリー(共同教育)・プログラム【東北大学】

東北大学とダブルディグリー(共同教育)・プログラムに関する協定を 締結している大学(現状では、フランスの国立中央理工科学校[Ecole Centrale] 5校と国立応用科学院リヨン校[INSA-Lyon]、中国の清華大 学)との間で相互に学生を派遣し、正規学生として修士レベルの教育・ 研究指導を行うプログラムです。本プログラムでは、語学の予備教育も 行うこととしています。

課程修了要件を満たし、修士論文の審査に合格した者に、修士及

び修士相当の学位が授与されます。

本プログラムの特色は、協定に基づいて学生が派遣元と受入れ先

から共同で教育及び研究 指導を受けることによって、 将来、国際舞台において重 要な役割を担う人材の育 成を目指すことにあります。



清華大学の東工大学位記授与式

清華大学大学院合同プログラム【東京工業大学】

東京工業大学と中国の清華大学とが協定を結んで、両大学の学 生が双方の大学に在籍し、互いに大学院生を派遣し、一定期間、 相手大学で教育・研究指導を受けることにより、両大学の学位を取 得するという、大学院レベルでは、我が国で最初のデュアル・ディグ リープログラムです。(博士後期課程については、両大学の指導教 員から共同指導を受け、どちらかの大学から学位を取得します。)

現在、ナノテクノロジー コース・バイオコース・社会 理工学コースが開講され ています。



入学式後の記念撮影

国際連携教育による日本式ものづくりを体得した指導的技術者・研究者の養成【長岡技術科学大学】

長岡技術科学大学は、VOS(Vitality 活力、Originality独創力、 Services社会奉仕〕の精神をモットーとし、国際連携教育においては、 特に環太平洋地域の国々を対象とした日本式工学教育によって、日本 の国、言葉、文化を理解し、日本の「ものづくり」の基本的考え方をマス ターした指導的技術者・研究者の養成を目指しています。この目的のた

めに、ベトナム(ハノイ工科大学、ホーチミ ン市工科大学、ダナン大学)、中国(鄭州 大学)、メキシコ(モンテレー大学、ヌエボ レオン自治大学)において、学部の前半 教育と徹底した日本語教育を現地で行 い、後半の専門教育は長岡技術科学 大学(コンソーシアム大学を含む)で他 の日本人の学生とともに日本語での講 義を受け、学位を取得するツイニングプ ログラム(ダブルディグリー)を行っていま す。6年前にハノイ工科大学から開始し、 既に3期生まで学位を取得させています。 さらに、同じ考え方に基づき、日本(同大学)、メキシコ(シウダーフアレス 大学、グアナファト大学、ミチオカン大学)、アメリカ(テキサス大学・エルパ ソ校)による3国協働技術者養成プログラム(大学院ダブルディグリー)に 着手しています。このような国際連携の基本的構想により、現在、全学生 数に占める留学生の割合は1割程度に達しています。

ツイニング・プログラムとは?

諸外国の優秀な学生を対象に2年間の日本留学期間で効果的な工学教育を行う国立大学初の試み

ツイニング・プログラムの基本形態

春入学 ▼



ツイニング・プログラムの基本形態

複数学位認定制度(Double Degree Special Program、DDP)【静岡大学】

大学の国際化が強く求められる今日、静岡大学では、これまでの欧州およびアジアの有力大学との交流(2002年からの国際会議の開催など)や、特に博士課程教育における国際化への取り組み(国費留学生優先配置、21世紀COEプログラムなど)を通じて、優れた能力を有する外国人留学生の増加と日本人学生の国際感覚の醸成を促してきた実績がありますが、これらを基盤に、2005年より博士課程における複数学位認定制度(DDP)に取り組んでいます。

これは、学生(DDP学生)が自校と相手校に同時に在籍し、両大学の指導教員から共同指導を受けて、最終的に両大学の博士の学位を取得するものです。学生は、書類審査とインターネット・インタビューでの面接試験により選抜試験を合格したのち、両大学の指導教員とともに念入りに検討された教育研究計画に従って、教育・研究を進めます。両大学の指導教員は、学生が毎月提出するMonthly Reportをもとに情報を共有しつつ、緊密に連絡を取り合って共同指導・共同研究を進めています。博士号の学位は、それぞれの大学に博士論文を提出して審査を受けます。2006年度よりワルシャワ工科大

学から学生を受入れたのを初めとし、2008年度にはルーマニア、ベラルーシからもDDP学生を受入れているほか、現在、ハンガリーやドイツの大学との間でも協議を進めています。



天津師範大学とのダブル·ディグリー制度【三重大学】

三重大学は、2006年6月に中国の天津師範大学との間で「受入派遣型」のダブル・ディグリー制度(共同学位制度)として「三重大学と天津師範大学との日本語教育コース協同教育に関する覚書」を締結しました。

同制度により、同大学が全学的にその教育や研究のノウハウを 駆使し、アジアの若者を引きつける教育プログラムを提供することは、 三重大学の将来にとっても大いに意義のあることです。

この制度の教育課程は、右表に示すとおりであり、三重大学の場合は2年次終了時に天津師範大学に留学し2年間学び、4年を経た時点で天津師範大学を卒業、学位が取得でき、その後、三重大学に戻って1年間学ぶことにより三重大学を卒業、三重大学の学位も取得できます。

制度で特徴的なことは、同大学の教員が常時2名天津師範大学に滞在し、日本語指導を行うことで、これにより日本語を学ぶ天津師範大学の学生は来日前の段階から日本語及び日本について複数の日本語ネイティブから直接学ぶことが出来ます。

ダブル・ディグリー制度



ベトナム国家大学とのデュアル大学院教育プログラム【北陸先端科学技術大学院大学】

デュアル大学院教育プログラムは、北陸先端科学技術大学院大学 (以下、JAIST)の世界最先端の科学技術とベトナム国家大学ハノイ 校(VNU-Hanoi、以下VNU)の高度な教育内容を融合させて、ベトナム の経済と科学の発展に寄与し、国際的な人材の輩出を実現することを 目的としています。

VNUで1年間の教育を受けた学生がJAISTに転入学し、一定期間、 先端科学を修得した学生に対し、JAISTの修士、又は博士の学位を 授与します。

本プロジェクトは、ベトナム政府人材育成計画による奨学金の支援を受け、また、文部科学省からの特別教育研究経費「国際デュアル大学院教育の推進」(2007年度~2009年度)により実施しています。

2007年10月に第1期生として、VNUのマスターコースに9名、ドクター

コースに5名の学生が入学し、1年間ベトナムで基礎教育を受けた後、2008年10月にJAISTの博士前期課程へ7名、博士後期課程へ5名が転入学しました。

現在は、マテリアルサイエンス分野のみプログラムを実施していますが、今後は、情報科学分野への拡大やホーチミン地区へ拡大を予定しています。

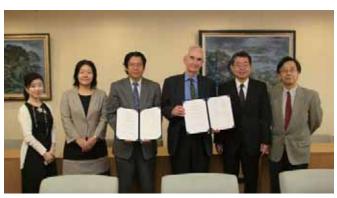


ベトナム国家大学ハノイ校での入学式(2008年10月)

三極連携による複数学位共同教育プログラム【神戸大学】

神戸大学大学院国際協力研究科は、海外の大学との間に「知のネットワーク」を形成し、将来において国際協力分野をリードする傑出した専門的人材養成のための共同教育プログラムの構築を目指しています。 具体的には、欧米及びアジア各国との間に三極連携の枠組みを形成し、修士課程におけるダブルディグリー(複数学位)及び博士課程におけるアジア研究の共同教育プログラム(サンドイッチ・プログラム)を開発しています。

2008年7月16日、英国イーストアングリア大学開発学部・研究科と研究 科間の大学院教育連携に関する協定に調印しました。また9月25日に



英国イーストアングリア大学開発学部・研究科との調印

は、インドネシアの3大学との協定で来日した留学生7名の学位授与式が 行われました。

今後も、ヨーロッパ及び北米、そしてアジア各国の大学院との連携に向けた交渉を引き続き行い、具体的な環境整備を行います。また、連携交渉先の大学院から担当教員を招へいし、プログラム検討会議などの実施も予定しています。



アジアの優れた人材を育成する取り組み【岡山大学】

岡山大学は、2008年9月にベトナム国フエ大学にて、「岡山大学・フエ大学大学院特別コース | 2期生8名の入学式を行いました。

同大学は、近年急速な経済発展を遂げているベトナム国に海外事務所を設け、アジアの人材育成のための活動を行っています。その一つとしてベトナム人を対象とした環境及び農学分野における優秀な研究者の養成と高度専門職業人の育成を目的にしたコースを2007年度に設置しました。

本コースは入学後1年6ヵ月間に共同カリキュラムと日本語教育を含む予備教育をフエ大学で行い、残りの1年間は同大学の博士前期課程2年次に編入学し修士の学位を授与するもので、ベトナム国内から広く応募者が増えており本コースへ厚い期待が寄せられています。



第2期生の入学式(フエ大学で)



INU (International Network of Universities:国際大学ネットワーク)

ダブル・ディグリー・プログラム「地球市民と平和(Global Citizenship and Peace)」【広島大学】

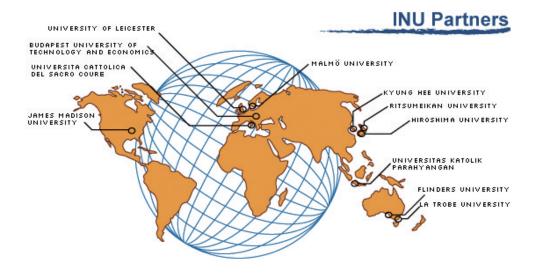
広島大学では、INUの加盟大学と共同で、「地球市民と平和」に 関するINUダブル・ディグリー・プログラムを開発・実施しています。

本プログラムは、広島大学の教育学研究科、社会科学研究科、国際協力研究科博士課程前期に在籍する大学院生を対象とし、INU海外加盟大学に最短1年間留学し、広島大学及び海外の大学それぞれから修士の学位を取得、最短2年間で二つの修士学位を取得できるプログラムです。

このプログラムの開発には、加盟11大学のうち7大学が参加して

います。各参加大学が、それぞれの強みや特色を活かした科目を英語で提供することにより、一大学が単独で提供するよりもはるかに豊かで国際的なプログラムの開発・提供が可能となっています。

現在、韓国の慶熙(キョンヒ)大学、オーストラリアのフリンダース大学との協定締結を完了し、派遣学生の募集を開始していますが、今後、他の海外加盟大学とも同様の協定締結を進めるとともに、海外からの本プログラムによる留学生受入れについても、2009年度から開始する予定です。



複数学位を与える国際連携大学院教育プログラムの創設【徳島大学】

徳島大学大学院先端技術科学教育部は、国際連携教育開発センターを開設して外国大学と連携したツイニング形式による国際連携大学院教育プログラムを推進しています。このプログラムには、中国からハルピン工業大学、大連理工大学、北京郵電大学、西安交通大学(写真〈左〉)、同済大学の5大学、韓国から慶北大学校、韓国海洋大学校の2大学、フランスからツールーズ工科大学、ニュージーランドのオークランド大学及びアメリカのフロリダアトランティック大学の計10大学が参加しています。これまでに外国連携大学から17名の留学生、徳島大学から4

外国連携大学とのDD協定調印式

名の学生が本プログラムに参加しています。

この国際連携大学院教育プログラムは、学生が最先端の工学技術教育や多面的な研究指導を受ける機会を提供し、柔軟に思考する能力や英語あるいは日本語によるプレゼンテーション能力あるいはコミュニケーション能力を習得させています。写真〈右〉は、同センターの専任教員による学生向けの留学のための英語力向上プログラムや英語基礎力向上プログラムの授業風景です。この授業を受けた学生の多くは、

TOEICの得点を向上させ外国連携大学に留学する語学能力を身につけています。また、教員向けに英語による授業研修プログラムも開講し、国際的感覚を自覚した高度専門職業人の育成に取り組んでいます。



学生向けの英語特別講義の風景

ヤング・リーダーズ・プログラム

「ヤング・リーダーズ・プログラム」は、文部科学省が実施するプログラムであり、アジア諸国等の指導者として活躍が期待される行政官、経済人等の若手指導者を、我が国の大学院等に招へいし、1年程度の短期間で学位を授与する新たな留学プログラムです。

受入れ大学として、政策研究大学院大学【行政コース・地方行政コース/政策立案者及び将来の政治的指導者の養成を目的としたプログラム】、名古屋大学【医療行政コース】、一橋大学【ビジネスコース/東洋と西洋の両方で発展した最先端のマネジメント・コンセプトに触れ、ユニバーサルな経営手法についての理解を深めるプログラム】、九州大学【法律コース/学生には、現職の裁判所判事や法務省職員なども含み、高度でグローバルな法知識・制度等を学ぶプログラム】の4つの国立大学が指定されています。

ヤング・リーダーズ・プログラム【名古屋大学】

名古屋大学大学院医学系研究科は、文部科学省の留学生プログラムであるヤング・リーダーズ・プログラムの医療行政コースにアジア諸国等から留学生を毎年10名程度受け入れ、世界の医療分野において人的ネットワークを創造できる将来のナショナル・リーダーを育成しています。本プログラムは、原則1年で修士の学位を取得するもので、講義はすべて英語で行います。英語による医療行政コースを行っているのは、日本では名古屋大学だけです。特徴的なカリキュラムとしては、医療行政に関する各分野の専門家による特別講義、インターンシップ、フィールドワーク・トリップ、海外の講師による講演があり、また、修士論文作成にも重点を置いています。現在、同コースの修了生は53名おり、全員が修士の学位を取得しています。卒業生は、出身国の保健省など医療分野を担当する省庁やWHOなどの国際機関で

高い地位についており、グローバルに活躍しています。



講義風景

国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム

「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」は、文部科学省が実施するプログラムであり、国際的に魅力のある留学生受入れプログラムを実施する大学から、当該プログラムにより受け入れる留学生の一部を国費外国人留学生(研究留学生)として優先的に採用できる制度です。各大学における留学生受入れが更に促進され、それらのプログラムが我が国の留学生受入れモデルの1つとなり、留学生受入れの意義である①諸外国との相互理解の増進と人的ネットワークの形成、②我が国の大学等の国際化、国際競争力の強化、③国際社会に対する知的貢献の増進、が図られることを目的としています。

東北大学先端理学国際コース
 【東北大学】

東北大学理学研究科では、2004年度10月から留学生のための大学院課程「先端理学国際コース(International Graduate Program for Advanced Science, IGPAS)」を設置し、大学院教育の国際化に努めています。

この博士課程前期・後期一貫制プログラムは2007年度からは文部 科学省により国費外国人留学生優先配置プログラムに採択されており、 定員20名中8名は大学推薦による国費留学生枠となっています。

すべての専攻分野・総合科目の授業は英語によって提供されていま す。さらに先端理学国際コース学生は「科学の最前線」などの総合科目 が選択必修であり、学際性涵養も狙いの一つとなっています。これらの授 業は日本人学生も履修可能であり、グローバルCOEとも連携して国際性 豊かな教育拠点を形成しています。

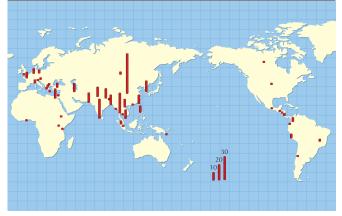


社会基盤学専攻留学生特別コース【東京大学】

東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻においては、25年前から、我が国では草分け的な留学生教育に取り組んできました。その特徴としては書類選考による渡日前の時点での合否の決定、英語による講義と論文指導、奨学金制度の完備が挙げられます。これまでに世界各国から留学生を受入れ、修士、博士課程を合わせると、600名を超える留学生が学位を取得しました。現在、毎年30名程度を受け入れ、約90名の留学生が在籍しています。

社会基盤学専攻は留学生室(FSO)を設け、広報、願書の受付、渡日の際のビザ・入国関係、宿舎の手配などにあたっています。また専攻の日本語教室では留学生が日本における日常生活に必要な日本語の教育

Cumulative Number of Oversea Students from 1982 to 2005



これまでに世界各国から受入れた留学生の分布

を行うと共に、同時期に来日した留学生同士の友人作り、ネットワーク作りのための情報交換の場を提供し、留学生の日本での日常生活及び精神衛生面を支えています。さらに、留学生歓迎会、花見大会、スポーツ大会、お茶の会などの活動を通じて日本文化への理解や日本人学生との親睦を深めています。

修士、博士を終えた留学生の多くは本国に戻り、本国の大学、民間企業、政府機関で活躍していますが、中では日本の大学、民間企業の設計・研究開発部門で活躍している人もかなりの人数になっています。留学生の日本定着を目指す政府の方針ならびに留学生のニーズに応えるために、留学生の就職活動も積極的に支援しています。



専攻における留学生のための活動

国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム

環境社会医歯学系パブリックヘルスリーダー養成特別コース【東京医科歯科大学】

本コースは、複数の国の出身者が学ぶパブリックヘルスのリーダー 養成の大学院コースとして、教育プログラムを組み立てています。研 究留学生以外にも、各国の指導的役割を担う留学生もあわせて受け 入れています。さらに、英語で行う講義、演習、実習、論文指導には、 環境社会医歯学を専攻している日本人学生も参加しており、日本人 学生と留学生の交流は、双方にとり、他では得られない場を提供して います。留学生の受け入れは、大学間協定に基づくものの他、種々の 国際交流、研究交流に基づくもの、国際機関を通じた交流に基づくも のなど、東京医科歯科大学の多彩な国際交流実績に基づく多様な チャンネルを通して学生を受け入れています。

2005年9月に最初の修了生を出して以来、修了生はいずれも公的機関、大学の指導的ポジションにつき、パブリックヘルスリーダーとして活躍するとともに、出身国と同大学との共同研究、教育連携などにおいて中核的役割を果たしています。同大学と海外の高等教育機関ならびに国際機関などとの連携を活かし、国際的に活躍するパブリックヘルスのリーダーが、数多く育つことが期待されています。



ワークショップの様子



セミナーの様子

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

『「魅力ある大学院教育」イニシアティブ』は、文部科学省が実施するプログラムであり、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な教育の取り組み(「魅力ある大学院教育」)に対し重点的な支援を行うことによって、大学院教育の実質化(教育課程の組織的展開の強化)を推進することを目的として2005年度から開始された事業です。

生命情報科学国際教育プログラム【東京医科歯科大学】

東京医科歯科大学大学院生命情報科学教育部は、複雑な疾患研究と先端的な生命科学領域を新たな融合分野として体系化し、将来の生命科学の発展と可能性を広げる「情報論的解釈による生命科学」分野の担い手となる研究者、技術者の養成をすることを目的とし、国内にとどまらず欧米先進国を含む海外から才能ある人材を我が国に吸引できるよう、2007年から10月入学による「生命情報科学国際教育プログラム」を設置しました。

本プログラムは、日本語を必要とせず、英語でコミュニケートすることができる優秀な大学院生を入学させていくものです。英語による詳細な募集要項及び願書を作成し大学のホームページ上で公開しています。海

外からの問い合わせに関しては、メールアドレスを公開し、出願、問い合わせなどに対処しています。

さらに、入学試験にいたっては出願者が海外在住のまま、インターネットなどを介して受験できる体制を整えています。

また、留学生のために英語による履修要項(シラバス)を作成し、履修 登録や授業理解に役立てています。

講義に関しても、英語で行っており、日本語による講義に出席することなく修了要件を満たすことができます。学生への各種案内も極力英語で行い、入学した後にも、勉学に、あるいは、日常生活にも滞ることが無いよう配慮をしています。

アジア人財資金構想

「アジア人財資金構想」は、アジアの相互理解と経済連携の促進に向け、文部科学省と経済産業省が2007年から実施しているものです。優秀な留学生の日本への招聘、日系企業での活躍の機会を拡大するため、産業界と大学が一体となり、留学生の募集・選抜から専門教育・日本語教育、就職活動支援までの人材育成プログラムを一貫して行います。日本とアジアの架け橋となる優秀な人材の受入れを拡大し、アジアにおける大学の人材育成、我が国大学・企業のグローバル化に貢献するものです。

国際性を備えた「先進・高度ものづくりリーダー」の育成【群馬大学】

群馬大学工学部・工学研究科と群馬県内を中心とするものづくり 企業14社は、コンソーシアムを組み、日本企業に就職を希望する優秀 なアジアからの留学生を対象に、国際性を備えた「ものづくりリーダー」 を育成するプログラムを2007年度から実施しています。現在15名が 国費外国人留学生に採用され、特別プログラムを受講しています。

同大学では、地元の企業と連携し、産学で開発した専門教育(15科目)や総合的な日本語力のアップを図るための習熟度別の実践的なビジネス日本語(5科目)・日本ビジネス教育(15科目)、インターンシップへの参加や就職支援講座(9科目)などのほか、日本企業に就職するためのサポート体制も用意しており、第1期生は既に希望の就職先に内定が決まっています。

このように大学と企業による協働プログラムによって、企業が求める 高度な専門知識やマネージメント能力を備え、日本のものづくり企業に おいて技術及び経営の両面で指導的な役割を担う留学生を育成することが目標であり、日本企業のグローバル展開に貢献できるよう取り組んでいます。



群馬大学留学生就職活動体験報告会(国際教育・研究センター桐生分室)

エネルギー・環境技術人財育成パートナーシッププログラム【九州大学】

九州大学では、国の支援を受け、2008年10月から工学府に設置した専門プログラムにおいて、我が国企業に就職意志のある能力・意欲の高いアジア留学生を対象に、専攻分野のみならずエネルギー・環境を意識したものづくりができ、企業の即戦力となる人材を育成し、我が国産業界への100%就職を目指すプログラムを推進しています。

本プログラムは、同大学大学院に留学するアジア人学生を対象と しており、成績や我が国企業への就職意志等を勘案し、奨学金支給 の対象者(国費留学生)とすることとしています。

【プログラム概要】

「エネルギー・環境技術人財育成パートナーシッププログラム」 ○「産業工学プログラム」を大学院特別コースとして創設(受講期間は2カ年)

我が国産業界の中で活躍できる語学力、専門基礎能力、ビジネスス キル並びにエネルギー環境に係る高度な専門知識を持った優秀な 留学生を育成。特に、産業界と連携し設計演習や実験計測等を取り 入れた実践的なカリキュラムを提供。 ○留学生の受入れから我が国企業への就職まで、切れ目のない一 貫した支援プログラム

留学生専用の企業・就職情報の提供を始め、留学生のニーズを踏まえたインターンシップ事業を通じて、我が国産業界への100%就職を目指す。



エネルギー・環境技術人財育成パートナーシッププログラム

他機関との連携プログラム

理研連携国際スクール【東京工業大学】

海外、特に東アジアから博士号取得を目指す才能豊かな学生を受入れ,東京工業大学と独立行政法人理化学研究所が連携・協力して,教育・研究の機会を提供し,同大学が学位を授与するプログラムです。

海外の留学生が、博士号取得後、将来、東工大・理研のみならず 我が国の教育・研究機関の人的ネットワークの核となり、さらに、我が 国の教育・研究機関の国際化の進展や科学技術水準の高度化に 貢献できるような人材となるよう育成することを目的としています。

JICAとの連携による修士学位授与を目的とした英語プログラム 「持続的農村開発コース」【筑波大学】

農村開発では人口増加を支える食料生産、環境・健康問題とも強く関る諸問題を相互で考え、グローバライゼーションと巨大化が進む欧米型農業経済システムに依存しない共生社会を創成することが必須であり、新しい地域固有技術の開発を担う上級技術指導者の育成が望まれています。一方、日本の市民と政府が共同提案した「持続可能な開発のための教育の10年」(Education for Sustainable Development: ESD)が2005年から世界で始動しています。特に持続的発展のための農学教育が急務である現状から、2006年度にESDの理念に基づいた「持続的農村開発コース」を設置しました。本コースは、TV会議よる選抜試験、2学期(8月)入学、e-Learningによる遠隔教育の受講、新規9科目(選択科目)の学習、協定校タイ・カセサート大学でのインターンシップへの参加など濃密なカリキュラムが特徴です。また、筑波大学発行の「Journal of Developments in

Sustainable Agriculture」(オンラインジャーナル)への搭載論文をもって修士号が授与される早期修了コースです。



持続的農村開発コース①



持続的農村開発コース②



持続的農村開発コース③

地域との交流事業「International "C" Hour」 【北見工業大学】

北見工業大学国際交流センターでは、2005年1月から新しい国際交流の形として、「どなたでも気楽に参加できる異文化理解を深める小さな集いInternational "C" Hour」を毎月1回開催しています。月に1度お茶とお菓子を楽しみながら行われる会は、2008年12月で4年を迎えました。"C"の意味はConversation(会話)、Chatting(おしゃべり)、Culture(文化)、Cold drinks and Cookies(冷たい飲み物とお菓子)などです。

プログラムは、前半は、母国紹介、日本の文化・遊び、音楽演奏など

のあらかじめ設定したテーマに沿って行い、後半はお茶とお菓子を楽 しみながら国際交流・異文化理解を図るという形を続けています。時 には市民の方々が、手作りのお菓子や果物などを持ち寄っていただく こともあり、大変和やかな楽しい集いとなっています。

このプログラムには、参加しやすいこともあり、いつも沢山の方が参加する状況が続いており、同大学と地域との交流の場として定着しています。



International "C" Hour(演奏)の様子



International "C" Hour(絵画)の様子

FACEプログラム【東京大学】

東京大学留学生センターでは、日本人学生や教職員、近隣の市民などがボランティアで参加するFACEプログラムを実施しています。ボランティアと留学生、外国人研究員及びその家族を1対1で組み合わせ、交流するプログラムです。交流に際しては、日本語を使用することを原則としており、友人として交流したり、日本語や日常生活上の質問に答えたり、ボランティアの家族の一員として交流したりします。活動の多くは、留学生センター交流談話室などの学内のラウンジやボランティアの家庭などを使って行われます。

1997年秋に始まった本プログラムは、すでに12年目を迎えますが、登録ボランティアは千人を超え、毎年250組前後の新規組み合わせを行います。交流に期限を設けておらず、すでに卒業した留学生なども多数

に上りますが、帰国後もお互いに連絡を取り合い、再来日の際にはホームステイしたなど報告もあり、留学生と日本との絆を深める上でも役に立つプログラムとなっています。



留学生センター交流談話室の様子

地域と連携した国際プログラム【東京医科歯科大学】

東京医科歯科大学留学生センターでは、地域貢献、国際理解教育および支援のため地域の小、中学校などと連携し、留学生と地域日本人児童・生徒との交流を定期的に行っています。この交流を通して、留学生は通常知る機会のない日本の学校教育に触れ、自国について児童・生徒に話すことにより日本語コミュニケーション能力を磨くことができます。また、日本人児童・生徒は、外国人留学生と親しく交流することにより、知らなかった外国のことを直接外国人から学び、自然な国際適応力、国際理解能力をつけていくことができます。現在以下の学校との交流を実施中です。

- ●小学校「国際理解教育」授業への講師・留学生の派遣
- ②中学校「外国文化・国際理解・国際交流」授業への 講師・留学生の派遣

現在の取り組み状況

- ●小学校「国際理解教育」授業への講師・留学生の派遣
- ◆千葉県市川市立真間小学校
- ◆小学生100名
- ◆1998年より実施(年1回)

事業の内容

地域貢献の一環として、同大学教養部キャンパスのある市川市の 真間小学校を毎年訪問しています。留学生が講師となり、6年生を対 象に、外国の文化や習慣、地理、言語、遊びなどを紹介し、小学生と 親睦を図っています。日本語学習中の留学生にとっては、言葉の練習 と合わせて給食を一緒に食べたり校庭で遊ぶなど、日本の学校生活 を知り子供と語り合う貴重な体験となっており、子供たちも留学生と交



小学校「国際理解教育」の授業風景①

流することで年齢の早いうちから国際的視野を育むよい経験となって います。

事業の成果・評価

本事業は、1998年の第1回実施以降真間小学校と留学生センターの間で恒例行事化し、毎年1回訪問を行っています。年によっては小学校側で海外経験のある生徒の祖父が参加するなど、市民の参加も含む活気のある交流となっています。

- ②中学校「外国文化・国際理解・国際交流」授業への講師・留学生 の派遣
- ◆千代田区立九段中等教育学校
- ◆中学1年生50名
- ◆2008年2月1日

当該中学校の示してきた3つの目的:他の国の歴史を調べることにより、日本との違いを知る、交流を通して、日本以外の国の文化に触れる機会を作る、諸外国について興味や関心を持つ機会にする、に沿う形で支援を行いました。留学生の方は自国の紹介をOHPや実物を使って行い、活発な質問が中学生から出されました。

事業の成果・評価

普段外国人とあまり交流のない中学生が、臆することなく留学生にたくさんの質問を発し、留学生もつたない日本語で一生懸命応えていました。中学生たちからはその後礼状が届きましたが、外国人が一生懸命日本語を学ぶ様子を見て、自分たちもしっかり英語を勉強したいと感じた、という積極的な感想が述べられていました。今後も継続する予定です。



小学校[国際理解教育]の授業風景②

国際理解プログラム [PICNIK] (Program for InterCultural Nexus in Kyoto) 【京都大学】

京都大学では地域貢献の一環として、同大学の国際交流センターが京都市の国際交流協会や教育委員会等と協力し、国際理解プログラムに取り組んでいます。これは、本学の留学生・外国人研究者を地域の小・中学校へ派遣して相互交流を図るプログラムです。

この取り組みは、地域の学校の要望に応えつつも、単なる留学生の 「派遣」サービスではなく、相互の多文化理解を深めるプログラムを目 指しています。



PICNIKでの相互交流

派遣先学校の子どもたちは、事前に留学生の出身国・地域について調べ学習をすることで留学生に対する関心を高め、実際に交流することで新たな発見を体験します。また留学生が流暢に日本語を話す

ことや、文化や生活習慣が大きく 異なる日本で勉強している姿を 知ることは、子どもたちにとっても 大きな刺激となっています。

例えば、モンゴルの馬頭琴などの伝統楽器や、韓国・朝鮮のチマ・チョゴリなどの民族衣装、イギリス発祥のスポーツ、クリケットの用具など、子どもたちが手にとって遊んだり、実際に着てみたりすることで、それぞれの文化に対してより理解を深めることに繋がっています。



馬頭琴

地域文化交流事業【奈良女子大学】

奈良地域における留学生の受入れの促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するため、県内の高等教育機関、地方公共団体、経済団体及び留学生支援団体で構成する奈良地域留学生交流推進会議(事務局: 奈良女子大学)がおかれています。

古都奈良はシルクロードの東の終着点であることから各種の文化 遺産のみならず自然環境にも大変恵まれ、この奈良の地を少しでも 知ってもらうために1994年度から毎年1回、県内市町村等の協力を

2007年金魚すくい体験(大和郡山市)

得た事業を実施しています。

これまで、聖徳太子ゆかりの「法隆寺・中宮寺」(斑鳩町)、中大兄皇子と藤原鎌足が大化改新の談合を行ったとされる「談山神社」(桜井市)、三角縁神獣鏡が発掘された「黒塚古墳」(天理市)、郡山城での茶道体験と金魚すくい(大和郡山市)、世界最大の木造建築を誇る東大寺や春日大社など、豊かな文化遺産等を巡り、地域のボランティアの協力も得て留学生に紹介しています。



2008年東大寺大仏殿拝観(奈良市)

大家さんとの懇親会【山口大学】

山口大学では、大学周辺のアパート、下宿先の大家さんと留学生の懇親会を開催しました。多くの留学生が留学生活に満足している一方で、コミュニケーションの問題や習慣など違いからアパート探しに苦労したり、大家さんとの問題を抱える留学生も少なくありません。懇親会では、大家さんと留学生に会話を楽しんでもらい、大家さんには

留学生の母国の文化などについて理解していただくことができ、留学生にも日本の生活のルールを守ろうという意識を持たせることができました。留学生30万人計画による留学生増加に向け、課題となる留学生宿舎の確保には地域の大家さんのご協力が何より大切です。



大家さんとの会話を楽しむ留学生



大家さんとの記念撮影

多国籍合宿【鹿児島大学】

鹿児島大学留学生センターでは、留学生、日本人学生(他大学含む)、県内の地域住民など約400名が参加する「多国籍合宿」を毎年1泊2日で開催しています。本事業は、多文化共生・環境問題・宗教・文化・民族などのテーマについて、討論主体の参加型ワークショップスタイルで行っているもので、イベントを総括する全員参加の「総合討論」は、多言語で行われ、多国籍合宿の意義や今後の地域交流のあり方など率直な提言がなされています。

本事業では、文化や宗教、価値観の異なるボランティアの留学生と 日本人のスタッフが、それぞれの知恵を出し合い、高い問題意識を共 有しながら、具体的な作業を進めているなど、その過程における教育 効果が大変大きく、また、単発的な一過性のイベントにとどまらず、その 後の組織的、個人的なつながりの輪へと広がり、留学生・日本人学生 と地域社会の理解と結びつきが深まっています。



総合討論の様子



分科会「フェアトレード」の様子

就職支援事業

岩手県外国人留学生就職支援協議会における就職支援活動【岩手大学】

岩手大学は、日本貿易振興機構盛岡貿易情報センター及び岩手県とともに岩手県外国人留学生就職支援協議会を設立し、さまざまな留学生の就職支援を行っています。具体的には、就職支援フォーラムとして、留学生を実際に雇用している企業からの職業事例の紹介、県内企業に就職した留学生からの体験談プレゼンテーションの実施、企業と留学生の交流会などを開催しているほか、就職支援講座として、自己分析、エントリーシートや履歴書の書き方、敬語の使い方や面接のマナー、模擬面接などを実施しています。また、留学生向けのインターンシップを実施し、企業とのマッチング機会の拡大を図っています。



就職支援講座

ビジネス日本語講座【京都大学】

京都大学では、日本での就職を希望する留学生や外国人研究者を対象に、「ビジネス日本語講座」を2007年度から春学期及び秋学期の2期制で新たに開設しています。

この講座では、日本の会社で働くために必要な日本語の超上級スキルとしてのビジネス会話(就職活動編・社内実践編)、ビジネス用語・情報[ビジネス常識](就職活動編・社内実践編)、ビジネス文書作成(就職活動編・社内実践編)、さらにビジネスマナーを学ぶことに

より、日本国内における就職希望について支援を行っています。

プログラムの内容は実践的かつ実用性を重視し、専門的でたいへん厳しいものですが、受講している留学生などの目的意識はたいへん高く好評を得ています。今後、大学内でのキャリアサポートや地域社会との連携も含めて、ビジネス日本語講座での受講成果を日本における就職へと繋げていく体制の強化が課題です。

国立大学では、留学生を受入れて、高度な人材養成を行うための各種プログラムや事業はもちろん、卒業後に帰国する留学生や日本で新たな道へ進む留学生に対して、さまざまなフォローアップ、ネットワーク等を設けています。その大きな役割を果たしているのが、日本を含め世界各国に設けている留学生同窓会です。

留学生同窓会の事業・設置国は各大学によりさまざまですが、ここではその一部を紹介します。

留学生同窓会の設置状況

【帯広畜産大学】

帯広畜産大学では、ブラジル支部、モンゴル支部、フィリピン支部を有しています。ブラジル支部は、卒業後ブラジルに渡って活躍されている方々を中心とした長い歴史のある組織であり、2007年度に設置されたモンゴル支部及びフィリピン支部は同大学帰国留学生及びJICA帰国研修員で構成される組織です。これらの組織は、現地大学などとの国際共同研究を実施するための窓口として、また、学生の国際協力経験活動のサポーターとして重要な役割を果たしています。同大学では、JICA青年海外協力隊短期派遣制度を活用してフィリピンに学生を派遣しており、フィリピン支部等の協力の下に、2005年度から2008年度までに32名の学生が国際協力活動を体験しました。

また、帰国留学生・研修生に対するフォローアップとして、2008年9 月にモンゴルにおいて「モンゴルにおける食の安全確保ー農場から食 卓までー」と題するセミナー・ワークショップを開催しました。本事業は、 同窓会モンゴル支部の構成員が数多く所属するモンゴル国立農業 大学などの協力を得て、帰国留学生・研修員が「食の安全」に関する最新知識・技術を習得するとともに、参加者間の情報ネットワークを構築することを目的として実施したものです。併せて、現地における同大学の国際協力・国際共同研究拠点として、モンゴル国立農業大学内に帯広畜産大学モンゴルオフィスを開設しました。



モンゴルでセミナー・ワークショップ (2008年9月)

【東北大学】

東北大学の海外同窓会組織は、東北大学台湾同学会、東北大学韓国同窓会、東北大学中国校友会があります。東北大学の創立 100周年記念式典(2007年8月)には、海外同窓会組織から代表者1 2名が参加し、総長と懇談を行いました。

海外同窓会の会員数は、台湾同学会206名、韓国同窓会386名、中国校友会270名です。海外同窓会組織の活動内容は、会員の交流、母校へ留学を希望する学生への助言と支援、母校をPRするためのサポートなどです。

東北大学中国校友会は、2006年12月に設置された新しい組織ですが、中国で以前から同大学卒業生などが中心となって自主的に親睦を図っていた組織が、同大学からの同窓会設立の呼びかけに快く賛同し、同組織を発展させる形で設立したものです。

2008年12月には、「東北大学フォーラムイン北京」として、東北大学のフォーラムと合わせて総会を開催するなど、大学行事との融合が図られようとしています。



東北大学中国校友会の設立総会(2006年12月 北京)

【東京大学】

「東京大学学友会」は、東京大学の卒業生が卒業後も大学や卒業生・留学生相互でつながりを持ち続けられることを目的として2004年10月に設立され、2008年4月1日から「赤門学友会」と名称を変更し、留学生を含む卒業生全員を対象として目的を達成するためのさまざまな活動を行っており、東京大学卒業生室がその活動をサポートしています。

赤門学友会は、個別の同窓会を緩やかに組織し、現在110の登録団体のうち、海外同窓会などとして登録されているのは、アメリカ、中国、台湾、韓国、タイ、オーストラリア、フランス、オランダ、バングラデシュなどの各都市にある17団体となっています。留学生が帰国後に設立

あるいは参画する「海外同窓会等」に対して、総長あるいは役員などが出席して大学の情報を発信するなどの活動支援や設立支援のほか、卒業生と大学を結ぶオンラインコミュニティー「TODAI for tomorrow」の構築、年3回程度の卒業生向け会報誌の発行、毎年

11月のホームカミングデ イの開催をはじめとする 活動を行っています。



【徳島大学】

2008年11月30日、中国上海市で「徳島大学卒業留学生同窓会 (中国)」の設立総会を開催し、中国出身の徳島大学卒業生、修了 生、元研究者など約50名とともに同大学から学長、理事など関係者 が出席し、同窓会を設立しました。

同窓会の組織は、本部の役員として、会長、副会長、幹事、顧問、 副顧問を置き、中国各地には、支部として、北京支部、上海市部、中 西部支部、西安支部、山東支部、東北支部を置くこととし、それぞれ の支部に支部長と幹事を配置しました。また、事務局は上海市内に 置くこととしており、顧問には徳島大学長、副顧問を徳島大学国際セ ンター長と同センター教授としました。 同窓会の目的は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、会員と同大学との連携を強化し国際連携ができる組織と体制を築き、本会並びに母校徳島大学の発展に寄与することとし、その目的を達成するために、(1)会員相互の親睦と交流、(2)卒業中国人留学生等と徳島大学との

国際連携活動、そして (3)その他本会の目的 達成に必要な事業を行 うこととしています。



データベース・フォローアップ

【千葉大学】

千葉大学国際教育センター内に置かれた校友会海外部門事務局は、帰国留学生と連携した各海外支部との連絡調整や会員データベースの整備を行っており、世界に展開するネットワークを活用して、同大学の情報と支部から届くさまざまな情報を提供しています。

アジアの5都市に設立した拠点に加え、新たに5拠点の設立が既に 決定しており、現在、現地に準備事務局を置いて準備を行っています。

千葉大学校友会 海外支部



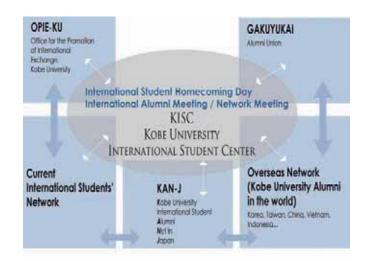
(2008年12月現在)

【神戸大学】

神戸大学留学生同窓会は1980年代後半から90年代にかけて韓国と台湾で自発的に組織され発足したのが始まりです。その後、大学としてはデータベースを整備し、「Kobe University Internationl Alumni-net」の構想を立て、「留学生ホームカミングデイ」を積極的に実施しながら卒業留学生のネットワーク構築を進めています。現在では、日本国内、中国、ベトナム、インドネシアにも卒業留学生の同窓会が発足し、各同窓会とも活発に活動を行うことで卒業後の留学生ネットワーク定着に一役買っています。

「卒業後も神戸大学とずっと一緒!」をモットーに留学生支援は、卒業後も継続されなければなりませんし、大学の無形財産という観点からも卒業留学生のネットワーク構築は不可欠です。このような卒業留学生ネットワークは、海外教育・研究拠点を形成する上にも、さらに大学の国際戦略の展開においても大きな役割を果たすもので、一層大学の支援体制の強化や連携は重要であり、これから留学生の卒業

を起点に考える「循環型留学交流」の新時代を切り開いていく必要があります。



【愛媛大学】

愛媛大学では留学生の卒業後の連絡先を収集し、データベースで管理することにより卒業生への継続的フォローアップを行っています。

また、2004年3月には、同大学の同窓生が主たる会員となって「愛媛大学校友会」が設立され、教育・研究への支援、地域社会との連携、会員相互のネットワーク構築、校友会支部や校友会館の設立事業を行っています。

現在では、中国・ベトナム・インドネシア・ネパール・マレーシアの

海外5カ国にも校友会支部が 設立されており、中でもネパール 支部はカトマンズの同大学サテライトオフィスと連携して新たな 留学生の世話や研究者の援助などを行っています。



【山口大学】

山口大学では、2007年から山口大学留学生ニューズレターを卒業した全ての留学生へ送付しています。多くの卒業生から手紙やメールで、「留学生のために何かできることがあれば、力になりたい。」、「静かな、美しい大学のキャンパスがとても懐かしいです。」などの声が届いています。また、卒業生専用のBBSを設置しています。こちらにも、多くの留学生からメッセージが寄せられています。





【お茶の水女子大学】

お茶の水女子大学は、創立120周年記念事業国際交流振興基金の事業の一環として、2002年に「アジア女性研究者支援奨学金」を設立しました。

この女性研究者支援制度は、お茶の水女子大学に学生として留学後、アジアの各地域において研究者又は各界の指導者として活躍する外国人で、リカレント・リフレッシュ研究のために来日研修を希望する者に招へい研究者として基金から奨学金を授与し、もって女性研究者支援に寄与することを目的としています。

設立された2002年 度より、ほぼ毎年に渡り、 1名を受奨者として選 考し、台湾・韓国など で、大学や研究機関に 従事する卒業生に対 して奨学金を授与して います。



アジア女性研究者支援奨学金授与式の様子

フォーラム・セミナー・講座

【山梨大学】

山梨大学では、中国医科大学、内蒙古医学院からの留学生・研修生らを中心とし、両校への医科学領域での学術交流・先端医学領域の研修指導を推進することを主旨に、それぞれ現地同窓会が発足しました。2003年からは、毎年同大学教職員が現地に赴き『先端医学

講座』を実施しています。併せて2006年に内蒙古医学院病理センターが設立された際に、病理診断のレベルアップを図るために『病理の支援プログラム』を策定し、同大学教員が支援しています。

【京都大学】

京都大学では、グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」の取り組みとして、ジャカルタにおいて、2007年7月に発足したインドネシアにおける京都大学同窓会「HAKU」の大きな支援を受け、同年11月、第1回京都大学東南アジアフォーラムを開催しました。また、2008年1月、第2回の東南アジア

フォーラムをバンコクで 開催し、タイの2つの同 窓会組織が大きな役 割を果たしました。



同窓会設立準備会参加者

【大阪大学】

大阪大学では、2008年10月31日に、東南アジア(大学間)学術交流協定大学副学長会議を開催し、インドネシア(1:カッコ内は大学数)、フィリピン(3)、タイ(7)、およびベトナム(2)の計13大学(大阪大学を含む)、1機関からの参加がありました。この副学長会議は、大学間協定をより実質的なものにするため、初めて開催されたもので、同大学をはじめ協定大学の国際交流の理念を相互紹介すると共に、実施している留学生招へいプログラムや学生派遣プログラムの情報の共有化を図りました。今後もこのような会議を開催し、学生のモビリティーの活発化を図りたいとの結論をまとめました。

また、翌11月1日には、第3回目の大阪大学バンコク公開講演会

「続々感染症から私たちの身を守る」を、微生物病研究所がタイで運営している日タイ感染症共同研究センターとの共催で開催し、会場が

ほぼ満席となる183名 の来聴者が熱心に聴 講しました。



東南アジア学術交流協定大学副学長会議の様子

産学官連携

【福井大学】

福井大学では、産学官連携の取組みとして、2007年に、産学官連携ネットワークを中国にも広げようと上海支部の16名が来日、福井県内企業との商談会や工場訪問を通して、交流を深めました。企業のトップを務める卒業留学生が学部4年生をインターンシップとして受入れることが企画されています。

2008年には、福井県若狭町観光振興事業支援のため、「若狭観光モニターツアー」に西安支部から7名が来日しました。民宿に宿泊し観光地を訪問した後、シンポジウム「若狭町観光振興いかにあるべきか」に全員パネラーとして参加し、観光地への外国人誘客について意見交換しました。







若狭観光事業支援「シンポジウム」

留学生ホームカミングデー

【横浜国立大学】

横浜国立大学では、国内在住の元留学生と在学留学生との交流を目的とした留学生ホームカミングデーを2003年度から毎年11月に行っており、2008年度は大学全体のホームカミングデーと同じ日に第6回を開催しました。ゲスト講師には、北京同窓会長の胡教授(清華大学)を招き、環境科学における日中共同研究の進展についてご講演いただきました。また、国内企業に就職している留学生OBからは、日本の会社で働く際の注意点など、自らの経験に即した実践的なアドバイスをスピーチしていただきました。



2008年度留学生ホームカミングデー

【神戸大学】

神戸大学では、「人・知・還流」を理念に、2002年から始まった「留学生ホームカミングデイ」が、2008年度も留学生をはじめ250名が参加し開催されました。

今回は、3つのテーマで進められ、留学生ネットワーク強化を目的とする「留学生ネットワークの紹介」、現役留学生と卒業留学生の緊密な関係づくりを目的とする「先輩との対話-ようこそ先輩!神戸大学へ」、

留学生同士、日本 人と留学生との交 流を目的とする「知 り合う、学びあう世 界」で構成されまし た。参加者の顔ぶ れも留学生だけで



はなく、その家族や友人、また日本人の卒業生や近隣住民も参加し、 賑やかな雰囲気の中で行われました。

留学生ホームカミングデイは、日頃取り組んでいる留学生ネットワーク 構築拡大強化のほかに、留学生には大学との絆を深める効果があり、 大学や「学友会」にとっては留学生が神戸大学の構成員としての認

識をより高める良い機会です。今後お互いが連携を強化し、更なる発展を期待するものです。



留学生ホームカミングデー(2008年)

第 4 章

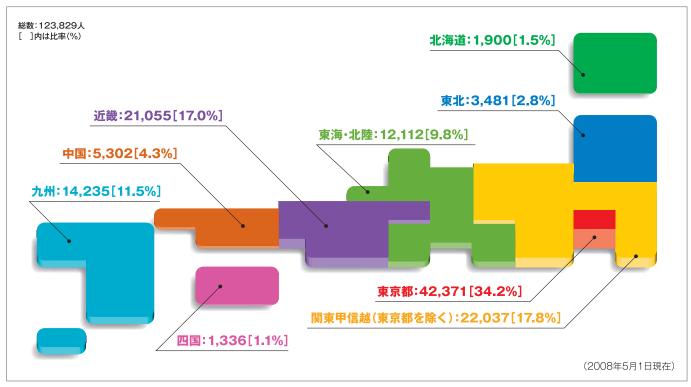
留学生関連データ

地方別留学生数/国費外国人留学生数 海外拠点の設置状況/ 日本人学生等の海外留学者数の推移 宿泊施設等の生活基盤の状況

第4章 留学生関連データ 地方別留学生数/国費外国人留学生数

地方別留学生数

大学・専門学校などに在籍する留学生数を地方別に表しています。 東京都と関東甲信越を併せた留学生数は総数の50%を超え、首都圏 に集中しているのが実態です。なお、5,000人以上の留学生が在籍する 都道府県は、東京都(42,371人)の他に、大阪府(10,289人)、福岡県(6,613人)、愛知県(6,131人)、千葉県(5,566人)、埼玉県(5,444人)となっています。

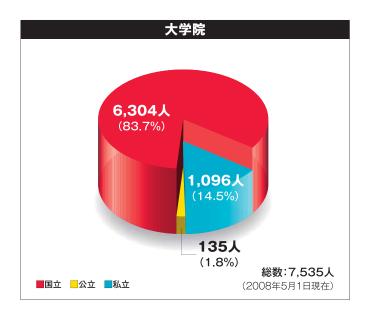


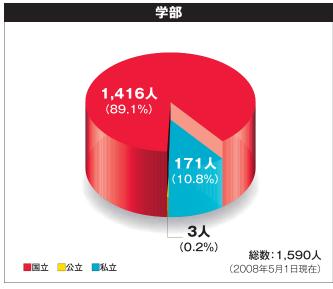
出典:文部科学省、(独)日本学生支援機構

国費外国人留学生数

国費外国人留学生制度は、1954年に創設され、研究留学生、教員研修留学生、ヤング・リーダーズ・プログラム留学生、学部留学生、日本語・日本文化研修留学生等のプログラムにより構成されています。世界

各国の大使館(在外公館)から推薦された留学生や大学間交流協定などにより派遣される優秀な人材を、国立大学は80%以上受入れており、各国の政策に応える意味でも貢献をしています。



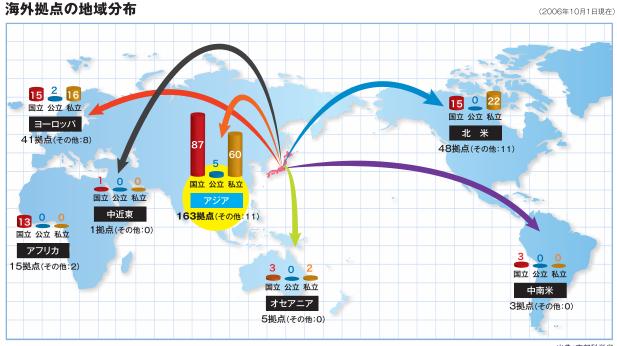


出典:学校基本調査2008

海外拠点の設置状況

海外拠点とは、我が国の大学などが、教育及び学術研究などの国際交流に資するために海外に設置している教育施設、研究施設、事務所などで、現地における教育の提供、現地の大学や企業との共同研究の実施及びサポート、現地の留学生や研究者受入れに向けたり

クルート活動などを主な役割としています。国立大学はアジアを中心として、世界に137拠点を設置し、海外拠点全体(276拠点)の約50%を占めています。



出典:文部科学省

日本人学生等の海外留学者数の推移

日本から海外への留学者数を表しています。全体として海外への留学者数は増加しているものの2003年・2005年では減少しています。また

海外からの留学生受入れが12万人を超えていることに対して、日本から海外への留学生数は約8万人(2005年5月現在)に留まっています。



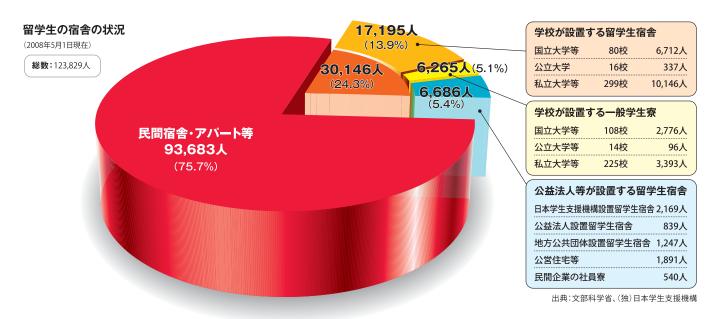
出典: ユネスコ文化統計年鑑<1983年~1999年>、OECD調べ、IIE<OPENDOORS>、中国教育部調べ等<2000年~>

第4章 留学生関連データ 宿泊施設等の生活基盤の状況

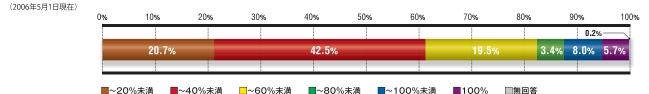
宿泊施設等の生活基盤の状況

上の円グラフは留学生全体の宿舎の状況であり、約76%を民間宿舎・アパートなどが占めています。下の棒グラフは、2006年5月1日現在の全国立大学(当時:87大学)に実施したアンケート結果です。留学生

の40%を宿舎に収容できない大学が3分の2近くあり、100%収容できると回答した大学は6%に達しません。今後の留学生受入れ拡大に当たって、生活基盤となる宿舎の確保が大きな問題となっています。

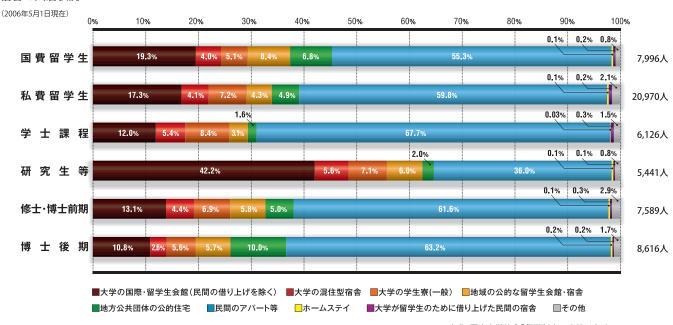


宿舎に入居可能な留学生の割合



出典:国立大学協会「留学制度の改善に向けて」

宿舎の入居状況



出典:国立大学協会「留学制度の改善に向けて」

memo

各大学の窓口・連絡先一覧

大学名	窓口・連絡先	電話番号	e-mail アドレス
北海道大学		011-706-2610	kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
北海道教育大学	総務部総務課総務・広報グループ	011-778-0231	koho1@sap.hokkyodai.ac.jp
室蘭工業大学	企画·評価室企画調査係	0143-46-5024	koho@mmm.muroran-it.ac.jp
小樽商科大学	総務課総務係	0134-27-5206	kouhou@office.otaru-uc.ac.jp
帯広畜産大学	企画総務部 総務課	0155-49-5228	kouhou@obihiro.ac.jp
旭川医科大学	総務部総務課広報調査係	0166-68-2139	somu-koho@jimu.asahikawa-med.ac.jp
北見工業大学	企画広報課広報担当	0157-26-9116	soumu05@desk.kitami-it.ac.jp
	総務部総務課広報・支援グループ	0172-39-3012	jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp
岩手大学	総務企画部総務広報課	019-621-6015	kkoho@iwate-u.ac.jp
東北大学	総務部広報課	022-217-4848	koho@bureau.tohoku.ac.jp
宮城教育大学	総務室広報·危機管理担当	022-214-3453	koho@adm.miyakyo-u.ac.jp
	総務部広報課	018-889-3019	kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
山形大学	総務部広報ユニット	023-628-4008	sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
福島大学	企画部門企画総括グループ	024-548-5190	kouho@as1.adb.fukushima-u.ac.jp
東京大学	本部広報グループ	03-3811-3393	kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
東京医科歯科大学	総務部総務課文書広報掛	03-5803-5011	kouhou.adm@tmd.ac.jp
東京外国語大学	企画広報課広報係	042-330-5150	kikaku-koho@tufs.ac.jp
東京学芸大学	総務部企画課広報室	042-329-7116	kouhouty@u-gakugei.ac.jp
東京農工大学	広報・社会貢献チーム	042-367-5930	koho2@cc.tuat.ac.jp
東京藝術大学	総務課参事役付企画評価·広報室	050-5525-2026	joho@ml.geidai.ac.jp
東京工業大学	総務部評価・広報課広報・社会連携グループ	03-5734-2975	kouhou@jim.titech.ac.jp
東京海洋大学	総務部総務課広報室	03-5463-0355	so-koho@kaiyodai.ac.jp
お茶の水女子大学	学術・情報機構広報チーム	03-5978-5105	info@cc.ocha.ac.jp
電気通信大学	入試・広報課	042-443-5019	kouhou-k@office.uec.ac.jp
一橋大学	学長室	042-580-8032	gakuchositu 3@ad.hit-u.ac.jp
政策研究大学院大学	企画課企画担当	03-6439-6016	kikaku@grips.ac.jp
茨城大学	総務部総務課広報係	029-228-8008	soumu-pr@mx.ibaraki.ac.jp
	広報室	029-853-2062	kohositu@sec.tsukuba.ac.jp
筑波技術大学	総務課広報·公聴担当	029-858-9424	kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp
宇都宮大学	企画広報室	028-649-8649	plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
群馬大学	総務部総務課広報調査係	027-220-7010	s-public@jimu.gunma-u.ac.jp
埼玉大学	総務部総務課広報係	048-858-3932	koho@gr.saitama-u.ac.jp
	企画総務部総務課広報グループ	043-290-2018	bag2018@office.chiba-u.jp
横浜国立大学	総務部広報·渉外室	045-339-3016	koho@nuc.ynu.ac.jp
新潟大学	総務部総務課広報係	025-262-7000	info-nu@adm.niigata-u.ac.jp
長岡技術科学大学	総務課広報係	0258-47-9209	skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp
上越教育大学	広報室	025-521-3626	kouhou@juen.ac.jp
山梨大学	総務部総務・広報課広報グループ	055-220-8006	koho@yamanashi.ac.jp
信州大学	広報・情報室	0263-37-3056	kouhou@shinshu-u.ac.jp
総合研究大学院大学	総務課広報係	046-858-1590	kouhou1@ml.soken.ac.jp
富山大学	総務部広報グループ	076-445-6027	kouhou@u-toyama.ac.jp
金沢大学	総務部総務課広報企画係	076-264-5024	koho@ad.kanazawa-u.ac.jp
福井大学	総務部総務課広報係	0776-27-9733	koho@sec.icpc.fukui-u.ac.jp

大学名	窓口・連絡先	電話番号	e-mail アドレス
		058-293-2009	kohositu@gifu-u.ac.jp
静岡大学	総務部総務・企画チーム	054-238-5179	koho@adb.shizuoka.ac.jp
	総務部総務課文書法規係	053-435-2114	ssb@hama-med.ac.jp
<u></u>	広報室	052-789-2016	kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp
	総務部総務課	0566-26-2196	syomu@auecc.aichi-edu.ac.jp
	総務部企画課	052-735-5647	kouhou@ml.nitech.ac.jp
豊橋技術科学大学	広報室	0532-44-6506	kouho@office.tut.ac.jp
三重大学	総務部広報チーム	059-231-9744	koho@ab.mie-u.ac.jp
——// · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	広報室	0761-51-1031	kouhou@jaist.ac.jp
滋賀大学	総務課広報室	0749-27-7524	koho@biwako.shiga-u.ac.jp
滋賀医科大学	企画調整室	077-548-2012	hqsuisin@belle.shiga-med.ac.jp
		075-753-2070	kohho52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
	企画広報課企画広報グループ	075-644-8125	koho@kyokyo-u.ac.jp
京都工芸繊維大学	企画広報課 企画広報課	075-724-7017	ab7016c@jim.kit.ac.jp
大阪大学	企画部広報·社学連携事務室	06-6879-7017	kikousyagakukouhou@ns.jim.osaka-u.ac.jp
/////////////////////////////////////	企画課企画係	072-978-3344	kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
 兵庫教育大学	総務部企画課	0795-44-2334	office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp
~ 神戸大学	企画部社会連携課広報係	078-803-5022	plan-kouhou@office.kobe-u.ac.jp
	企画·広報室	0742-27-9104	kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp
宗良女子大学 奈良女子大学		0742-20-3220	somu02@jimu.nara-wu.ac.jp
	企画総務課広報係	073-457-7010	koho@center.wakayama-u.ac.jp
奈良先端科学技術大学院大学	教育研究支援部企画総務課広報渉外係	0743-72-5026	s-kikaku@ad.naist.jp
	総務部総務課広報企画室	0857-31-5750	toridai-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp
	総務部総務課企画・法規・広報グループ	0852-32-6603	jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp
	総務・企画部総務課広報係	086-251-7292	aag7017@adm.okayama-u.ac.jp
	学長室広報グループ	082-424-6017	koho@office.hiroshima-u.ac.jp
公國八子 山口大学 山口大学	総合企画部広報チーム	083-933-5007	koho.yu@yamaguchi-u.ac.jp
ニーステ 徳島大学	総務部秘書課	088-656-7021	hisyohosa@jim.tokushima-u.ac.jp
	※務部企画課企画・評価・広報チーム	088-687-6029	ski.kohou@jim.naruto-u.ac.jp
	広報センター	087-832-1027	soumkot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
<u> </u>	広報室 広報室	089-927-9022	koho@stu.ehime-u.ac.jp
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	広報室	088-844-8643	kh13@kochi-u.ac.jp
		0940-35-1205	kohocho@fukuoka-edu.ac.jp
福岡教育大学	総務課広報係		- 7
九州大学	広報室	092-642-2106	koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州工業大学	総務課広報企画係	093-884-3007	sou-kouhou@jimu.kyutech.ac.jp
佐賀大学 	広報室 	0952-28-8153	sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp
長崎大学	総務部総務課総務班	095-819-2018	kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp
熊本大学 十分七学	企画部企画課広報室	096-342-3119	sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
大分大学	研究・社会連携課社会連携グループ	097-554-7376	koho@ad.oita-u.ac.jp
宮崎大学	企画総務部総務課秘書広報室	0985-58-7114	kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp
鹿児島大学	総務部総務課広報室広報・情報公開係	099-285-7035	sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jp
鹿屋体育大学	総務課広報サービス係	0994-46-4819	kouhou@nifs-k.ac.jp
琉球大学	総務部総務課広報·情報室企画広報係	098-895-8175	kohokoho@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

#### 国立大学の留学生

2009年3月発行

編集発行 社団法人国立大学協会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

電話 03-4212-3506(代)

FAX 03-4212-3509

制作・印刷 株式会社東報エージェンシー